

香港中文大學日本研究學系

# 2013-14 年度 日本鹿兒島暑期日語研修課程



2014年6月20日(五)至6月30日(一)



## • 目錄 •

I.	活動行程	3
II.	學生報告	
	1. 陳詩惠	4
	2. 張焯灃	8
	3. 張倩珩	12
	4. 趙星而	15
	5. 莊佩儀	19
	6. 鍾沛彤	21
	7. 范文熙	24
	8. 李凝曦	26
	9. 梁配玲	29
	10. 李嘉麗	32
	11. 李穎欣	37
	12. 林敏玲	41
	13. 黃智琳	43
	14. 黃家豪	45
	15. 王瑩	48
	16. 黃愷之	50
	17. 楊寶雅	52
	18. 葉可兒	55
	19. 葉韜	58
III.	相片花絮	62

## 活動行程

月日		午前	午後
6/20	週五	鹿児島入り	開講式 オリエンテーション ホームステイの日本語
6/21	週六	ホームステイ対面式	
6/22	週日	ホームステイ & 懇親会	
6/23	週一	ホームステイ礼状	日本文化 1
6/24	週二	視察研修 (桜島 など)	
6/25	週三	交流会準備	日本文化 2
6/26	週四	小学校交流	体験活動
6/27	週五	民族館視察	大学生間交流 「鹿児島探訪」準備
6/28	週六	「鹿児島探訪」 鹿児島大学の学生との鹿児島探訪	
6/29	週日	「鹿児島探訪」まとめ	発表 閉講式
6/30	週一	午前退所（※正午ごろ、鹿児島空港にて解散）	

## 1. 陳詩惠



2014年6月19日、我々は日本文化と日本語を研修に鹿児島へ行きました。到着した時、カピックセンターの職員大久保さんは空港に待っていました。そして、私たちと一緒にバスでカピックセンターへ迎えました。その時、大久保さんは親切にカピックセンターと明日の予定を簡単に紹介しました。ですから、私は初めて日本に行きましたし、日本語もあんまり上手ではないのに、不安と緊張感がなくなりました。代わりに、明日とこれからの活動を期待しました。



それから、研修の一日目が始まりました。最初の日ですから、ゆっくり過ごしました。朝にオリエンテーションをしたり、午後にホームステイの話をしたりしました、香港の早すぎるペースと全然違って一日を過ごしました。時間がありましたので、私たちはカピックセンターの近くに散歩しました。大変綺麗な景色が見えました。多い紫陽花があり、青いや紫色やピンク色や色々な種類がありました。私たちは喜んで、いっぱい写真を取りました。それに、どこにも緑が見えて、川もありました。川で釣りをする人もいました。香港のどこにも人や車や高いビルの景色と違い、鹿児島は別の意味によってにぎやかでした。その自然の美しさが私たちに喜ばれました。



次の二日間、ホームステイが始まりました。私のホストファミリーは札谷敬子さんという六十代の女性の方でした。最初、ホストファミリーは一人の年上女性のことを知らせて、交流することはちゃんとできるかなを心配しました。けれど、敬子さんと会い、大変おしゃれで懇篤な女性で、すぐ安心されました。敬子さんは免許を持っていないで、私を外に連れていくことは不便なので、他のホストファミリーと一緒に行動しました。ホストファミリーの方は私たちのためにお茶を作る体験を申し合わせました。お茶は中国から物だったのに、私も初めてお茶を作ってみました。お茶を作ったり、お茶の木の天麩羅を食べたり、職人さんにお茶の話を聞いたり、お茶や中国文化や日本文化の知見を広げました。お茶の木のから作る天麩羅も初めて聞いて、初めて食べて、少し辛くて塩くて香りがいい、おいしかったです。その時に作ったお茶はお土産に香港に持って帰って、家族も愉しかったです。そして、皆は温泉へ向かいました。日本の温泉は水着を着たまま入ってはいけないことも知っていましたし、温泉の温度が大変熱いのも心配しましたし、始めに恥ずかしさと悩みも少々ありました。しかし、温泉に入って、他のお客さんは私たちと親切に話し掛けて、温泉の楽しさ感じでした。よかった体験と思いました。もうすぐ晩御飯の時間がなくなって、私たちはおうちでカレーを作りに戻りました。日本の子供たちは毎日ご飯を作り手伝えそうで、優しさに感動しました。ご飯の後子供たちと話して、同じ興味・アニメや漫画を持っていることを知っていました。嬉しかったです。次の日、雨が降って桜島へ行けなくて残念でした。代わりに、朝にホストファミリーの中学校の子供の親子活動に参加して、午後にラーメン屋と買い物に行きました。研修スケジュールの中に、保育園と小学校と大学の交流会もありますが、中学校との交流はありませんでしたから、中学校へ参観するのは期待しました。中学生と一緒にリラックスな時間を過ごしました。ホストファミリーから「何が食べたいですか？」質問して、私は「ラーメンが食べたいです。鹿児島有名な黒豚ラーメンが食べたいです。」と答えて、ホストファミリーは驚きそうでした。ラーメンは中国から食べ物で、まさか食べたいんで、驚きました。私もその時気ついて、確かにラーメンは中国から食べ物なのに、どうしていつも日本の特別な食べ物とと思ってますかな。自分の出身地のことをもっと考えるほうがいと反省しました。色々なことがあったけど、すべては素晴らしかった経験と思いました。日本の文化と民間生活の知識がもっともっと増えました。凄い楽しかったです。



一泊二日のホームステイは短かったで、寂しかったですけど、私たちは連絡を交換してまた連絡して約束した後、別れました。ホームステイは大変面白かったですが、疲れりました。そしたら、その後の一日、私たちはカピックセンターにいて、大黒小学校と鹿児島大学の交流会を準備したり、お寿司と鹿児島の名物さつま揚げを作ってみたりしました。私は初めてお寿司を作ったので、お寿司を巻くが苦手で、綺麗に巻くはできませんでした。だが、面白かったと思いました。さつま揚げは初めて聞いたけど、鹿児島県内も県外も凄い有名だそうです。食感や香港の「魚蛋」似てますが、それ以上においしかったです。後日、午前私たちは保育園の小さい子供たちと七夕交流しました。七夕は中国から節句ですが、違いがあるそうです。日本の七夕の伝説に、織姫と彦星は結婚後さぼりましたから、別れさせられたそうです。面白かったと思いました。午後、私たちは近くにある民族館へ見学しました。民族館には色々なアジアの国の楽器やおもちゃや服装がありました。私たちは楽しんで他の国の伝統的な服装を着いて、館長の Marty さんの説明を聞きました。多い楽器があるから、Marty さんは「皆一緒にアンサンブルをしよう」と提案しました。我々は日本語と広東語で London Bridge Is Falling Down やドラえもん の主題歌を歌いました。本当に楽しかったです。

その後、ようやく大黒小学校との交流会が行われました。始めに、小学校を参観しました。香港と同じで、日本の小学校は六年級がありました。しかし、大黒小学校は毎年級組が一つだけあって、毎組五人ぐらいいました。香港の学校より人数ははるかに少ないでした。日本の小学校の教育課程と香港も違いがありました。家庭教科は香港にはありませんので、有意義と思いました。続いて、皆は体育館に集まって、私たちが香港を子供たちに紹介しました。そして、小学生たちは私たちに日本のゲームを紹介して、皆一緒に遊びました。そのゲームは「落ちた落ちた」と言いました。出題の方が「落ちた落ちた」言って、相手は「何が落ちた」と返事して、出題の方が「りんご」とか「雷」とか「飴」とか答えて、相手は対応の動作をします。出題の方は「りんご」と呼みながら、雷の動作をする場合もありましたから、面白かったゲームで

す。楽しんでゲームをした後、私たちは別々なクラスに分かって昼ご飯を食べながら話しました。日本の小学校には六年生は小さい子のクラスで昼ご飯の配るを手伝う制度があるそうで、クラスのみんなも順番でご飯を配るそうです。ご飯を食べ終わった時、小学生たちは自発的に掃除をしたり、牛乳パックを回収したり、歯を磨いたりしました。私たち香港の学生の皆はその品性を嘆かれました。香港の小学生もこういうならばよかったと思いました。最後に、全員が遊び場に遊びました。愉快的時間を過ごしました。だが会うは別れの始め、さようならの時、私たちはとっても寂しかったですが、次の場所へ向かいました。ブルーベリー農園に行きました。未熟でピンクで可愛かったブルーベリーときれいで紫色のが見えました。その農園に植えるブルーベリーと香港で買えるのは味が全然違って、皆も驚きました。後で、我々は黒豚を食べる体験に三清屋という料理店へ行きました。その店の近くに、羊を飼いました。女の子たちはいっぱい写真を取って、楽しかったです。隣に緑が多くて、私もその自然を感じて、嬉しかったです。美味かった晩御飯を食べた、私たちはカップクセンターに帰りました。

一日中外で活動をしたので、次の日に私たちはカップクセンターにいました。午前、ホストファミリーの回礼にお礼状を書きました。カップクセンターの下松さんは私たちに日本の手紙の書き方を教えてあげました。日本語があんまり上手ではありませんので、感謝の気持ちをちゃんと伝えられるかどうかわかりませんが、絵を描きみしました、心より「ありがとう」の言葉を頑張って伝達しました。香港に帰った時、もう一度手紙と小さな贈り物を送るつもりです。午後に、私がずっと期待する着物を着く体験ついに行いました。きれいに和服を着く女性の三人の方はカップクセンターに私たちに着物の知識を教えるために来ました。先生方は和服のことを詳しく教えました。そしたら、和服の種類の一つ、小紋を持ってきて、その着き方を教えました。着物の着き方は大変難しかったです。日本人も一人で着けないそうです。けれど、先生方は親切に私たちに手伝えましたから、皆もきれいに着きました。ちなみに、男子の和服は女子のよりそんなに着きにくかったそうです。男子たちは私たちに1時間ぐらい待っていたそうです。皆の和服姿も素晴らしかったと思いました。たくさん写真を取りました。



明日の朝、私たちは高齢者との交流会をしました。鹿児島には特別な言葉があることが知っていましたが、一体どういう言葉が知りませんでした。そして、交流会に、高齢者の方に鹿児島弁を教えてもらいました。今は少しだけ記憶が残りました。例えば、兄は鹿児島弁で「あによ」と言いました。韓国の挨拶言葉と似てました。面白かったと思いました。高齢者と素敵な時間を過ごしました。その後、私たちはカップクセンターに帰って、鹿児島大学の学生たちと会いました。大学生の皆さんも凄くおしゃれだと思いました。それに、同じグループの学生たちと話して、同じ趣味を持ってたりそうでした、楽しかったです。



それから、鹿児島大学の学生たちは私たちに鹿児島市内に観光に連れていきました。鹿児島の名物「しろくま」というアイスを食べました。食べる時、鹿児島大学のチオさんは「早すぎて食べたので、頭が痛い」と言いました。私はそういうこと初めて聞いたから、驚きました。確かに、日本の学生さんのほうが私たちより早くに食べました。ですから頭が痛くなれるかもしれせんと思いました。後、皆は観覧車を乗りました。初め

で観覧車に乗ったから、ちょっと怖かったと思いましたが、きれいな景色が見えました、嬉しかったです。次いで水族館へいきました。たくさん面白かった生物が見えました。仮に、「おじいちゃん」という魚や姿が天麩羅みたい魚が見えました。一日の時間は短かったです。それから全員はカッピクセンターに帰りました。次の朝、私たちは鹿児島市内との観光の経験をまとめて昼に発表しました。他のグループの体験は素晴らしかったと思えました。皆もいい所に来ました。その後、残り時間が少しありましたから、皆は民族館へ行きました。私たちは二度行きましたけれど、鹿児島大学の学生たちは楽しそうでしたから、私たちも楽しかったです。最後に、「また連絡してね!」と言って、鹿児島大学の学生たちと別れました。私たちも別々な所へ行きました。

今度の研修はとってもとっても楽しかった経験だと思います。日本文化と生活ももっともっと見聞きますし、日本の友達もつくりしましたし、素敵な体験だと思います。その思い出を絶対忘れないように、大事にします。

### Short summary:

We began our exchange voyage of 12 days to Kagoshima on 19 June 2014. As it was the first time I went to Japan, in addition to my Japanese level, I was both excited and nervous. Yet, these worries were proved unnecessary as soon as I arrived Kagoshima. The staffs from the Kopic Centre were very nice and friendly, especially Ms. Ookubo had tried to speak slowly to foster our understanding. Nonetheless, the environment there was gorgeous. We could see so many trees and hydrangea and river, very clean and fresh. In such environment we stayed 12 days full of happy moments. For example, we had been for homestay of 2 days and a night. It was the first time I joined homestay and the experiences were so unforgettable that I would like to try again for other homestay experiences. Although 2 days and a night were really a short time, such experiences were definitely remarkable: I had tried hot spring, making traditional Japanese tea, tasted Japanese style of living and more. I do acquire more knowledge regarding Japanese history and culture, which added many meanings to this trip. The host family had really taken a lot of care of us, hoped that there will be chances that I can go back Kagoshima to find them and they travel to Hong Kong. Apart from homestay, many other activities had become a great part of my memory as well. For instance, we had tried to make sushi and the unique food in Kagoshima-Satsuma-fried さつま揚げ. Nevertheless, we had worn Japanese traditional clothes 和服, and I like such kind of clothing very much. We had been to Blueberry farm and found that the blueberries were different from Hong Kong. We had tried the famous Kurobuta of Kagoshima. Besides, we had lots of exchanges with different groups of people, from Kindergarten children to Primary school students, from University students to elderly. Conversations with these groups of people were unlike definitely, for instance we could not have deep communication with Kindergarten kids, but they were all common in one thing, which all of us were delighted talking with them. We learned about Tanabata Festival in the exchange with kindergarten children, discovered there were discrepancies between Chinese and Japanese versions of the Festival, made wishes and played with the kids happily. We learned about the game 'ochitaochita' when exchange with Primary school children, and the education style of Japan, how they differed from Hong Kong. We were amazed by how caring the Primary school kids were on one hand, and how playful they could be on the other hand. We learned some vocabularies of Kagoshima language when exchange with the elderly, and the interesting background for the reason Kagoshima had developed such distinct language from the standard Japanese. We spent a day out plus one and a half day preparing for and summing up the outing with students from the Kagoshima University last but not least. Luckily we can be friends at last and such memories are cherished all the times. I enjoyed this trip very much, and many thanks to the organisers for bringing such a brilliant experience to us.

## 2. 張棹濃

### 前言

其實我是早在去年暑假由一位參加過同一暑期研修計劃的學兄告知我有這研修計劃的存在的。得知有這個計劃的存在和做了一點的資料搜集後，一向喜愛日本文化的我便立定決心，要好好利用我 Year 2 的時間學好日文，然後報名參加今年度的暑期交流計劃。幸運地，我被選中了與其他 18 名團友一起渡過這 11 日 10 夜難忘的旅程。今次的暑期交流計劃其實是我第三次來到日本，而鹿兒島則是頭一啟。對上兩次的日本之旅都是典型的都市觀光購物旅行。

而這次，則讓我感受到一個截然不同的日本。

### ジャーニーが始まるよ！

6月29日早上，我們一行20人由香港國際機場出發前往東京成田空港，然後搭巴士到羽田空港轉乘內陸機到鹿兒島空港。但當我們到羽田空港時，我們遇上了第一件突發事件...很可惜，我們其中一名團友 Eric 因身體不適而不能繼續前往鹿兒島。但路還需走下去，安排好 Eric 的事宜後，我們一行 19 人趕上了內陸機，大概在當晚 10 時左右到達鹿兒島空港。一到接機大堂，就見到了來接我們的 KAPIC Centre 職員大久保，在確認人數後我們亦隨即登上旅遊巴士前往 KAPIC Centre，大概在 11 時 30 分到達 KAPIC Centre。

經歷了一整天的舟車勞頓後，大家都累死了，到達 Centre 後立即回到自己的房間休息，養足精神去迎接明天的行程。6月30日，是本次研修正式開始的第一天。早上舉行了簡單的開幕式，下午便是為ホームステイ做最後準備的日語課。因為接下來的兩日一夜，便是日本家庭的ホームステイ體驗了。



### 初めてのホームステイ！

7月1日的早上，是ホームステイ的對面式，這意味著每人都會俾分派到安排好的家庭進行兩日一夜的ホームステイ。與其他的活動不同，其他活動時日語有不明白的地方可以問日語較好的團友，但ホームステイ的時候有任何問題都只能靠自己的一把口、一雙手去解決。而喜歡接受新事物的我，對今次的ホームステイ亦抱著很大的期待。但同時間，亦有點擔心會因為自己日語水平的不足，而帶來很多的溝通問題。但很快便發現這些憂慮都是多餘的。接待我的 Host Family 是二人家族的福留家，主人是福留榮行，妻子是福留むつ子。主人福留さん是一名農夫，而むつ子さん則是一名護士。在ホームステイ的對面式上「相認」一刻，福留さん便立即送我一張日本足球國家隊的遊戲卡。本身喜歡足球的我收到時十分驚喜，雖然不是什麼名貴的禮物，但是已經能夠感受到福留さん的一份心意。另外，基於工作的關係，むつ子さん未能出席ホームステイ的對面式。對面式後，福留さん隨即帶我上他的車，意味著兩日一夜的ホームステイ的開始。福留さん並沒有立即載我回到他的家。在坐車途中，我們開始互相認識一下大家，話題圍繞著大家的家庭和日本與香港的分別。這次是我第一次日本從日本人口中去了解香港，感覺十分新鮮。在日本人眼中，維港的夜景、李小龍、成龍、小籠包是香港最有名的。

另外，因為我的日語水平不太高，福留さん會故意說慢一點，好讓我更容易去了解他想說的話。當有一些我不明白的日語時，福留さん特地戴了一部快譯通，把他想說的輸入，然後轉成中文給我看，這大大加強了我們之間的溝通。一路談著，就到達了我們的第一站-模型店。我們的第一站不是福留さんの家，可能因為福留さん知道我的興趣是模型，福留さん戴我去了附近的模型店走走。之後，福留さん也戴我去了單車店和電器店走走。

接著我們便回到福留さんの家，福留さんの家是日本傳統的「一軒家」。一進入房子便有很舒適的感覺，雖然說不上十分整潔，但十分偌大，與香港的房子有很大的對比。原來むつ子さん已經完成工作回到家中



等待著我們了。與むつ子さん會合過後，言談間むつ子さん問我喜歡吃什麼的日本料理，而我最喜歡的日本料理是拉麵和壽司，於是福留さん戴我到志布志市的一家拉麵店用膳。むつ子さん說這家拉麵店在附近頗有名氣的。這次是我第一次吃地道的鹿兒島拉麵，與平時在香港吃的豬骨湯拉麵不同，這次的拉麵湯底清淡鮮甜，十分好吃呢。

吃過午飯後，我們到了附近的超市閒逛了一會，買了點日用品後，福留さん便戴我到宮崎縣的總合農業試驗場觀賞一年一度的 JACARANDA FESTIVAL 2014。花展中我們一同觀賞了來自世界各地的花，觀賞途中むつ子さん亦十分體貼的特地運用簡單的日語去介紹各樣的花朵植物，讓我對這些花朵植物有更深入的了解。可惜的是，由於當天的天氣不太好，我們沒有逗留太耐便走了。福留さん說，如果天氣好的時候，這裡的景色十分漂亮的。下次有機會時，我一定再來這裡一敞呢。

當我們回到志布志市時已經是晚飯的時間了，福留さん記得我說過最喜歡的日本料理其中一項是壽司，特地戴我到志布志市的一家壽司店用膳呢。雖然在香港都經常可以吃到壽司，但在日本吃壽司，不但吃到美味的壽司，亦感受到日本人好客的精神呢。

用過膳後，我們便回到了福留家。我們在客廳閒聊了一會，說起了原來福留家擔任外國學生的 Host Family 已經有十餘年了，亦談起了以前在福留家 homestay 的學生呢。言談間發現福留さん原來沒有 E-mail 的，因此我幫他開了一個新的 E-mail Account，以方便我們日後的通訊。我們一直聊到 11 時左右才入睡，談到了不少的話題如日本文化，旅遊等，真是十分愉快的一天呢。

第二天的早上我們吃過むつ子さん整的早餐後，福留さん便戴我到霧島浸溫泉。這次是我第一次浸溫泉，之前兩次到日本一直都想試，但一直都沒有機會，今次終於有機會了。浸溫泉時，福留さん向我介紹了各式各樣的溫泉和其功效，令我對溫泉有更深的認識。雖然溫泉水十分熱，但是浸完後有渾身舒暢的感覺。浸完溫泉後，我們在霧島用過一餐美味的黑豚料理後，便啟程回 KAPIC Centre 了。

兩日一夜のホームステイ就在歡送會的一片歡呼聲下結束。

在道別的時候，我不禁回想這兩日一夜ホームステイ的片段。雖然與福留家相處的時間不算很長，但我十分感激他們對我無微不至的照顧，這兩日一夜のホームステイ已經成為了我人生中重要的回憶。我答應了他們，未來一定要跟自己的家人一起再來鹿兒島，一起燒烤玩樂呢。



#### 日本文化研修: 日本料理を作る、着物

在這 11 日中，我們有兩個十分有趣的日本文化體驗，分別是日本料理製作和着物試穿。第一個是學習製作簡單的日本料理，我們分為 4 至 5 人一組，師傅首先教導我們簡單的壽司和手卷的製作技巧，之後讓我們自己製作，手工不濟的我們製作了很多奇型怪狀的壽司和手卷，師傅路過時忍不住要出手幫助呢。另外，我們亦學習了如何製作薩摩揚げ。經過了兩小時左右的努力，終於可以開餐了，味道還算不錯。

至於第二個體驗則是着物試穿，在着物試穿前，老師向我們介紹各式各樣的着物，我們都驚嘆原來着物都有著很大的學問呢。接下來就是着物試穿的環節，原來穿着物的次序十分講究，所有人花了不少時間才穿好自己的着物。在穿好着物後，大家都搶著拍照留念，這是一次十分有趣的經驗。



## 大黑小學校小學生、鹿兒島大學生と交流しましょう!

6月25日的上午，我們一行人出發到大黑小學校進行交流。一到達大黑小學校，我們放下行李後，就前往了參觀各班級的上課情況。各班的人數十分少，最少的一班只有4人，是名副其實的小班教學呢。

其後，我們一行人到了禮堂，以簡單的日語做了一個介紹香港的簡報，然後就與學生一起玩遊戲。小學生們玩遊戲的時候都十分好動，這讓我感覺到自己已經老了(笑)，玩一些簡單的遊戲都可以令他們十分開心，這不禁令我想起香港的情況，現在香港的小學生大都一機在手。相比之下，日本小學生的生活簡單快活得多呢。玩過遊戲後，我們被分配到不同的級別，與他們一起用膳。而我是俾分配到一年級生的班級。因為我是一個不太懂得與小童相處的人，起初還有少少擔心不能與他們好好相處。然而，這種想法在與他們會面之後已經沒有了。

日本小學的用膳與香港的有所不同，日本小學需要自己準備分配食物和食完後要自己收拾清理好。與香港小學生不同，日本小學生十分自律，所有的工作都「自動波」進行，不用老師提點。其中有一名學生十分可愛，在用膳的時候還教我吃食物的次序呢。

用過膳後，是學生的自由活動時間。我們一眾大學生與小學生一起踢球，日本的小學生十分厲害，連我們大學生都踢不過他們呢。

就這樣我們過了一個十分開心的上午，道別的時候大家都顯得十分依依不捨。

接下來6月27日至6月29日的三日兩夜是與鹿兒島大學生的交流活動。他們會特地住進KAPIC Centre。自我介紹後，我們互相簡介了自己的生活的地方和大學。然後就是分組配對。而我被分到5男3女的組。可能因為大家都是男孩，特別容易打開話匣子，一見面就討論了一些遊戲機和運動的話題。之後我們討論了明天到鹿兒島市中心觀光的行程，為明天的行程做好準備。

6月28日我們組一行8人到鹿兒島市中心觀光。到了很多有趣的地方如水族館、有名的天文館通、amu plaza等。我們還吃了十分美味的鹿兒島料理和鹿兒島有名的甜品「白熊」，在7時左右回到KAPIC Centre。我們都過了十分充實而開心的一天。在KAPIC Centre用過晚飯和一起玩過煙火後，我們相約了到KAPIC Centre的食堂一起玩card game，我們亦試著用簡單的日語去教導他們玩香港的card game。card game後我們閒聊了一會兒。經過今晚之後，我們都互相了解了不少呢。

6月29日是整個交流活動的最後一日，這日我們每組就鹿兒島市中心觀光行程做簡單的發報後，就送別了他們。道別的時候大家都顯得十分依依不捨，紛紛拍照留念。我希望可以在不久的將來再來鹿兒島與他們重逢。

完成與鹿兒島大學生的交流活動後，就意味著整個鹿兒島研修之旅踏入尾聲。



## 結語

11日10夜的旅程轉眼便告尾聲，雖然不是每日的行程都十分緊湊，但每日都過得十分充實。

經過今次鹿兒島研修之旅，不但利用了十一日的時間說了很多很多的日語，這令我明白自己日語能力的不足，往後要更加努力去學習日語。今次旅程後，我認識了一班香港、日本的朋友。我相信這份友誼，是自己在整個鹿兒島研修之旅最大的得著。

在此十分感激KAPIC Centre的職員們十一天來對我們的支持和日本研究學系為此研修之旅付出的心血。



### Short summary:

Kagoshima Summer Exchange Program really gives me an unforgettable experience in my life .In this journey, I tried a lot of 'first time' .For example, it was my first time to stay in Japanese's home. It was my first time to soak in the hot spring pool. It was my first time to wear kimono, etc. At the very beginning, I was afraid that there would be a communication problem due to my poor Japanese .But later I just realized that this was not a problem at all. People I met here are very nice and helpful. They are willing to help and understand what I was going to say.

Most importantly, I made lots of friends during this program, including Hong Kong student and Japanese. I think the friendship will last forever.

Last but not least, I would like to thank everyone contributed to this program, especially the staff of KAPIC Centre and Department of Japanese Studies, CUHK.

### 3. 張倩玢

#### 前言

我很喜歡日本這個國家，因小時候曾到日本東京旅行，認為日本人很有禮貌，並會把每件事情都做到最好，所以我很希望能再次到日本學習。因此我參加了是次的日語及日本文化研修課程，我希望能藉此課程提升我的日語水平，更能讓我親身體驗日本人的生活和更進一步了解日本文化。

這十日的研修課程包括兩日一夜的 Homestay 和跟保育園、小學生、大學生、長者交流，這些活動提供了許多機會讓我和日本人對話、學習日語。除此之外，我還體驗了日本文化，如製作日本料理、穿著和服、學習鹿兒島方言等讓我更深入了解日本文化。以下我會逐一分享這研修課程中的點滴、難忘經歷和回憶。

#### Homestay

課程的第一天下午，我們收到 Host family 的資料，我們都十分雀躍，但同時又很緊張，因為這兩日一夜的 Homestay 要獨自與 Host family 相處，而且我的日語水平也不好，擔心不能與 Host family 溝通。我的 Host family 是一對夫婦和兩位二十多歲的姐姐。課程的第二天，我們便要與 Host family 會面。自我介紹時，我既期待，又緊張，當知道自己的 Host family 是誰的時候，我十分高興，她們亦很興奮。她們隨即帶我去餐廳吃自助餐，那裡有很多日本不同地區的料理，如天婦羅、烏冬、蕎麥麵、揚物等，十分可口。之後，我們到一所很大的超級市場買晚飯的材料和零食。她們向我介紹日本人最愛吃和對身體很有益的食物 - 納豆。我亦向她們介紹了香港多元化的調味料 - 李錦記。回家後，我們坐在地下聊天，我從 Google map 上展示香港的地理位置、介紹香港的景點和特色食物，我好不容易地用日語表達出想說的東西，以漢字和圖畫輔助，更要運用大量身體語言才能解釋到那是什麼東西，過程十分有趣。六時多，我們一起準備晚餐，我幫忙切材料和準備麵粉漿。我們把食物佈滿整張桌子後，開始製作八爪魚燒和手卷壽司。先把油輕輕塗在製作八爪魚燒專用的器皿，把麵粉漿倒在器皿上，再把材料放在麵粉漿上，再多倒一次麵粉漿，等待麵粉漿烤熟後用竹籤把它滾成球狀，最後加上醬汁便完成。一邊吃喝、一邊玩樂，十分高興。晚飯後，我首次了解日本人洗澡的方式，他們先洗淨身體，再在風呂浸泡若十五分鐘，但這些水是不會倒掉的，是讓全家人都浸泡後才倒，頗環保，這與香港不同。

第二天，我們九時多起床後，由媽媽駕車，向霧島進發。沿途上，有很多霧從山邊噴出來，開了車的窗子，一陣陣硫磺味隨風飄進車裏來。原來這是溫泉地帶，那些是溫泉的蒸氣呢！之後到達一片草地高原。今天整天下著毛毛細雨，本來意為沒有鹿兒出沒，忽然，我們看見一隻鹿兒在吃草，我們立即走近觀看，隨後有數隻鹿兒向我們走近，我們還與牠們一起拍照。之後，我們在一家充滿日本風味的餐館吃天婦羅烏冬。午飯後，我們到霧島神宮參觀、祈福、抽御神籤，學習日本文化。最後，我們到夢見が丘，她們給我買了手信，十分感謝。五時半，我們回到 KAPIC 進行歡送會，我們一起吃晚飯、聊天。最後，我們依依不捨地擁抱、說再見，我們都哭了。

寄宿家庭不但帶我遊覽了許多地方，還讓我體驗了日本人的生活，更讓我感受到日本人的熱情和好客。他們說話時十分溫柔有禮。雖然我們只是相處了短暫的兩天，但大家都好像認識了很久的朋友一樣。我們交換了 Line 及 Facebook，更會保持聯絡。我希望我們的友誼可以保存下去，如果可以的話，我更希望再次來探訪她們。

#### 交流

##### (1) 高隈保育園

高隈保育園的小孩來到 KAPIC 和我們一起慶祝七夕。自我介紹中，我們教小孩子說「你好」，讓他們也學習廣東話。保育園校長給我們說了七夕的故事後，我們和小孩一起唱七夕的民謠。之後，我們一起寫願望在人形紙條上，再掛在竹子上，希望願望成真。

##### (2) 大黑小學校

我們來到小學校交流。最有趣的是全校只有五十名學生！與香港一樣的是學生分成六個級別，但由於學生人數不多，有些年級會一起上課。校長先帶我們參觀校園，校園裏除了有課室外，還有設有游泳池、魚池，飼養雞、兔子、小青蛙和設有花園讓小孩自己種植。他們上課時，老師會讓學生向全班同學解題，也會多問問題讓學生發言，師生之間互動性十分高。隨後，全體師生在禮堂為我們準備了歡迎儀式，由五年級的學生來當主持人。之後，我們用日語介紹香港的地理位置、特色食物、主題樂園、交通工具等，心情十分緊張。簡介後，我們便玩集體遊戲，小孩的笑聲和熱情融化了我們緊張的心情。午飯時，他們自動自覺地穿上制服、搬運和分

發午飯給其他同學，他們的自律和認真的態度值得讓我們學習。學生吃飯後也會主動地收拾餐具。午飯後，所有學生都會到操場遊玩，他們不論懂不懂踢足球，都會一起踢，連老師也會一同玩耍，所以師生關係十分融洽。

### (3) 鹿兒島大學

研修課程的最後三天與鹿兒島大學的學生一起渡過。我們一組的鹿兒島大學學生有四名男生和一名女生，他們都讀不同的科目，有些如農業、水產等香港沒有的科目讓我們感到十分有趣。首先，我們每組需為自己組別起名，我組名字是「White Bear」，因為我組是負責介紹食物，而白熊是鹿兒島有名的甜品。之後，我們便安排明天鹿兒島市一天遊的行程，為明天作好準備。當天晚上，我們一同自製燒肉晚餐，藉此增加更多交流的機會。

第二天，我們到櫻島乘坐渡輪向鹿兒島市出發，展開一整天充實的旅程。在渡輪上一方面可以欣賞到鹿兒島市的面貌，另一方面可以看到渡輪後面櫻島的景色，可惜天氣不太好，天氣陰沈，看不到櫻島的頂部。到達後，我們第一站往鹿兒島水族館參觀，看看鹿兒島附近的海洋生物是怎樣的。原來水族館內不僅有瀕臨絕種的生物，還會放置一些日常可進食的魚類讓小孩認識。我們亦觀看了海豚表演和電鰻的電擊表演，十分有趣。午飯，我們到天文館附近的餐館用膳。我們全都點了鹿兒島特有的菜色：雞刺身、薩摩揚物、黑豚肉、鰹魚刺身、雞飯、芋頭雪糕、知覽紅茶等等，食物不但非常美味可口，而且十分新鮮，價錢又不太貴，值得一試。之後，我們在天文館的商店街逛了一回兒，他們買了蜂樂饅頭吃，好像多啦包一樣裏面夾著紅豆，饅頭軟棉棉的，味道甜美。走進和菓子專門店，那裏讓我們大開眼界呢！日本小吃的款式多不勝數，有最常見的豆沙饅頭至煎餅，也有像我們中國一樣的糰子，也有較新潮的奶油蛋糕、啫喱等，讓我們垂涎三尺。天文館區內還有很多化妝品店、藥房、時裝店、零食店等給旅客「掃貨」。接著，我們乘坐市電到中央站乘搭摩天輪。摩天輪緩慢地轉動，讓我們漸漸可以看到鹿兒島市的全部景色，天氣亦逐漸好轉，可以看到櫻島的全景了。身為介紹食物的組別，我們還未感到滿足，最後在中央站商場裏的分店一嘗鹿兒島甜品名物 - 白熊。白熊是一款澆上了煉奶和放了一些水果、啫喱的刨冰，樣子就有如一隻可愛的白熊。甜絲絲的煉奶刨冰讓我們捧著飽滿的肚子高興、滿足地回到碼頭，準備乘坐渡輪返回 KAPIC。當天晚上，我們竟然遇到櫻島火山爆發，黑色的火山灰飄到我們身上，好像下雪一樣。我們到戶外地方玩日本的煙花，又是難得的經歷，因為香港不准許私自放煙花。

第三天早上，我們在研習室準備下午匯報的講稿和投影片。我們不懂如何用日語表達時，鹿兒島大學的學生會協助我們，他們還會盡力解釋和運用較簡單的字句。下午我們每組輪流匯報，發現原來大家參觀的地方也差不多，有些組別更會走到較遠的神社和觀看歷史文物。最後，我們一起到位於 KAPIC 旁邊的民族館參觀，那裡擺放了許多太平洋國家的樂器和民族服飾給我們彈奏和試穿。穿上不同民族服飾後，大家都急不及待拿出相機拍照留念。

## 日本文化體驗

### (1) 製作日本料理


我們分組學習製作壽司及鹿兒島名物 - 薩摩揚物，有如魚蛋的炸物。在日本料理師傅的指導下，我們尚算順利完成，若於卷壽司內放下太多材料，便不能把它卷好得完美，切卷壽司也十分有講究的。這就是我們的晚餐了，雖然賣相不太好，但是首次自己製作的關係，我們仍覺得味道不錯呢！

### (2) 穿著和服

我們於和室集合後，三位穿著和服的老師進入和室，並把包袱放下。老師向我們講解和服的種類、配件，然後男和女同學分別於兩室開始正式試穿和服。老師隨意派發和服，我的是深綠色帶有黑色和紙扇的花紋。穿上和服配件的次序和每一個步驟十分講究，我們嘗試逐層逐層穿上，但也不大好看，幸好在老師的協助下，我們花了差不多四十五分鐘才完成。和服的下半身包得挺直的，所以我們要縮小步伐，有點困難。分隔兩房的門即將打開了，快可看到男士們的服裝，十分緊張。我們一起互相欣賞對方的和服，興奮地不斷合照，還可以手提著日本紙傘、紙扇拍照，我們都爭取時間，藉此難得的機會拍照。

## 感想

在整個研修過程中最快樂的事情必定是與 Host family 一起相處的時光，我們無時無刻都哈哈大笑，她們教了我很多日本人當地的生活文化，我們還會互相了解、交流。晚上一起製作晚餐時有說有笑，十分溫馨和睦。我們現在還有保持聯絡呢！我一輩子也不會忘記這些美好的片段。



剛開始這次研修時，我十分擔憂自己的日語未能說得好，但過程中別人會教導、提點自己，逐漸發現自己的日語水平有所改善而感到高興。跟不同國家的人相處，會發現自己的不足之處，也學會接納當地的文化、認識更多新事物。這次研修旅程十分美滿，我希望可以再次到日本交流，分享更多有趣的事物。

#### Short summary:

This was my first time to visit Kagoshima, which is a place that is totally different from HK. I love Japan so much. I was glad to join this Japanese cultural exchange programme so I could take a glimpse at this marvelous place and enjoy Japanese lifestyle. Before this trip, I was so worried that I could not communicate with the Japanese well since I could not express myself in fluent and correct Japanese. During the 10-day exchange programme, I have tried my best to listen and speak Japanese. It was great that I met a lot of nice and friendly Japanese, such as KAPIC's staff, host family, students from Kagoshima University, etc.. They tried to explain well with both body languages and sounds when I did not understand. Therefore, I gradually improved my Japanese ability and got some confidence in speaking Japanese. Besides, I have also learnt the Japanese culture through the activities in KAPIC Centre. It was a valuable chance for me to put on the Kimono and make Japanese food, such as sushi and deep-fried fish balls. Undoubtedly, this programme brought me loads of unforgettable experiences. It had not only broadened my horizons, but also taught me how to immerse into others' culture. I hope I would have another chance to visit Kagoshima and meet them again.

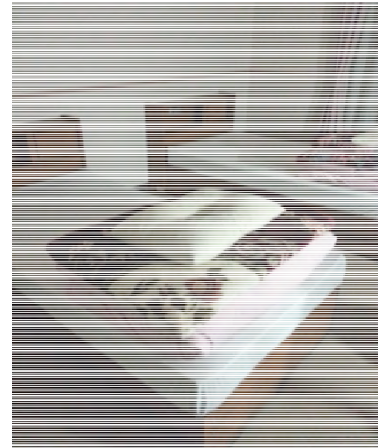
#### 4. 趙星而

自從六歲的時候父母帶自己去九州旅行後，我便愛上日本了。除了被其四季分明的美麗景色所吸引外，我更喜歡日本的文化、濃濃的人情味(可能像東京般的大城市會較難體現，但在鹿兒島就能充分體現這點)和他們的高度自律性。所以，修畢日本語(一)和(二)後，我便申請參加是次鹿兒島日本語及文化研修計劃，希望對日本有更深入的認識。

#### 抵達鹿兒島



我們一團十九人於六月十九日經東京前往鹿兒島。我們早上出發，到達鹿兒島機場時已經是晚上了，Kapic Centre 的大久保女士更在機場迎接我們。得知我們還沒有吃晚飯，更安排司機在前往 Kapic Centre 的途中讓我們到便利店購買便當，並破例讓我們在旅遊巴士上享用晚餐，真的非常細心。約一個多小時的車程，我們終於抵達位於郊區的 Kapic Centre 了。



起初以為 Kapic Centre 跟香港的烏溪沙青年新村或學生宿舍一樣，豈料房間的設備十分齊全，有獨立的洗手間華和沐浴設施，而且十分整潔，感覺與酒店無異。我們到達宿泊棟時都要換上拖鞋，以確保地方衛生、整潔。Centre 的每間房間都有特定的國家主題，我的房間則以墨西哥為主題，房內貼滿了與墨西哥相關的資訊和冷知識。乘坐了一整天飛機和車，大家都飛快收拾好休息，迎接研修開始！

#### 研修開始

大部分時間我們都是在 Kapic Centre 裏活動，所以經常在 Centre 的餐廳用膳。這兒的日本料理味道很不錯，而且每天的用膳時間都非常準時，每天的早上八時、中午十二時和晚上六時都是用餐時間，剛剛到日本的我也有點不習慣呢！此外，這兒食物分配是以自助形式，避免大家浪費食物。每次用膳完畢，我們都要把自己的餐盤和餐具拿到碗碟分類處分類，並把餐具清洗一遍才交給廚房的姨姨徹底清洗。此舉令我再次感受到日本人的自律性，跟香港文化截然不同。而且，Kapic Centre 的環境清幽，到處都開滿色彩繽紛的繡球花，令人仿如置身世外桃源。在



休息時間，我最愛到附近散散步，拍拍照，欣賞大自然的美景。

緊接便是開講式和ホームステイの日本語的環節。這個環節講授不少有關入住日本人家中需注意的事項和細節，包括：和室的佈局和使用風呂的正確方法等。同時亦教授一些日常用語，如：不想喝酒的話該如何有禮貌地拒絕等。而我們最緊張和期待的環節亦到了，就是下松先生會公佈各人所獲派的ホームステイファミリー。我的ホームステイファミリー是五十七歲的諸留夫婦。用 Google Map 一查之下發現諸留夫婦的住所距離 Kapic Centre 頗遠，至少需要駕車一個多小時才能抵達。當時的心情真是既緊張又期待，緊張的是自己的日本語不好，擔心難以跟ホームステイファミリー溝通；但同時亦十分期待，



畢竟是第一次入住日本人家裏，能夠一試融入他們的生活呢！

### 兩日一夜のホームステイ體驗

終於到了ホームステイ對面式，我可以見到諸留夫婦了！在對面式相認後，我便隨諸留夫婦前往他們居住的地方——曾於市。乘坐私家車的途中，諸留太太不斷以簡易的日文跟我聊天，並告訴我她是一位日語教師，並且在攻讀英文系課程。心情緊張的我頓時如釋重負，更願意放膽跟諸留太太溝通。每逢我的文法有誤，諸留太太都會糾正我。當我們



一起到超市買東西時，她就教我不同蔬果的日語叫法，又把我介紹給其他人認識，諸留太太的熱情令我更加放鬆，更期待接下來的行程。



吃過午飯後，諸留先生知道我對耕作有興趣，便帶我到他的稻田。諸留太太怕我下田會把鞋子弄髒，特意為我準備另一對鞋和全新的襪子，這種細心真的令我十分感動。起初看見諸留先生覺得他十分嚴肅，豈不知一談到種瓜菜、種米，他就變了個小孩，非常

雀躍。諸留先生向我介紹他的米田，更讓我一嘗落田插米苗的滋味。對於長期生活於城市的我，這次絕對是個難能可貴的經驗。平日在香港經常見到的都是高樓大廈，很多時候要特意前往新界某些地方，甚至是農莊才能看到大片點的農田，要一嘗落田的滋味就更難。所以是次的ホームステイ生活正正給我機會一邊學習日語，一邊享受鄉郊的簡樸生活，呼吸一下新鮮空氣，享受慢活的自在和休閒。可惜天公不做美，很快便要離開米田回諸留家了。諸留先生送我回家後便到他的農田收割，他摘了很多蔬菜回來，有：紅蘿白、大根、竹筍，當然還有鹿兒島十分有名的蕃薯。看見這些新鮮的蔬菜，我頓時雙眼發亮，因為自己一直很嚮往這種自給自足的生活模式，可以確保蔬果沒有農藥，吃得健康之餘又環保。



諸留太太知道我喜歡小朋友，便帶我到託兒所(小學)跟那兒的小朋友一起玩耍，順道教他們一點英語和廣東話。起初，小朋友們都有點見外，始終也是多了個



陌生人，難免會有點不適應。不過很快，當我們玩了兩個熱身遊戲後，小朋友和我便打成一片了。我們還一起玩日本的傳統玩具，玩 card game，還教了他們一些基本的廣東話，如：你好，謝謝。就這樣輕鬆愉快地度過了一個多小時，臨別之際，其中兩位小朋友更畫了兩幅圖畫送給我作為紀念，真的十分感動。

晚餐後，我便隨諸留太太到市役所センター上日文課。那兒有中國人、菲律賓和印尼的學生。諸留太太安排我和兩位中國學生隨另一位日本語先生——東先生上課。原來日本也是用《《大家的日本語》》上課，感覺份外熟悉。兩位中國學生亦十分親切，他們說很久沒有以普通話跟

其他人溝通，所以遇見我這個香港人就特別高興。我們一邊學日語，一邊討論中、日文化的差異。東先生對中國文化十分有興趣，所以她也學普通話。就這樣聊了一整晚，大家都不亦樂乎。

第二天，諸留太太便駕車帶我去不同地方參觀。她知道我喜歡大自然，所以我們參觀的景點大多都是綠意盎然，如：城山公園。儘管天氣反常，下着大雨，但都無阻我們欣賞美景的心情。下午我們便到一間有名的大阪燒專門店吃午餐，這次是我第一次吃大阪燒呢，真的很好吃！分別在即，回家後跟我一樣愛喝咖啡的諸留太太便泡了兩杯咖啡和我一起聊天。一旦我的文法有錯，她會幫我修正，並教我不同詞彙。最後，諸留夫婦送了我一大袋日本零食和他們自家種的白米給我帶回港。







回想這兩日一夜のホームステイ體驗，我開始明白「一期一會」的意思。人與人之間的緣份真的很奇妙，這次的研修計劃就把一個香港學生和一個日本家庭拉在一起。諸留夫婦對自己的關愛和付出真的令我有種回到家的感覺，都是那麼溫暖和親切。很感恩能遇到諸留夫婦這麼好的ホームステイファミリー，這兩日一夜定必成為我畢生難忘的回憶。

### 與大黑小學校學生交流—給食

大黑小學校規模較香港正規小學小一點，所以校長、老師和學生的關係十分親近。校長早就牢牢記住每一位學生的名字，遇到每位學生都會送上溫暖的問候，這種溫暖親切的校園生活真好。這兒以小班教學為主，老師可以知道每一位學生的需要，因材施教，用「心」教學。除了傳授知識，更能助他們建立正確的價值觀。參觀過學生上課後便到了給食的環節。我被編到跟小一、二的學生一組，他們十分可愛。儘管他們年紀輕輕，個子小，但分派飯餅、搬飯箱、拿碗碟和洗牛奶盒都由他們一手包辦。當天跟小孩玩了整個上午，他們全都十分可愛，離開的時候不斷向我們揮手說再見，真的很不捨得他們呢！

### 體驗日本文化



研修有著和服和製作日本料理的環節，當中有三位專業的着物先生來教授有關和服和日本舞蹈的知識，三位先生更即席示範日本的傳統舞蹈，令我大開眼界。聽過先生的講解後才知道原來和服也有這麼多的學問，並再次體現出日本人的一絲不苟。先生細心地指導我們如何穿和服，一旦我們穿戴不當便幫我們，就這樣足足花了一個小時才穿好。大家穿上和服後都不斷拍照留念，記下此刻的回憶。此外，我們亦有機會親手製作日本料理。是次研修先生教了我們製作壽司和一種鹿兒島有名的食物—有點像「魚蛋」。儘管我們所做的遠不及先生做的漂亮，但味道亦十分好，而且最重要的是大家都很享受製作的過程。



### 與鹿兒島大學學生交流

除了ホームステイ體驗外，我們還有機會跟鹿兒島大學的學生交流，互相了解香港和鹿兒島的文化。我們被分成多個小組，而我的是チームあじさい。見面當天我們需要商討第二天出鹿兒島市中心想參觀的地方，並安排好行程。儘管自己的日語程度只能用十分簡單的詞彙和語法去溝通，但加上身體語言和組員幫助翻譯仍能明白對方的意思。由於時間關係，我們難以到訪多個著名景點，所以便挑了幾個 must-go 地點而已。



我們先到白熊專門店吃白熊。我挑了個咖啡味的，味道十分不錯，但總覺得日本的刨冰好像比香港的溶得快，難怪鹿兒島的學生都吃得異常地快。接下來便去坐摩



天輪，幸好當天天公作美，天氣還不錯，可以從多角度欣賞市內景色。逛完超市買手信後便前往迴轉壽司店吃午飯，日本的學生對香港人吃壽司時會把豉油和芥末混在一起的食法感到很新奇，因為日本人是不会這樣吃的。之後我們便到鹿兒島水族館參觀，途中更見到好幾條海豚，真的十分幸運。最後整個交流以每組的匯報作結。

我只懂得非常簡單的日文詞彙和文法，而這次研修正給我一個機會去多用日文，不論是ホームステイ還是平日寫日記都不用害怕說錯、寫錯，因為每次諸留太太和 Kaptic Centre 的職員都會指出我的錯處，令我可以改善自己的日文。是次研修除了學習日文外，更能體驗日本文化和入住日本家庭，真的令我獲益良多。希望以後還有機會到訪鹿兒島，感受這裏的人情味和大自然。



### Short summary:

I love Japanese culture since after my parents travelled to Kyushu with me when I was 6 years old. Though I had travelled to Japan before, the experiences of this trip was very different from my past experiences, which you would have the opportunity to learn and use more Japanese, understand Japanese cultures by living and communicating with Japanese and could make Japanese friends. There was a Japanese class organized by Kaptic Centre before we went to spend the days with our homestay family. I was so excited with the homestay session, yet I was so worried at the beginning due to my poor Japanese, I afraid I could not communicate with them. However, I am so lucky to be assigned with a homestay family with a Japanese teacher—Mrs. Morodome. She taught me lots of useful vocabularies and corrected my grammar whenever I got mistakes, this was a really good way for me to learn Japanese and she encouraged me to use more Japanese without fear. Nonetheless, we were given chances to have exchange sessions with kindergarten kids, primary school students, elderly as well as university students. I spent a great time with all of them, especially with the Japanese kids; they were so cute and adorable that I enjoy staying with them so much. And the students from Kagoshima University had travelled around Kagoshima-shi with us for whole day, we had visited various famous tourism spots there and enjoy one of the “must-eat” items there—Shirokuma. This trip does not simply allowing me to learn more Japanese and her culture; instead you could feel the closed bonding among people which could really touched me especially when I am with my homestay family. This trip was going to be one of my best memories and it is hoped that I could come to Kagoshima and Japan again very soon!

## 5. 莊佩儀

在正式出發前，我對今次旅程有點惴惴不安。因為自己對鹿兒島的認識實在是寥寥無幾，僅僅知道鹿兒島位於九州地帶。只是後來在鹿兒島度過的十多日，完全是與香港截然不同的另一個世界。鹿兒島比想像中要靠近香港，直航的話只需三個小時便會抵達。這是我第一次來到鹿兒島，這片福地令我對鹿兒島美麗的風景和親切的人們都難以忘懷。

抵達鹿兒島的頭兩日主要是當地中心的介紹和日後行程的講解，還沒有機會認識到真正的鹿兒島。我們居住的中心被一片翠綠的山巒包圍。雖然位置比較偏遠，但仍然非常舒適和設備非常齊全，更難得的是當時正值日本的梅雨季節，陽臺外開滿了一片紫藍的紫陽花，旁邊便是一條乾淨的小溪，不時看到有人在岸邊釣魚。每日早晨都可以呼吸到經過充滿植物氣息的新鮮空氣。這種人和自然的接近令我深切地體會到重視自然的鹿兒島與香港的區別。在鹿兒島居住的期間，自己也和自然更為貼接近。從中心可以借用單車，騎著單車沿著風景優美的壩邊小路一直前進，到達了景色壯觀的大水壩。在這裡的人們與自然貼近的距離讓我覺得自己好像從香港的塵囂中脫離了出來，投入了充滿自然氣息的清新世界。

很快地我們每人都被分配到一個日本人的寄宿家庭裡，體驗日本人的家庭生活之餘，同時也嘗試多用日語與日本人溝通。我的住宿家庭是由父母和女兒組成的，在收到他們的家庭資料時真的非常緊張。一來擔心自己的日語水準未能順利和日本人溝通，二來也考慮到自己和日本人的生活習慣等也不盡然相同，恐怕會冒犯到人家。到了會面的時候，他們給我的印象是有點嚴厲，所以令我更為緊張。只是不久他們便親切地接待我，不斷和我聊天想要了解我的喜好、家庭、背景等等。我也因為他們的主動和熱情漸漸消除了一開始的緊張，和他們盡情聊天。有時我的日本語不太流利，也難免會出現辭不達意的情況；他們都會耐心地等候我說完，嘗試理解我說話的內容。即使偶然有文法或詞彙上的錯誤，他們也完全不在意，令我更放心使用日語。

他們家裡有飼養四隻北京狗，由於在香港的家裡沒法養狗，所以對喜歡狗的自己來說非常高興，不斷和牠們玩耍起來。鹿兒島的生活也和香港不甚相同。像在香港大家大多居住在高聳的大廈裡，住在二三十層也非常平常；但寄宿家庭的家裡卻是傳統的單棟房子建築。還有像道路的寬敞、人口的稀少等等，鹿兒島與香港完全不同的面貌都不禁令我感到很新鮮。

後來，我們變得熟絡起來便談了很多自己的事，令我們對對方的認更深入了解。他們帶我吃了鹿兒島的當地料理、因為我說了喜歡壽司買了許多材料舉行了簡單卻豐盛的家庭派對、全家人齊集一起玩遊戲、和他們家的寵物狗盡情玩耍等等。在寄宿家庭的短短兩日，我充分地感受到鹿兒島人們的溫柔和熱情。明明我是來自其他國度的陌生人，竟然得到他們毫無保留的關懷和接待。和寄宿家庭相處時，我真的好像回到了自己於日本的家一樣。分別的時候真的非常不捨，我也和他們交換了聯絡方式，也約好了以後也要再去鹿兒島。在離開鹿兒島的前一個晚上，他們竟然瞞著我特意來了中心一趟，說是希望在我離開前再見一面，為我帶來了非常的驚喜。甚至特地將家裡兩隻寵物犬帶來了中心，讓我可以跟牠們道別。只是兩日的相處，也令鹿兒島人全心全意地對待自己，這種不保留的付出以及人與人之間親密的距離，令我無比感動。

離開寄宿家庭後是各式各樣的體驗學習。包括自製壽司和鹿兒島傳統食物、穿上正式的小袖和服等等。由於這些體驗對日本人以外的我來說很新鮮，因此都成為了難忘的回憶。壽司看似簡單，內裡卻蘊含了壽司師傅的功力和巧勁。雖然我們捏成的壽司難免有點缺憾，只是享用自己親手製造的壽司也是非常珍貴的體驗。同樣地和服也是比看上去有著更多重的穿著步驟，複雜程度若非親身體驗恐怕也難以想像。只是如此複雜的服裝直到今日仍然日本國內非常流行，不單見於婚禮和正人式等正式場合，甚至也會在日常生活中穿著。日本文化裡對於傳統的尊重和繼承同樣令我非常感動。

除了各種體驗外，同樣令我印象非常深刻的是與鹿兒島大學的大學生交流。大家同樣都是年齡相近的大學生，因此交談起來比較容易也有共同的話題。第一天主要是互相自我介紹和認識，晚上聚集在飯堂裡一起燒肉。這雖然不是我第一次享用日式燒肉，但這種熱鬧的氣氛令聚餐變得好像派對一樣，非常開心。

第二天是正式的鹿兒島市內探訪。那時正值梅雨季節，加上當天前連綿下了幾天的雨，但天氣竟然轉為放晴，實在是天公也造美。我們一組七個人，來了鹿兒島大學的四人和中大的三人一起行動，先是乘坐了渡海小輪到達了鹿兒島市區，在船上甚至能看見櫻島的火山。到達後我們首先乘坐觀光巴士，圍繞著鹿兒島市內多個著名的觀光景點行駛了一圈，了解到鹿兒島的歷史、著名的人等等，加深了對鹿兒島的認識。之後去了參

觀鹿兒島著名的工藝品薩摩切子的製作工場，薩摩切子是鹿兒島出產的彩色玻璃，無論是色彩還是形造都充分展現了優雅高貴的魅力，也見識到匠人們如何以細緻的工藝製作出美輪美奐的精美玻璃。

接下來我們享用了傳統的日本美食大阪燒作為午膳，這是我第一次親手煎大阪燒，濃郁的口感令我難以忘懷！大阪燒後還有鹿兒島市著名的甜點白熊刨冰，在白色的冰上以水果等拼出北極熊的五官，非常可愛。午飯過後我們到了照國神社參拜，神社座落在市中心熱鬧的商店家附近 在一片煩囂中獨享自己的寧靜。神社門前立了一個非常巨大的白色鳥居，據說有別於常見的赤色鳥居，包含了守護聖域的意義。配合神社的安寧不禁生出一股嚴肅尊敬之感。參拜使我體會到日本傳統宗教神道的悠久歷史，即使是在科技發達的現代社會，日本仍然稟承了對傳統的信仰。

參拜神社後我們到了集中販賣土產的菓子橫丁，見識到許多以木、竹等製成的工藝品。同時也有販賣很多日式點心。除了有較為常見的麻糬之外，還有很多具有特色的饅頭和日本獨有的糖果。這些日式點心大都五顏六色，外觀相當吸引。而且也是香港很為罕見，令我們一行香港的學生都感到很新奇和興奮。當晚幾乎所有鹿兒島大學的學生和中大生都聚集在中心的草坪放煙花，其中叫做「線香花火」的日式煙花使我非常感動。雖然線香花火不太起眼，還是實在地燃燒著自我散發光輝。大家聚首一堂，令我也可以體會到日本傳統的夏天當時更正值櫻島火山的噴發期，大家都少不免被火山灰弄得滿臉污漬，卻都笑著說「第一次碰到火山活動」，為自己沾上滿身灰燼而驚奇。

第三天是與鹿兒島大學生的交流活動的感想報告。由於大家的日語都不算很流暢，因此很努力地嘗試以日語與大學生們溝通。報告時聽到中大的學生盡力以日語進行報告，聽到自己一向以廣東話溝通的團員們在交流後日語都有很大的進步，不禁令我覺得又新鮮又感動。

除了這些體驗以外，我們還在鹿兒島和許多人交流過。像是與只有四、五歲的小孩一起為七夕祈福、參觀當地小學的教學和一起午膳、向年紀較大的老人們學習鹿兒島當地方言等等。日本在七夕時的慶祝活動與香港方面完全不一樣，除了覺得很浪漫外還覺得非常新鮮有趣。日本的小學也非常鼓勵學生進行課業以外的其他活動。午休時間幾乎全校學生都聚齊在球場裡踢足球這種情形在香港幾乎無法想像。老人們雖然已經上了年紀，依然保留年輕的心態鍛鍊著這些經驗除了增長我的見識外，也令我對鹿兒島以至日本文化有更深入的了解，感受日本文化中鮮為人知的一面。

這次的見學團真的令我獲益良多。除了有很多練習日語的機會，日語方面的水準得以提升外，還親身體會到鹿兒島人民的善良、友善和親切，感受到鹿兒島有別於香港那種與自然共存的美麗。我已經和寄宿家庭方面作了約定，下次再要往美麗的鹿兒島去，去到我喜愛的這個小島。

### Short summary:

The programme was about ten days long and we experienced lots of Japanese culture during the trip. Firstly, some among those experiences are rare for non-Japanese, like self-making sushi and wearing kimono the traditional costume step by step. Apart from the usual experiences, we also met a amount of local Japanese, providing a good chance to practice Japanese especially in speaking and listening skills. There was a great variety of people we had met. From little toddler to elderly. Although my Japanese is not very fluent, when I tried hard to speak with them, it was always very welcoming and friendly. Among the trip, we were totally living in a Japanese environment and that enabled us to use Japanese much more frequently than in Hong Kong.

## 6. 鍾沛彤

自小一直都很嚮往日本的生活文化，渴望到日本親身感受，今次是一個難得的機會實現我一直以來的夢想。雖然一直期待到日本交流，但這次所到的地方—鹿兒島，卻是一個我不太熟悉的地方，只知道仍是一個充滿古色古香的縣市，因此喜愛自然文化的我對這次的旅程更加期待。雖然學習日文已有一段時間，但這是第一次須要長時間用日語和日本人溝通，出發前非常擔心，尤其這是我第一次參加家庭生活體驗，深怕完全不能溝通。

這次的旅程在6月19日於香港機場出發，早上10時許我們一行20人齊集機場後便浩浩盪盪的上機起行。經過5小時的航程，我們終於到達東京成田機場。取回行李待團長換領穿梭巴士卷後，便再乘搭一個小時的車程到羽田機場轉乘內陸機飛往鹿兒島。到達機場後有成員因身體不適提早離隊，剩下我們一行人趕及航班，繼續行程。經過大約十小時，我們終於到達日本鹿兒島。研修中心 Kaptic Center的導師大久保老師一早於機場等候我們，我們會合後再乘搭兩小時車程前往Kaptic Center。因為大家都還沒有吃晚飯，途中便到便利店購買當日的晚餐。鹿兒島的便利店比香港的大很多倍，貨架上放上形形色式的便當，還有各式各樣的飲品，著實令人眼花撩亂。雖然日本的便當與香港的茶餐廳套餐的價錢相約，但味道卻比香港的餐廳還要好，這就是我對鹿兒島的第一印象。經過一整日的路程，到達研修中心已是晚上11時多。大家分派房間後，便帶著疲倦的身軀回房休息，準備第二日開始交流的活動。

### 研修活動

在研修中心的第一個早上，一早起來就到飯堂吃早飯。飯堂是以全自助形式運作，而日本人在早飯時的餸菜已經很豐富，我們都享用了一頓豐富的早飯。在早飯過後，我們便遵從導師的指示，學習把廚餘和垃圾分類，並把用具洗淨。日本給我的感覺是每個角落都很整潔，這大概與他們自小就學習有系統的垃圾分類有關。頓時覺得日本那麼大的國家也能做到，香港其實也應該多多學習。

開講儀式過後，我們便到了和室，為明天的家庭生活體驗作準備。從大久保老師手上接過寄宿家庭的資料後，下松老師便開始就日本生活文化及室內佈置為我們講解。原來日本的房屋除了在日文堂上常見的アパート之外，不同種類的住宅都有特別的稱呼。下松老師還講解了在傳統日本家庭中會見到擺設及其意思。課堂中學習到不同的日本文化與知識，比在香港的日文課堂來得有趣。最後，我們還學習了在拜訪日本人家時常用的日語。在課堂開始初時，我們都以正坐坐姿上課，可是不到十分鐘便難以維持。反觀下松老師由始至終都以正坐授課，真的令我佩服得很。課堂完結後，我仍不時重溫著堂上學到的會話，懷著既期待又緊張的心情，等待明日與寄宿家庭見面。

### 寄宿

第二天，終於到了家庭生活體驗的日子。我們帶齊行裝，懷著戰戰兢兢的心情排成一行進入研修室與各個寄宿家庭見面。自我介紹後，便與他們相認。我的寄宿家庭是位六十多歲的婆婆，因為從前得知日本人很注重禮儀，初時見面還很害怕因為溝通問題會造成尷尬。但原來婆婆與她的女兒和朋友一起申請，因此我和同行的兩個同學Chilam和Angela在這兩天便經常三個家庭一起活動，由於有他們相伴，我們很快便衝破言語的障礙，並和婆婆她們開始兩日一夜的家庭生活體驗行程。乘上寄宿家庭媽媽的七人車離開Kaptic Center後，我們便到綠茶園學習製茶。最初在車上聽到媽媽描述還以為做茶(茶を作る)是學習茶道，但當到達茶園，望見一大片廣闊無邊的茶田後，更令我期待。媽媽和婆婆形容這次也是她們第一次製茶，對他們也是個新嘗試。我們跟從莊主指示把新鮮茶葉在大鐵鑊中炒完再拿於手中磨走水份，經過大概一小時重複以上步驟，終於完成我人生中第一次親手製的茶葉。莊主亦細心地為我們把茶葉包好，寄宿家庭媽媽的女兒ニナちゃん還為茶袋裝飾寫上名字，給我們帶回香港做手信。在這裡除了體驗了日本人自身都未必嘗試過的做茶外，還能感受到日本人真的十分好客。其後，我們除了不斷互相交流港日不同外，還在那裡享用午餐。這也是我第一次嘗試到茶葉和竹筍做的天ぷら，再加上一點岩鹽，真的回味無窮。

與莊主們道別後，媽媽便帶我們去浸溫泉。這是我第一次浸溫泉，日本人浸溫泉時都是一絲不掛的。雖然有點害羞，但也跟隨媽媽的指示沖洗身體後去浸泡了。那裡的溫泉分為室內和室外，也有泉水池和冰水池。婆婆說他們亦經常到來浸泡，消除疲勞。浸在溫熱的泉水中感到暖氣在全身游走，真的十分舒服。浸泡完畢後，我們稍稍休息後便到婆婆的店鋪參觀。那是一間擁有一百年歷史的老房子，現在已改建為傳統日式餐廳。沿著樓梯上二樓還有古時用具的展櫃，亦從中得知以前餐廳所用的醬油都是自己醃製的，實在大開眼界。婆婆家與媽媽的家相隔只有幾步，是去年新建的。一進房屋便感受到日本家庭的氣息。大廳與後面和室相連，旁邊便是開放式廚房，而婆婆平時睡的洋室則在房子的另一邊。婆婆說我們大概也沒有睡過たたみ，晚上就於和室睡。我和Chilam知道後都很雀躍。傍晚跟隨婆婆和媽媽一起到超市購買晚飯材料後，便大伙回到媽媽的家學習製作

日本家庭傳統晚飯。媽媽的房子和婆婆的同期建成，但風格卻截然不同。媽媽向我們介紹她的家所有房間都是六角形的，很有特色。這天的晚飯我們學習了日式咖喱的製法，媽媽還把秘訣傳授給我們。媽媽還說日本人對於食物的外觀也十分講究，醬油深淺種類也有很多，就連外賣回家的餸菜也要在碟上放好才能放上餐桌。我們幫忙準備好後，待爸爸回來後就吃晚飯了。整餐飯我們都一邊分享一邊談天，遇上我們不明白的地方，他們便細心為我們解說。差不多到晚上十時多，我們便與婆婆回房子，但小孩們正與我們玩得興起，所以他們也一起來，和我們玩到十二時才入睡。

在寄宿家庭的第二天，我們一早便起來到媽媽的房子幫忙煮早飯。原來平常在日本餐廳喝到的味噌湯做法簡單，在日本的家庭日常也常做。吃早飯的時候，媽媽還給我們嘗了一口納豆，這是我第一次嘗到它的味道，但我不能接受那股臭氣。吃完早飯，我們便到體育館參加二妹學校的排球同樂日。媽媽得到老師們批准後，還邀請我們一起玩。活動完結後真的令我很驚訝，學生們不用老師任何的指示，便齊心地分工合作。有的收拾用具，有的拿起地拖，轉眼間便把場地打掃得十分乾淨。回家途中，經過了媽媽他們家所開的章魚燒店鋪，媽媽便請我們入內參觀，還拿了兩三盒回家給我們吃。待婆婆中午下班後，他們知道我們到日本最想吃拉麵，便帶我們到拉麵店吃午飯。午飯過後，距離返回研修中心只剩下兩小時，他們便帶我們到四周的店鋪和超市購物。時間差不多，我們便依依不捨的回去研修中心。回到研修中心看見其他家庭都已經在餐廳等候，我們也趕緊坐下準備宴會開始。席間見到其他同學也和他們的家庭有說有講，也能感受到這兩天的寄宿家庭大家也很享受。轉眼間已到了分開的時間，雖然相識只有兩天的時間，但也建立了感情，離去時彼此都十分不捨。我由最初的擔心，到發現家庭體驗其實比我想像中的快樂，而體驗到的比去旅行遠遠多很多。我想，如果家庭體驗的時間可以加長就好了。經過這次體驗後我嘗試了很多新的事物，也感受到日本人的好客親和。反觀香港家庭又有多少人會如此的好客，無私義務的帶我們四周遊玩。

## 文化活動

### 日本料理

於第四天的午後，我們被安排製作日本料理作當晚晚餐。我們齊集料理室由研修中心飯堂的負責人教授壽司和傳統炸物的做法。期間還有報紙的記者來就我們到鹿兒島研修採訪，真的令我十分難忘。

### 高畏保育園的七夕交流

正值七夕前夕，第五天的早上高畏保育園的小孩們來到和我們一起慶祝七夕。從保育園園長聽過七夕的由來後，便和小孩們在紙上寫上願望。園長提到七夕原本是中國傳過來的節日，但現在日本比中國還重視。日本在傳統節日上的傳承的確比香港的做得好。保育園的小孩們全都很天真可愛，整個早上也黏著我不放。最後我們把願望掛上竹樹，希望能傳達到給織女。

### 大黑小學校交流

交流的第六天，我們到了一所小學作交流。日本的小學生活比香港的有趣得多。他們除了正常課堂，校內還有很多活動，如飼養寵物，每星期寫毛筆字等等。他們師生之間的關係都很好，記得有位一年級的學生很頑皮，但校長和老師們都沒有大罵和責罰，相反仍很慈祥的抱起他。在這個輕鬆的環境下的孩子，比起在香港已經處於競爭狀況的孩子，更能發掘自身興趣和擁有更全面的自我。

### 和服穿著

整個交流活動中最令我期待就是穿著和服的時刻。自小喜愛日本文化，和服更是主因之一。這次終於有機會親身穿著，大家都表現得十分雀躍。和服老師為我們講解和服的種類後，終於正式學習如何穿著。和服由很多層組成，每一層要穿好都十分講究。穿了足足一小時我們終於完成了。大家都十分興奮，亦拍了很多相片。和服於日本已有很多年歷史，它的地位與中國的襪袍差不多。但到現在街上可看到穿著襪袍的已不多，反觀日本無論祭典或是平日會穿著。每個日本女孩子基本上都擁有一件浴衣。雖然穿著時間很短，只有一小時，但完成了自小的心願已經很滿足。

### 大學生交流

踏入的最後第三天，我們被安排與鹿兒島大學的大學生一起交流三天。經過 homestay 後其實對於要與日本人溝通已沒有之前般緊張，但面對差不多年齡的大學生最初仍有點擔心。我和另外兩名女同學被分派到與四位女大學生一組。因為彼此都是女孩子，她們又十分和藹可親，我們很快便打成一片。決定好明天的分組行

程後，便與他們稍作分離。晚上原定的室外燒烤因暴雨關係改為室內燒肉，但也無損大家的興致，整晚都玩得很快樂。

大學生交流的第二天，我們一早便集合起程到鹿兒島市。這天我們去了很多地方，和她們一起玩得很開心。首先，我們到了鹿兒島的傳統工藝薩摩切子的工場參觀。然後就到了年青人常到的天文館，午飯就在那兒的大阪燒店鋪吃放題。還有鹿兒島出名的甜品白熊。白熊是牛奶所製成的冰，比香港的刨冰甜很多，但最特別之處是從頂部望下去，便會看到小熊的樣子，因此深受歡迎。吃飽以後，我們就到了區內最大型的照國神社觀賞。她們也細心教授我們進入神社的方法及如何參拜。快樂的時間總過得特別快，很快到了集合時間，我們亦準時回到渡輪碼頭，回去中心。這天除了跟隨她們到了不同地方參觀，但每到一個地方我們都就和香港的不同作出交流。日本的交通工具每架都能夠找換零錢，十分方便。我們從交談中便發現日本是沒有身分證般的證明文件，隨身帶備的只有保健卡。還有香港一張八達通便能乘車購物，相反於日本每樣都是分開的，光是乘車用卡就有三張。與她們交談所發掘到兩地更多的不同。

轉眼間來到交流的最後第一天，一早起來吃過早飯後便到研修室準備匯報。大家分工合作很快便完成。她們更為我們寫講稿再加以練習。中午匯報完畢後轉眼間又到了分離的時刻。雖然結識只有一陣子，但到分離一刻大家都捨不得。他們離開後我們也隨即進入閉講式，大家分享這十天的感想後，從會長手上接過証書，我們這十天的研修便正式完結。

最後這天，我們吃完早飯後便把行李搬上旅遊巴，再到大堂集合。雖然大家相識相處只有短短十一天的時間，但每天在一起，彼此來到旅程的最後一刻都依依不捨。還有 center 的導師們，在短短的日子給予我們細心的照顧。大伙們在大堂拍完大合照後便懷著依依不捨的心情與導師們道別後，便登上旅遊巴前往鹿兒島結束這十二天交流的旅程。

### 感想

這是一次很難忘的經驗讓我感到交朋友是可以無分國界，我們到各地遊最珍貴的是能打破語言障礙和不同人交流，才能深入了解該地的風土人情。研修交流比起光是旅行觀光大為不同，它能認識到日本更深入的一面。過程中不段交流，去了解 and 我們身處的香港有甚麼不同。此旅程讓我發現到日本在文化傳承、禮儀教育及環境保護上的成功，也發現平時我們已習慣的原來在其它國家的對比下香港其實已經很好。將來有機會希望能再次參加研修。

### **Short summary:**

I am glad to have this valuable chance to join this exchange programme. It was my second time went to Japan. It totally changed my impression towards it. During the program, not only have my Japanese improved, but also deepen my understanding to Japanese culture. It is different to just traveling or visiting as a visitor, but I could have a deep talk to the people actually lives here, and shares. I also have the opportunities to do many things new. I have my first time to join homestay, I learnt traditional Japanese cuisine, and I made tea. It is also my first time to wear kimono, what a wonderful experience.

## 7. 范文熙

一連 11 日的日本研修課程日前告一段落，當中體驗了各種從未試過的經歷，寄宿日本當地人家庭、與當地人一起唱歌、生病到日本醫院、與鹿兒島大學生遊玩、櫻島爆發等，實在難以忘懷。

我獲分派到有 4 子的寄宿家庭，應該是全團寄宿家庭中最多小孩子的一戶，非常幸運，亦受其他同學羨慕。見面會上，她已抱着一個 4 歲女孩，我見到他們時，大家都很興奮，笑容可掬。當時其餘 3 位孩子正在當地一間大學的體育館上學校體育課，媽媽先帶我去接載他們和在體育館等候的丈夫。我們沿途駛經深山田野，非常偏僻，沒有車的話很難在當地生活。到體育館後，終於見到 3 個小孩的真面目！兩個男的一個戴眼鏡較文靜、一個眼水汪汪的很可愛由活潑；女的則較成熟。她們見到我都非常興奮，可惜我日語能力有限未能完全聽懂小朋友在說甚麼。然後，他們帶我去鹿兒島內之浦火箭中心，親身近觀那些巨型雷達衛星，和火箭發射塔。

接着他們討論帶我到哪，兩個男孩嚷着要去唱卡拉 ok，我跟他們說香港卡拉 ok 5 小時連包午餐僅需 60 元後他們很驚訝，嚷着香港すごい，哈哈。他們說當地卡拉 ok 一小時就要百多元。最後，母親決定帶我去他們日常常去的保齡球場去！打保齡，一較高下，最後我僅排名第 2，但打得相當開心。

之後我們到一間偏僻的傳統鹿兒島黑豚店吃晚飯，該是因為我說過我想一試當地名物鹿兒島黑豚就帶我去吧。食後我們回家，他家有兩格車房兩架車，屋有兩層高，更有花園，相當開眼界。他們的浴室更備有智能恆溫風呂，令我忍不住一試。

他們很早睡，9 時許孩子們就入房了，相當健康，我就睡在客廳的たたみ上。當晚至第 2 天晨早橫風橫雨，窗外呼呼聲，氣象廳發出了黑色暴雨警告。

第 2 天晨早 6 時許小孩們又起床了。我們全家一起玩當地紙牌，我日文不靈光聽不太懂遊戲規矩，但誤打吾撞也是玩得很開心，很感受到日本 4 小孩家庭的生活趣味。之後兩個男孩對我的電話有興趣，嚷着要玩，我就選了些遊戲給他們，結果玩不釋手，母親怎叫也不理，我感覺母親應該短期內也不會買電話給他們了，哈哈。

從中大寄去的自介中，媽媽知道我喜愛日本火車，於是第 2 天就帶我去坐。那兒鹿屋市是沒有火車的，要到都城、霧島那裏才有，她計好火車時間，就載我們到都城火車站，搭特急霧島到霧島市的國分站，然後他丈夫就負責駕車到國分站接我們回來，哈哈，真很感謝她盡他們所能還我心願，我很驚喜。火車上，他們大玩遊戲，甚麼兩人用手以規律去拍，又不要拍到對方的，坐着看他們玩，感覺很自然、天真、純樸、很有人情味。坐了近半小時下車，小孩子們撲過來邀請我跟他們一起在國分站牌前拍照留念。

不久，父親就到，載我們去霧島神宮遊覽。霧島神宮亦是山邊的一所紅色寺廟，被參天巨木包圍，下着雨的，神宮被淡霧籠罩。神宮有許多祈福東西售賣，生肖鎖匙扣、簽、符等，她們又給我全部買下，多謝她們。

兩日的寄宿生活完了，在 Kopic 大夥兒吃完晚飯後就分別，別前，他們送了幾袋東西來，之前他們已經在霧島神宮禮品店買了許多給我，他們總共送了鹿兒島 t-shirt 1 件、火車遊戲一盒、和果子 5 個、生肖鎖匙扣 1 個、簽一道、酸梅一盒、一億円扇一把、鹿兒島方言遊戲一盒、朱古力芋片一包、豆一盒，相比起我僅送一盒蛋卷，實在影響香港的形象。

此兩日中，電話中的日文字典 app 非常有用，解救不少溝通問題。

廣東流行曲中，有許多都是改編自日文歌曲的，在日本不同地方我都聽過播着廣東歌的日文原曲，如譚詠麟的霧之戀、張學友的每天愛你多一些、張國榮的誰令你心痴、陳潔靈的無言地等。今次 Kopic 安排我們到隔鄰民俗館參觀，裏面隱藏着一隱世高手，懂得彈奏館內所有樂器，二胡、非洲鼓、豎琴、泰國樂器、普通鋼琴等，更懂彈任可歌曲，叫我們即時點唱，大家點了港日都認識的李克勤-紅日、徐小鳳原唱的龍咁威、卡通片歌等，我更私下找他彈山口百惠(梅艷芳-赤的疑惑、蔓珠莎華)、五輪真弓(徐小鳳-喜氣洋洋、譚詠麟-忘不了你)、近藤真彥(陳慧嫻-千千闕歌、梅艷芳-愛將、夢伴)的歌。

之後，發生極大轉變，我病了，先是發燒，後是喉嚨極痛。發燒時，第一次到日本的醫院，我先被針吉鼻孔至眼以通鼻、再被以甘油條塞肛，痛不堪言，難以忘懷。之後第 2 次喉嚨痛，痛至耳朵，不吃止痛藥面容扭曲，是不停的全面劇痛，又再入院。總共用我 13000 円，令我最後上機回港時銀包僅得 300 円。又入院，又休息總共令我失去小學校交流、藍莓園擇藍莓、三清屋食黑豚、老人中心交流等機會，實在非常可惜。

與鹿兒島大學生一起遊鹿兒島市是很難忘的經驗，我們一起嘗鹿兒島名物白熊，即蛋溝奶的冰，上面再加上各種配料，相當美味，可惜我喉嚨極痛，只能坐而望之，非常淒慘。之後我們一起坐上鹿兒島火車站商場頂樓的觀覽車，繞一圈，環眺鹿兒島市，前方有密雲蓋頂的櫻島火山、360 度的城市仟陌，後方有鹿兒島火車站，停泊着兩輛新幹線，N700 系和 800 系，軌道伸延到山洞裏消失。然後，我們又坐市電回碼頭，到碼頭



吃壽司，這是我期待已久的壽司餐，看着琳琅滿目近 100 款壽司刺身款式，垂涎欲滴，有大部分香港都是很少見的，我最愛的就是火焰三文魚和帶子壽司，最後結賬都只是 1300 円，算是合理。

今次櫻島經過不停實在非常可惜，我們旅遊巴已環繞櫻島半周都不載我們到觀光點下車，我們只可於乘渡輪往來櫻島與鹿兒島時遠望它，實在浪費這次到鹿兒島的大好機會，希望下年度再舉辦時有此行程。

我對氣象地理饒有興趣，這次研修團算是讓我遇上許多日本氣象地理現象，行程第 3 日及第 9 日日本氣象廳都有發出黑色暴雨警告，第 3 日更受溫帶颱風吹襲，橫風橫雨(我 stay behind 在長崎時，又再現黑色暴雨，令長崎火車站全部路軌淹浸，被滯留大半天)，日本普通馬路去水快，渠道好，除長崎火車站外未見有嚴重水浸。更令人興奮的是，去鹿兒島市後的晚上，我們大夥兒在 Kopic Centre 外放小型煙火，怎料他們說正下火山灰，我們本不遺意，用電話電筒一照後，發覺灰如雨下，密密麻麻的在落，我們不能正常說話呼吸，要掩住口鼻才能開口。上氣象廳網頁查看，原來是櫻島今年第 172 次爆發，櫻島因此輕微地震 0.0043 毫米，而今次的噴煙量是頗多的程度。我知道幾個月以前櫻島曾大規模爆發火山灰，令整個鹿兒島市煙灰蓋頂，全市啡黃，滿地灰塵，市民出入都要用毛巾掩面，今次竟幸運中上小獎，小規模爆發火山灰，令人相當興奮。

是次研修團中，偶有團員們有意見，主要有三。

最多人認為不值的，是機票，大家都認為機票太貴，且兜路，亦要轉機場，花足整天才抵埗。Kopic Centre 大堂貼滿香港航空直航 3 小時到達的傳單，很多團員認為便宜和快捷的航班應為首選。各航空公司都必定有辦團體預約留位服務，最常見如旅行團、遊學團等，因此可嘗試聯絡香港航空，以為來屆 Kopic 參加者節省近 3 分 2 價錢。

大家於此 11 日亦常感”冇野做”，晨早起床做兩小時活動後就要等一小時才有午飯，然後下午做兩三小時活動候又要待一兩小時到 6 時用晚飯，接着每晚 7 時用過飯後又沒有安排，等睡覺。大家認為可安排多一些活動。11 日行程中，有 6 天都是全日待在 Centre，可建議集合中心內活動，然後加插遠程行程如到鄰近的櫻島、宮崎日南海岸、霧島連峰等地方。

另一方面，萬眾期待的 home stay 只得 1 晚實在令人感覺”不夠喉”，建議可稍為延長，豐富研修內容。

最後，我想在此特別多謝大久保老師，她在我生病時不離不棄，不時過來慰問我，為我探熱，非常親切，大家團員都說他就像我媽媽一樣，哈哈。最後我們別離時她堅持走出來向我們巴士不斷揮手，直到消失於視線，實在令我們全團非常感動。還請 Kitty 可否回覆她我們安好，我病幸運地在離開 Centre 前已大致已癒，感謝她一直的照顧，來港時定必要聯絡上。

### Short summary:

This Japan study trip furnishes me with multiple experiences that cannot be done through ordinary traveling. Home staying and exchange with children, primary students and university teenagers get me in touch with the authentic Japan society and people. I spent time together with my home stay family for outings, meals or simply staying at home. The 4 children of the family are very active and always talked to me. Seeing them playing, watching tv, talking with mum and dad, I feel how harmonic their simple lives are. I never see argue between children or parents. Instead, I only heard of laughing. I feel happy staying with them.

Exchanging with students, especially the youngsters from Kagoshima University is enjoyable. We spent a day in Kagoshima City, tasting local desserts, sushi, sightseeing around the city, taking the ferris wheel and watching the Sakurajima volcano. We had lots of communication meanwhile.

## 8. 李凝曦

六月十九日從香港機場出發，到東京成田機場，坐車到羽田機場，再從東京到鹿兒島，坐一個半鐘車終於到達 KAPIC，研修的主要地方。

### KAPIC CENTRE



KAPIC 是一個很美的地方，四周都有樹和草，空氣很清新，讓人感覺很舒適。這裡的設施十分多，有一天我們去踏單車，有一天我們去打桌球，還有很多好玩的東西，例如釣魚、乒乓球。而我們住的房間也很舒適，有趣的是每一個房間都代表著一個地方作為主題。房間裡有洗手間，床的旁邊有個大大的窗可以看到外面的風景。我們大部分時間在食堂用餐，三餐都很豐富，一共六款，以自助的模式還有綠茶、咖啡。完用餐後要自己把碗沖過了再放在水盆中，方便收集廚餘。

### Homestay



第一晚來到鹿兒島，第二天在 KAPIC 上了 homestay 的日本語的課和知道 homestay family 的資料，第三天便是 homestay 了。我的 homestay family 是七十多歲的白濱先生和六十多歲的白濱太太。前一天晚上很緊張，有點擔心自己日語不能和他們溝通。在見面式中終於和他們見面了，我們一個一個進去，遂個介紹自己。我介紹自己後，看見他們向我揮手，第一個感覺是他們十分親切，之前的擔心很快就沒有了。

白濱先生開車載我回家去放下東西，他們的家離 kapic 很近，路上用有限的日本語和他們說話。到了白濱先生家，第一眼就覺得好漂亮，屋子前有好多樹，還有一塊田，落地的玻璃可以把裡面一切看清。因為下大雨的關係，白濱先生帶我進屋。白濱太太帶我去我住的和室放下東西後，用綠茶來招呼我，他們的屋子很漂亮，有和式和洋式的地方，是香港所沒有的。然後我們出發吃午飯，那時下著很大的雨，白濱先生給我一對白色的雨鞋，好讓我可以雨中走來走去，他們對我真的很友善。

我們坐上白濱先生的車子來到一家餐廳，只記得食物真的很豐富，有前菜、主菜和甜點。說實的我吃完前菜就飽了，但又不好意思不吃下去，最後雖然吃得很慢，但我還是把東西都吃下來。我叫了一杯紅茶，紅茶意外地好喝，真的比想像中好喝多了。吃過飯後，再坐白濱先生的車子，其實我也不知道要到那裡去。不過這種好奇下個地方是甚麼的心情很不錯。來了一個郊外的地方，這次真的是周圍都是綠色。走了好久，到了這遍綠的盡頭，對面有一些建築物。白濱太太跟我說這裡一年才開一次，是類似一些許願的東西，說每年的開頭也會來這許願。然後白濱太太撞上了好友，原來是她的鄰居，副團長的 homestay family 出口先生太太。然後我們踏上回家的路。途中，我們經過一間和菓子的店子。下車到那店子逛，白濱先生不斷拿試吃的和菓子給我，真的每一個都超好吃，而且包裝又漂亮。白濱太太買了幾個回家，它們就成了我們的下午茶。

回到家後和白濱先生太太聊天，白濱太太讓我幫忙弄 pizza，白濱先生知道我看得懂漢字之後，就十分興奮，拿起白板來寫我的名字。那天吃晚飯我們聊了兩個半小時，真的很快樂。雖然自己的日語不好，但白濱先生太太都會用心地解釋，甚至在白板上寫上漢字好讓我明白。晚餐後有芒果，他們說六月是芒果盛產的季節，又說四月有櫻花，五月是螢火蟲，六月是芒果，七月是七夕。和他們的對話總是很有趣。吃過晚餐後，白濱太

太耐心地教我沐浴（お風呂）的方法，先把身體清洗好，然後再去浸沐浴。真的是很舒服，而且水溫是剛剛好的，讓人很想再待久一點啊。然後，白濱太太陪我玩黑白棋。雖然是輸了但依然很快樂，就這樣去和室裡睡覺了。

第二天，白濱太太很早起來準備早餐，真的是很豐富的早餐，有飯有湯又有甜點。白濱太太讓我幫忙放碟子，每一個碟子都是放得很講究的。和他們吃的每一餐都讓我很飽很飽的。

白濱先生帶我去家旁的陶瓷工作室。我真的覺得白濱先生甚麼都會，在家看到的細緻裝飾也出自他的手中。鄰居出口太太打電話來，白濱太太再讓我睡了會，到十一時半，出口先生的車在外面，我們坐上白濱先生的車子去吃迴轉壽司去。迴轉壽司要等位子，先到百貨公司逛，就去吃迴轉壽司了。日本的壽司果然特別好吃。因為早餐已經吃得很飽的緣故，這次真的吃不下，吃了幾件就停手了。

然後與副團長和出口先生他們打羽毛球。感覺上他們打球很講究，誰開球換位置都有規定，其實我的球很差，也沒能接到幾球。日本的老人家精力真好。最後，我們打球後幫忙把球場清潔好，香港沒有這樣為人著想的習慣呢。

然後就回去休息了。白濱太太教我畫花，她真的是一個好有耐心的人。用墨畫上一個又一個花瓣，最後真的完成了。白濱先生寫了我的名字送給我，白濱太太又送了她之前所畫的畫給我，就這樣來到 homestay 的尾聲。

### 與保育園、小學生、長者交流

這個旅程很特別的是我們可以遇見不同年齡的人，這是光去日本觀光做不到的事。

保育園的學生來了 KAPIC 和我們一起慶祝七夕。那些是只有四、五歲的小朋友，有些很害羞，有些很可愛。老師們向大家介紹七夕的傳說。我們一起寫上願望然後掛在竹枝上，期望願望會實現。

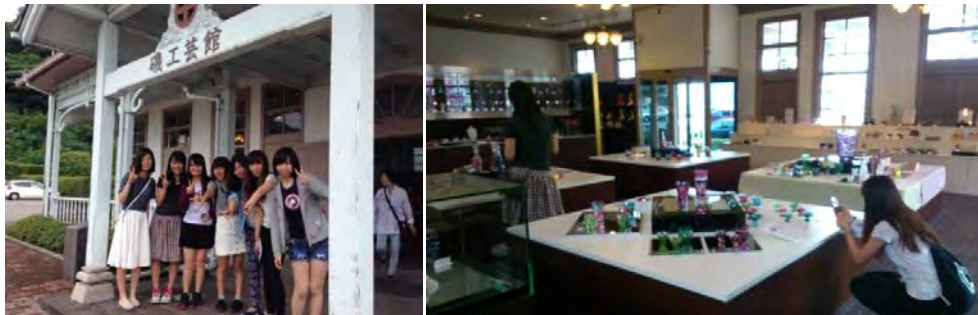
有一個上午我們去了大黑小學校。這所學校只有四十多個學生，但設施也非常齊全，有游泳池、跑道、農場等等。小朋友當然也十分可愛，我被安排往三、四年級去和他們一起吃飯和玩遊戲。這些小朋友會分工合作把飯派好，又會很開心地和我們一起吃飯。最後我們一起玩閃避球，小朋友也是相當活潑。

有一天我們去了一個地方和老人家一起玩。知道 homestay 的白濱先生太太也來了的時候就很高興。他們教我們一些鹿兒島以前的語言，我們一起玩一個類似十五二十的遊戲，但是這個是有道具的玩法。再之後我們一起玩 BINGO。這個老人會似乎有不少打高爾夫球的好手，原本天氣好的話我們便和他們一起玩高爾夫球，白濱先生和另一個伯伯教我們高爾夫球的玩法。這樣和老人家待在一起也很快樂。

### 與鹿兒島大學的學生交流

最後的三日兩夜和鹿兒島大學的學生一起過。第一天中大的學生介紹中大的香港，然後鹿兒島大學的學生介紹鹿兒島。聽他們介紹的時候，他們有特別提到一種叫白熊的甜品，就好想去試試。

分組的時候就見到我們的組員了，是四個女生，而且感覺很友善，我們一起制定之後一天到鹿兒島市的行程，我們會去吃白熊，再到周圍參觀，令人很期待。原本的 BBQ 因為下雨而取消，換成吃燒肉。這是我第一次吃燒肉，覺得特別興奮。很快的便同日本的女生熟了起來，她們有很多話題，吃燒肉時就一直聊。



之後一天我們乘車再轉乘船就到了鹿兒島市了。船上的風景很美。下船後就解散分組玩。我們坐了觀光巴士到一個做工藝品的地方參觀。觀光巴士裡讓我深刻的是日本的巴士原來都有找錢機的，那就不用害怕零錢不足，而且日本的巴士司機都很好人，會耐心地解釋找錢機怎麼用，也會說明現在我們在那裡。那裡的工藝品都很漂亮，我們再到工場參觀，很難想像這麼小的工藝品竟然可以造得這麼精緻，當然價錢亦不菲。



然後我們就去天文館吃お好み焼き。原本以為天文館是類似一個博物館的地方。沒想到周圍都是小店，很熱鬧。這間白熊店出面就有大大的白熊，我們吃了一個お好み焼き的放題和白熊作為甜品。這裡のお好み焼き是可以讓我們自己燒的，感覺很有趣。最後吃了一個お好み焼き已經很飽了，但也要尝尝白熊。我們是一個人吃一隻正常白熊，選了布丁味，真的很好吃，與香港的不太相同。大家吃得好飽想要去散步，我們去了個神社，然後再回到天文館購物，就完結了這六小時的行程了。



回到 KAPIC 吃晚飯後，我們一起去放花火。就是在晚上的時候點起一枝枝花火，那些花火是日本的女生在逛鹿兒島市時買的。好好玩又好漂亮。



第三天我們早上一起討論，要發表昨天到那兒去的內容。那些日本的女生都很好，我的日語不好，她們就和我一起預備講稿，令發表順利完成。最後我們一起到民族館參觀，就完了和鹿兒島大學的學生交流的時間。

### 結語

這十二日十一夜真的令我很深刻，進行了很多活動，又認識了一些日本的朋友。而且有很多機會說日語。這次旅程之後，就下決心要學好日語，希望可以與別人溝通得到。很感謝沿途每一個遇見的人，也很感謝日研給我這次交流的機會，讓這趟旅程相當精彩。

### Short summary:

I had a wonderful time in Kagoshima, Japan. Through this program, I was given opportunity to speak Japanese practically. Also, I had an enjoyable time with my host family and friends from Japan. I also tried out new things during the program, I learnt to make sushi and had a taste of Shirokuma- one of the most popular desserts in Kagoshima. I think Kagoshima is a good place, surrounded by trees and nature. Also, people here are very nice. I wish I can go to Kagoshima in the near future to meet my friends. I am thankful that the Japanese department offered this opportunity. It was really memorable to me.

## 9. 梁配玲

我自小便覺得語言、漫畫、流行文化等日本文化很有趣，使我一直希望至少能到日本一次。這次的暑期研修課程便為我提供了「朝聖」的機會，也令我得到了實踐學習了一年的日語的機會。

### 太平洋農村研修中心 Kaptic center

坐了近 5 小時的飛機，又轉了機一次，終於到達了鹿兒島機場，那時已經是晚上 9 時左右，大家都很累，很想快點能洗澡睡覺。負責人大久保小姐等了我們很久，卻沒有一點不耐煩，在車上也很熱情地為我們解說在 kaptic centre 需要注意的事項。坐了近 2 小時的巴士後，我們到達了 kaptic centre。透過那兩小時的車程，我知道 kaptic centre 真的很偏僻，加上天色又暗又當下完雨，很難看清 kaptic centre 的全貌。

早上一醒來，便有一種切切實實在日本的感覺。從房間的落地窗看出去，有一條很長的河，兩旁都是樹木和花，天空有點灰，還有人在大隅湖旁釣魚，很有遠離煩囂的感覺。要去到類似鎮上、有商店的地方得有汽車代步，而且信號也收得不好，所以在 kaptic centre 的十來日，真的能當作投入大自然的放鬆自己。

Kaptic centre 的早餐很像自助餐的形式，但都是日式的食物，味道也很好，食堂的阿姨每次看到我們都會打招呼，十分親切，與香港有點不一樣。雖然吃完飯要自己收拾碗筷，但這能令人培養自律的良好習慣；碗筷要用水沖過才放進洗碗槽裡給職員清潔，從這些細微的小事上已能感覺到日本人的自律與愛潔淨的性格。



### 兩日一夜寄宿生活

到鹿兒島的第三日便要完全認識的人那裡去住兩日一夜，雖然 kaptic centre 的職員事前已教過我們一些基本的知識和打招呼的方法，但以我那蹩腳的日語實在很難與日本人溝通，所以我還是很緊張。

我的寄宿家庭是只有夫婦二人，三十歲左右的今村先生和由衣小姐。他們和我的年紀相約，所以一下子距離拉近了不少。而且由衣小姐的家人（お母さん、あゆさん）也有當寄宿家庭，是以我經常可以和認識的人一起，雖然不是一起住，但至少沒那麼緊張，也敢放膽地和今村夫婦聊天。

一開始今村家和由衣小姐的家人便帶了我和同學去吃自助餐，在車上，由衣小姐不斷和我聊天，讓我融入他們。可能因為兩位都是從事老人福利服務的，所以雖然我的日語不和，但他們會耐心、盡力理解我的說話，然後教導我應該要怎樣說，說錯的時候會當笑話和我一起笑，使我覺得我是和很要好的朋友一起出遊似的。吃飯的時候，他們因為知道我喜歡吃草莓，所以不停夾給我，他們真的非常熱情和友善。

下午回到家裡，由衣小姐說自己累了，要我陪她睡午覺，但事實上是因為他們知道我不習慣早起，所以才讓我睡午覺休息，他們真的很溫柔。我是第一次睡在榻榻米上，榻榻米真的很舒服，難怪日本人都喜歡榻榻米。

睡醒以後，他們駕車帶我到お母さんの家集合，然後到超級市場買晚飯的材料。他們知道我和另一位同學都喜歡吃壽司，所以晚飯是做卷物壽司，還有烤肉，十分好吃。雖然香港也有日資的超級市場，但日本的超級市場實在很大，什麼日常用品都會賣，若不跟緊他們，我很大機會會在超級市場裡迷路。他們又買零吃給我們，知道我喜歡嵐和海賊王後又送扭蛋和海賊王的周邊給我，十分好客。

お母さん的手因為受傷了，所以晚飯是由今村夫婦做的。吃晚飯時他們會先讓我和另一位同學吃，很像家裡的長輩照顧孩子一般，令人倍感親切和溫馨。席間大家一起聊天，完全能感受到日本人的熱情好客，也更覺他們的溫柔。飯後大家一起玩 WII，我發現日本人真的很擅長玩遊戲，不論如何，大家一起唱着歌玩 WII 的跳舞遊戲真的很高興，很有一家人的感覺。

第二天早起，今村夫婦很早便起了床打掃家中，所以我也起了床幫忙，然後一起吃早餐、玩電玩，然後到遊戲中心玩，還碰到了他們的朋友和小孩，所以一起到家庭餐廳吃午飯，好像跟家人一起逛街時碰到他們的朋友，然後一起玩，真的很有家的溫馨感。

雖然那兩天一直在下雨，也沒有去過多少地方，但「家」的感覺真的無可取替。歡送會之後我以為要以後再到鹿兒島時才能看見他們，可是お母さん and あゆさん說因為掛念我們，所以帶了泡芙和家裡其中兩隻狗來見我們，但今村先生和由衣小姐因為工作關係無法前來。從家裡駕車到 kagic centre 要大約兩小時，這實在令人很感動，お母さん說因為我們是她在香港的女兒，所以會很掛念我們，真的令人無法不動容、感動。希望來年儲夠錢，再到鹿兒島探望他們！



## 日本文化學習

KAPIC 請了一位料理師傅來教授我們製作壽司和薩摩揚げ。這是我第一次親手做壽司，以前看師傅做的時候覺得只是捏一下、握一下便做好，好像很容易，但原來要壽司不散開是很難的事，卷物也要飯量適中才不會過大或過小，薩摩揚げ也要小心大小和炸的時間，真的很難掌握。完成後組員都很興奮，不論味道如何都是自己親手做的，所以一定很好吃。記得我們做壽司的過程還登上了南九州日報呢！

Kagic 還請來了三位老師教我們穿和服。老師們細心地教導我們各種和服的知識，包括甚麼時候穿哪一種和服，如浴衣、振袖等。和服的穿著方法真的十分複雜，不單要穿很多層衣服，而且穿法、長度等亦非常講究，充分體現了日本人

一絲不苟的特性，但出來的效果真的很美。老師們還表演了日本傳統的舞蹈，舞步十分優美，看來也很難跳，一看之下便知道老師們是花了很多年去學習、練習，真是台下一分鐘、台下十年功。翩翩的和服和優雅的舞蹈，日本的傳統文化實在令人著迷。

## 和鹿兒島的保育園、小學生和大學生交流

因為臨近七夕，所以 kagic centre 的職員安排了我們和高隔保育園四至五歲的小朋友一起寫七夕的許願短箋。我們先聽了園長說關於七夕的故事，然後發現跟中國傳統的有點不同，但意義上都很相似，想不到在日本也能聽到中國的傳統故事——牛郎和織女的故事。之後便和小朋友一起寫許願的短箋，掛在翠綠的竹上，祈求願望能成真。直至我們走，那株竹還放在大堂裡。

我們又到了大黑小學和小學生交流。日本的小學原來都有很大的遊樂場，而且會養着兔子、雞等的小動物，讓學生親自照顧它們，培養他們的責任心。吃飯的時候他們會各司其職，派飯、抹桌子等都是他們做的，吃完飯後又會自動自覺收拾碗筷，然後才一起到體育館玩。雖然大家年紀相差很遠，但大家都玩得很投入，而且他們是把我們當成朋友的一起玩，還會教我們日本小孩經常玩的遊戲，十分有趣。我還發現原來日本的小學生畫畫都很厲害，令我十分慚愧呢！

和鹿兒島大學生的交流是在最後的三日兩夜，他們還和我們一起住在 KAPIC CENTRE 裡。和我同組的鹿兒島大學生是裕美、千佳、智美和夢生。起初大家都不認識對方，所以有些尷尬。可是她們主動地和我們聊天，打破了僵局，並親切、耐心地問我們想去甚麼地方、吃甚麼，愈說愈令人期待。到鹿兒島市那天，很難得地是天晴，我們便到了仙巖園。那裡完全是大自然的風光，還可以遠眺櫻島火山，十分漂亮。當中還有教授日本劍道的小屋、類似水南庭園的小湖、玻璃飾品的專賣店等，竹製品專門店的老闆還送了竹造的長筷子給我們，日本人真的十分熱情和好客。我們還到了白熊餐廳吃大阪燒、白熊等食物，這都是我第一次的嘗試，真的很好吃，有機會真的想再嘗試一下。我們還到了天文館的商店街逛街、拍貼紙相、夾娃娃，雖然認識不久，但已有相識已久的好友一起遊玩的感覺，對我這怕生的人而言真的十分難得，也是十分寶貴的經驗。

晚上，差不多所有鹿兒島大學的大學生都和我們一起放煙花，由於香港不可以放煙花，所以這是我第一次放煙花。看着那閃亮卻又短暫的煙花燃燒，我覺得跟這 11 日 10 夜的交流團很相似，過程中我們認識了很多很友善、親切的朋友，雖然這段日子很短暫，但卻美好得令人永遠不會忘記。



### 總結

這十天裡我學到的不只是日本的文化、語言，還學會了他們那熱情、純樸的待人接物的態度。香港的生活太過急速，有時真的會令人喘不過氣來，所以有空到鹿兒島的話，真的能放鬆自己，還能再見那些親切的好友。

### Short summary:

This is the first time I go to Japan. It is really a great and unforgettable experience. Before this trip, I cannot imagine I can speak with Japanese. I am so touching about although my Japanese is not good, they try to communicate with me, and teach me a lot of Japanese dialect. It is a valuable experience. Before the day we back to Hong Kong, my host family came to KAPIC centre visit me. They said that they really miss me and so come to KAPIC centre. They are really nice and sweet. The most important thing I have learnt in this trip is that we should treasure every chance of meeting everyone. In this trip, I have met lots of the local people and be friends with them. Although we have to say goodbye very soon, and we do not know whether we will have chance to meet again, we still try our best to understand other side because every chance of meeting with them is very treasurable. I am very glad that I have such chance to go to a place totally different from Hong Kong, to try a real Japanese life, and to meet such friendly local people. It was undoubtedly an unforgettable experience and I really hope that I would have a chance to go back to Kagoshima and meet those friends again.

We are still keeping in touch through Line and Facebook. I believe that we can keep the relationship for a long time. I did promise them that I will go to Kagoshima to visit them next year. I believe that we will still act like family members and good friends forever. I hope I will have the chance to go to every Japanese festival and have fun with them. And I hope we can be friends forever.

## 10. 李嘉麗

鹿兒島縣日語研修課程為期十天，期間我和 18 位中文大學的同學在研修中心（下稱 KAPIC 中心）和鹿兒島縣其他地方進行了不同的文化體驗及與不同年齡的日本人進行交流，透過在活動和宿舍生活中使用日語，提升日語能力。文化體驗包括：家庭生活體驗、日本料理製作、黑豚肉晚餐、和服穿著等。交流的對象包括高隈保育園、大黑小學、鹿兒島大學和高隈社區中心。以下我會就家庭生活體驗、大黑小學交流會和高隈社區中心交流會三個活動的體驗和感受作詳細報告，亦會比較日本與香港在環保措施和義務教育兩方面的異同。由於我在此研修活動後留日旅行 11 天（大阪、京都及東京），故此報告中亦加入了一些我在日本其他地方的觀察。

### 一、家庭生活體驗

在到達鹿兒島的第三天，我們被分到不同的寄宿家庭作 2 日 1 夜的日本家庭生活體驗。我的寄宿家庭是四本家，家位於霧島市。雖然一直在下大雨，但短短兩天間，四本先生和四本太太帶我參觀了不少霧島的名勝，如霧島神宮、足浴溫泉和丸尾瀑布（日語：丸尾滝，見圖 1）等。由於下大雨，四本太太教會了我「雨が降ったり、止んだりします。」（雨時下時停）的說法。



圖 1：丸尾瀑布，連日大雨使其更為壯觀

### 1. 傳統料理

晚上，四本太太教我做鹿兒島的傳統家庭料理——「薩摩揚げ」和「かき揚げ」（見圖 2）。「揚げ」的意思是天婦羅（日語：天ぷら），即一種把沾上小麥粉的食材油炸的料理<sup>1</sup>。「薩摩揚げ」（さつまあげ）是魚肉天婦羅<sup>2</sup>，當中的「薩摩」是「鹿兒島」的舊稱。而「かき揚げ」是蔬菜天婦羅<sup>3</sup>，其鹿兒島方言的讀法是「ガネ」。



圖 2：上方的碟盛了薩摩揚げ（右）和かき揚げ（左）

### 2. 太陽能發電

四本家的屋頂鋪滿了太陽能發電板（見圖 3），作自給自足之用。據四本先生所言，其太陽能發電系統基本能完全應付每天的電力消耗，甚至多出來的發電量能轉賣給其他人，抵消安裝費用，並能以此作生活來源。例外的只有六月，因為正值梅雨季節，日照時間太短，發電量不足，就需要向電力公司購買電力。這種自主決

<sup>1</sup> 維基百科，薩摩揚げ。

<sup>2</sup> 維基百科，薩摩揚げ。

<sup>3</sup> 鹿兒島県，ラッキョウのかき揚げ。



定電力來源的情況在香港十分少見，而且由於大廈林立所造成的陰影使日照減少，太陽能發電在香港是不可行的。不過，雖然安裝費用高昂，卻有不少霧島市居民安裝了太陽能發電系統，實現環保家居。此外，我在 KAPIC 中心時不時能看到太陽能發電系統的電視廣告，如東芝（見圖 4），可見這種環保方式在鹿兒島縣頗為普及。



圖 3：左邊的照片為四本家太陽能發電系統完成之初，一面屋頂鋪滿太陽能發電板



圖 4：東芝家居太陽能發電系統廣告<sup>4</sup>

### 3. 垃圾分類

日本的家居垃圾分類非常仔細，不同地區更會有各自的分類指引。以霧島市為例，垃圾收集分為三類：可循環再用資源、可燃垃圾及不可燃垃圾。<sup>5</sup> 當中可循環再用資源更細分為報紙、雜誌、牛奶盒、茶色玻璃瓶、透明玻璃瓶、汽水罐、食用油等共十二項。<sup>6</sup> 此外，指引上更列明不可作回收的例子，如日光燈（日語：蛍光灯；英語：fluorescent lamp）可作回收，電燈泡（日語：電球；英語：electric light bulb）則不在回收範圍內。<sup>7</sup> 在四本家的家庭生活體驗期間，我感受到四本太太對垃圾分類的認真。比方說，她會先用水清潔拆開了的飲品紙盒，風乾後才用繩紮起作回收；做飯時會把廚餘（日語：生ごみ）放在洗滌槽的垃圾籃中，之後放入廚餘專用的垃圾箱中。雖然垃圾的分類眾多，日常生活中需要為此下不少功夫，但四本太太仍然能把此融入生活。可見只要養成習慣，人人也能为環保出一分力。除了家居，日本的便利店、車站月台等地方都會同時放置紙類、鋁罐、膠樽和不可燃廢物這四種垃圾箱（見圖 5、圖 6）；而 KAPIC 中心的宿舍房間亦備有可燃和不可燃廢物兩種垃圾箱，鮮見只有不可燃垃圾箱或沒有標示分類的情況，可見日本人在垃圾分類方面十分自律，值得香港人學習。雖然日本把垃圾分為可燃和不可燃的目的在於為焚化作準備<sup>8</sup>，香港暫時沒有這種分類的需要，但香港在收集廚餘方面仍未普及市民對於回收垃圾的處理不足（如未先把膠樽清洗），這兩點十分值得向日本借鏡。

<sup>4</sup> 東芝，住宅用太陽光発電システム。

<sup>5</sup> 霧島市，家庭ごみの分け方・出し方。

<sup>6</sup> 霧島市，家庭ごみの分け方・出し方。

<sup>7</sup> 霧島市，家庭ごみの分け方・出し方。

<sup>8</sup> 柏木奈緒子、小池悠大、坂本邦仁、中橋良介、山崎良祐，日本の効率的なゴミの焼却について。

<sup>9</sup> 綠領行動，廚餘循環再造合作計劃。



圖 5：便利店（Lawson）垃圾箱



圖 6：月台垃圾箱

## 二、大黑小學交流會

### 1. 義務教育

日本的義務教育由 6 年小學至學生 3 年中學畢業為止，期間幾乎所有教學資源均由政府提供。<sup>10</sup> 據大黑小學校長所言，政府會為小一所有學生提供黃帽子及黃色書包套（見圖 7），以作區別。另外政府更會為小學生提供 6 年教科書、教材（如繪畫工具、口風琴、牧童笛、算術遊戲卡等）和學校午餐（日語：給食制度）。日本的義務教育及其制度免除了清貧學生未能就學的情況，可見日本政府十分注重下一代接受教育的機會及教育資源的平均分配。<sup>11</sup> 另外，日本文科省於 2011 年開始把英語列入小學五、六年級的必修課程，亦在 2012 年開始研究由小學全年級推行英語教育的可行性。<sup>12</sup> 香港的義務教育由 2008-2009 年度開始延長為 12 年（小學 6 年、初中及高中各 3 年），年期較日本長，英語教育亦早已加入小一課程。<sup>13</sup> 可是，香港沒有由政府提供學生所有學習資源的制度，學生家長在免費義務教育的前提下，仍須自行購置學習資源。比較香港和日本的小學情況，香港的小學教育較注重精英培訓，如奧林匹克數學培訓和精英班制度；日本的小學教育則注重團體精神和公平機會，不根據學生成績編班。在大黑小學的五年級觀課時，我發現當一位學生在黑板解題後，會問講台下的同學：「みんなさん、いかがでしょうか。」（大家覺得如何？），若他們同意，就會回答：「いいと思う。」表示肯定。這是互相幫助，團體學習的體現。

<sup>10</sup> 文部科学省，小学校、中学校、高等学校。

<sup>11</sup> 文部科学省，小学校、中学校、高等学校。

<sup>12</sup> 日本經濟新聞，小4以下も英語必修、文科省検討 指導法を研究。

<sup>13</sup> 香港政府新聞網，推十二年免費教育。



圖 7：日本小一學生均有黃帽子及黃色書包套<sup>14</sup>

## 2. 各司其職

在大黑小學參觀期間，最令我印象深刻的是學校午餐。日本所有小學的午餐都由政府提供，日語稱為「給食」（きゅうじょく）。<sup>15</sup> 午膳時間一開始，由於學生人數少，所有學生都會負責做不同的工作（圖 8），如把桌子拼成六張一組，分發餐具、牛奶、分配食物等。大家互相幫助，盡好自己的責任，不依賴老師。待所有人吃過飯後，更會把餐具分類放好，收集後搬走。另外，吃完飯的學生會到課室外的洗滌槽排隊刷牙及清洗牛奶盒作回收。準備和整理的過程有條不紊，師生共膳樂也融融。香港的小學生也會在課室共膳，但通常由幾位當值的同學負責發飯盒，學生只負責打掃自己的桌子，亦不會進行垃圾分類，不像日本的小學生般團結和自律。日本小學生的自理能力和自律的性格特點，相信是家長和學校教育的成功之處。



圖 8：大黑小學的午膳時間像動畫《櫻桃小丸子》（ちびまる子ちゃん）般，拼桌共膳，由學生負責分發工作。

16

## 三、高隈社區中心交流會

原定與高隈社區中心的長者一起玩「グラウンド・ゴルフ」（英語：Ground golf，是日本一種適合老年人參與的運動，時限較正式高爾夫球的短）<sup>17</sup>，但由於下大雨，故活動改為室內遊戲和學習簡單的鹿兒島方言（日語：鹿兒島弁）。下表為一些鹿兒島方言及標準語對比的例子：

表 1：鹿兒島方言及標準語對比

鹿兒島弁	標準語	中国語
あいがとさげもした	ありがとうございました	謝謝
あた	わたし	我
おはん	おまえ	你
うっかた	妻（つま）	妻子
おかべ	豆腐（とうふ）	豆腐
べぶ	牛（うし）	牛

<sup>14</sup> tama, セリりん日本滞在記。

<sup>15</sup> 文部科学省, 小学校、中学校、高等学校。

<sup>16</sup> youtube, ちびまる子ちゃん②「給食当番はつらいよ」の巻。

<sup>17</sup> 日本グラウンド・ゴルフ協会, グラウンド・ゴルフについて。

從以上的例子可見，鹿兒島方言可以跟標準語發音毫不相關，如「とうふ」和「おかべ」、「うし」和「べぶ」等；而「あいがとさげもした」則勉強能從發音中聯想到「ありがとうございました」。鹿兒島方言的發音以促音（如：うっかた）和撥音（如：おはん）為多，是日本難以明白的地方方言代表之一。<sup>18</sup>

#### 四、總結

這次為期 10 天的鹿兒島縣日語研修課程，令我體驗到各種日本和香港的文化差異：料理、環保意識、教育方針、小學生的自主性等，日本人對環保和教育兒童的認真十分值得我們學習。此外，在 KAPIC 中心、家庭生活體驗及各種交流會期間，我們每天都使用日語溝通，不斷從老師和交流對象身上學習日本人說日語的方式，如音調、句子組織和慣用語。相信大家都承渡邊所長之言：「日本人みたいに喋っていますね。」（說起話來像個日本人），日語有所長進。

#### Short summary:

During the 10 days of Japanese language and cultural programmes prepared by the KAPIC centre, 18 schoolmates of CUHK and I experienced different cultural activities and communicated with many local Japanese who were of different age groups in Kagoshima. The aim of this programme was to enhance our Japanese listening and speaking skills through the activities and hostel life. Cultural activities included a 2-day homestay experience, cooking of Japanese cuisines, a dinner of kurobuta ("black pig"), wearing of kimono and etc. Groups of local Japanese comprised children from Takakuma Nursery School, pupils from Ohkuro Primary School, undergraduates from Kagoshima University and elderlies from Takakuma Centre.

For the 2-day homestay experience, I was assigned to the Yotsumoto family whose house was located in Kirishima City. Despite the continuous heavy rain, Mr. and Mrs. Yotsumoto still brought me to different natural tourist attractions of Kirishima, such as Shrine Kirishima, hot spring (foot only), Waterfall Maruo and etc. In addition, Mrs. Yotsumoto taught me to cook Kagoshima cuisines - satsumaage (tempura of fish) and kakiage (tempura of vegetables). In the two days, I discovered that the home of the Yotsumoto's was truly environmentally friendly. For instance, its rooftop was fully covered with solar panels which generated electricity for its own consumption; and Mrs. Yotsumoto always categorized rubbish into different groups according to the guideline given by the Kirishima City. Indeed, household solar energy system is quite commonplace in Kagoshima and detailed categorization of rubbish has been practiced by Japanese for a long time. Japanese's hard work and consideration on the environment are worth learning.

For the visit to the Ohkuro Primary School, we were brought around different classes to see how pupils in Japan learn. The principal explained that within the 9-year compulsory education (6 years of Primary education and 3 years of Junior Secondary education) provided by the Japanese government, pupils obtain free textbooks, learning materials such as drawing tools, melodica, recorder, Mathematic game cards and lunch. During lunch time, I was assigned to the class of Primary 3 and 4, which was grouped in the same classroom due to few numbers of children in the region. I was impressed by the children's self-discipline and team work when they took their responsibility and helped each other to do the preparation work and clearing up. They did not rely on teachers and instead they served the teachers and us. Such discipline and oneness are hardly been observed on Hong Kong pupils.

For the visit to Takakuma Centre, we were supposed to play ground golf with the elderlies, but it was cancelled due to the heavy rain. Instead, we played indoor games and learnt some simple Kagoshima dialect. Kagoshima dialect, which consists of "sokuon" (the small "tsu") and "n" in the majority, is one of the most incomprehensible dialects in Japan. It usually shares few common points with standard language. For example, "cow" is pronounced as "ushi" in standard language, but it is pronounced as "bebu" in Kagoshima dialect.

Living in Kagoshima and comparing the differences with that in Hong Kong helped us reflect our living attitude towards environmental conservation and education. Moreover, this hostel experience, homestay experience and meeting with the locals enhanced our intonation, sentence structure and vocabulary through listening and practice.

<sup>18</sup> 方言鹿兒島弁。

## 11. 李穎欣

I have always been fancy of Japanese culture so I took some Japanese language courses when I got to university. But I felt like it's not enough to just learn the language and it's hard to learn a language without practical circumstances to apply it. This 10-day program to Japan was definitely a great opportunity for me to explore more Japanese culture and practise my Japanese. In Kagoshima, I was exposed to a Japanese-speaking environment where I got to meet locals like the staff of the centre, primary school kids, home stay family, students from Kagoshima University and elderly from the community centre, etc. Yet, I was a little nervous and anxious at the beginning as I didn't speak Japanese very well. Luckily, they were all kind and friendly. With the help of kanzhi and body gestures, and most importantly their patience, I got to learn more the Japanese language and the culture when interacting with them despite the language barrier. This program brought me sweet memories filled with laughter and joy.

After long hours of flight, we all felt exhausted when we arrived the centre. The night we arrived at Kagoshima, it was raining and dark. I could not look out of the window and see the place. But soon the next morning, I was amazed by the beautiful scenery when I looked out of the window from my room. The environment of the centre was very refreshing. The centre was surrounded by grass, flowers, mountains, trees and the Osumi lake. After the orientation that introduced the schedule and regulations of the program in the morning, we walked around the centre. It was really nice to know we could rent a bike and bike around the centre and enjoy the beautiful scenery. We saw an old man fishing and we were so shocked that he successfully fished a huge fish from the stream. And in the afternoon, we got to know some information of our respective host family. We all got so excited and we looked forward to the home stay so much. I am so surprised to know my host father is a vet and the family have 4 dogs at their house. In Hong Kong, it is really rare to find people working as a vet and people keeping so many dogs. Later, we learnt some phrases and etiquette that are useful during our home stay but they were a little hard to be memorized.

### Home stay

The early morning, our host family was already waiting us at a classroom. Everyone of us were so excited and nervous to meet our host family. There I met my host mother. As the main transportation in Kagoshima is private car, she drove me to her home in Soo city. It took about 45 minutes from the centre to her house. On the way to her home, we chatted. Though we could not communicate very well due to my poor Japanese, I could see her trying hard in explaining stuff to me through gestures. When I arrived her house, I was surprised to know how large her house is and the father's workplace is right beside their house. The flats in Hong Kong are much smaller. When I first stepped in, their dog was at the door welcoming the host mother. The host mother told me that the eyesight of the dog is not very good so it lives with them and is separated from the three other dogs. And it was very common for people living here to have pets. Later, she treated me with some okashi, chocolate and a cup of ocha. It's almost lunch hour. The host father came back from his workplace for lunch. She prepared a rich meal with lettuce, tomato, egg, tofu, meat, miso soup, etc. Thank you for preparing me such a delicious meal. We chatted and laughed while having the meal and watching the Japanese variety show on TV. Though I could not fully understand what all the show said we had a great meal together. Through conversation, I was amazed to know that my host family had hosted a lot of students and they even had the whole file to keep all their profiles and letters.

In the afternoon, the mother brought me to a huge shopping mall. The shopping mall is located at Miyakonojo of Miyazaki prefecture. At first, I am really shocked to know we went from Kagoshima prefecture to another prefecture Miyazaki but later the host mother told me that Soo city is very near to Miyakonojo so they always go there and they got a pet salon at Miyakonojo. I enjoyed the time shopping with the host mother. This is so mother and daughter like, as we gave one another comments on clothes and accessories. We ate burberry cake and drank juice together. Later, we went to the supermarket and I bought some yummy Japanese local snacks. There were so many special Japanese packages and flavours. In the evening, we went a suhi shop at miyakonojo. They ordered a huge set for me. There were udon, tempura, various kinds of sushi, steam egg, etc. That was so delicious and full. When we arrived home, we enjoyed some fruits and watched TV together.

The next morning, the host mother again prepared a rich breakfast. It was similar to the meal the day before. The burberry yoghurt is so delicious. The host mother told me that the burberry was from her mother's farmland. Even the dog wanted some taste of it as well. That was so cute the dog keeps on leaning on the host mother and sneaks the smell of the yoghurt. And I tried something like preserved mikan. The taste is so special. After the meal, I followed them and visited the host father's another workplace the pet salon. This was my first time to visit a pet salon and see how the cutting hair of dog and bathing of dog were done. This was so new to me. I enjoyed the time playing with the cute dogs.

After lunch, the host family brought me to a tourist spot. On the way almost arrive to the spot, we can see the endless sea and the rocks of special shapes. The waves beat against the rocks. That was so beautiful. The view must be even better if it was not raining but with a brighter sky. After almost 2 hours, we finally arrived the udo-jinu. It is a shinto shrine located at Nichinam of Miyazaki prefecture. This brightly painted shrine is so special that it was set in a cave on the side of a cliff overlooking the ocean. Nichinam is famous for the coastline. But it was so sad that it was raining the view was not that spectacular.

We walked inside the shrine. The host mother showed me how to walk through the door. We need to turn right to make a circle twice and left to have good luck. She showed me the famous breast-shaped rocks which were so interesting. Outside the cave is a terrace overlooking the ocean. Among the rocks below is a target marked by rope into which people try to throw small ceramic *undama*, or lucky balls. My host family taught me to throw the balls with their right hand while men throw with their left. Landing an *undama* in the target brings good luck. It was a pity that I could not hit the target after 5 attempts.

Staying with a Japanese family for 2 days and a night was definitely an unforgettable experience to me. These 2 days was combined with daily life experience (like watching TV, shopping, having meals together, visiting the pet salon) and touring (like visiting the udon-jinu). I know more about the culture and lives of Japanese family. For example, the host father went to work while the host mother took care of other things at home like preparing meals. Despite the language barrier, I can deeply feel their hospitality and sincerity. Thanks my host family once again for letting me experience their daily lives, treating me with lots of delicious food and touring me around. I will miss them and I hope I can come and visit them again with better Japanese so that I can better communicate with them.

The other day, we prepared and practised the presentation for primary school and Kagoshima University. In the afternoon, we had the experience of making Japanese food, sushi and fishcake. The teacher made us demonstration. His sushi was made so beautifully. However, when we made, that was not as simple as we thought, the appearance of our sushi do not look good at all. The ingredients inside the sushi like the sauce and lettuce went outside. We had a fun time making the food ourselves.

The next day, as I went to see doctor, I missed the activity writing wishes on the tanabata tree with kindergarten kids. In the afternoon, we went to the folk museum nearby to the centre. There were different costumes of different nations, for example, chinese, korean, vietnam, etc. We wore them and took lots of pictures. There was a part of highlight that one of the boys wore the female version of korean costume and that was so funny. The staff there brought us to visit the various kinds of musical instruments in the museum. I was so amazed by his musical talents. He performed all the musical instruments. Later, he played the guitar and together with another staff playing piano, they ensembled different familiar Japanese and worldwide famous songs. We had a really great time immersing in the musical world. After the visit, we found some leisure time so we decided to ride bicycle. We rode to another side of the osumi lake and the dam. The biking journey was so refreshing while enjoying the wind and the awesome view.

### **Primary school visit**

When we first stepped into the school, the picture is like the scenes from maruko. There were a playground and grassland before we entered the main building. The kids were wearing cute little hats. There were cabinets for students to put their changed shoes. Soon, the headmaster brought us to visit the different forms of the students. We were so shocked that there were only a few students in a class and the school kids are very active in answering teachers' questions. The interaction between teachers and students were rarely able to be found in Hong Kong. There was an especially active kid that he doesn't sit still and always move and dance. There was a scene that the headmaster lifted him to his arm. It is really lovely to see the close and warm relationship among headmaster, teachers and kids in this school.

After we had the presentation introducing Hong Kong to the kids, we had some recreation games. Though I do not understand very well, I tried to keep up with them. It was really fun and nice to see their happy faces when playing the games. Later we had lunch together with the kids. I was with the primary 5 kids. They were so kawaii as they all dressed with hat and coat to get and distribute the food. That was a good training in building kids' proactiveness in helping others. After the meal, they will place the dishes in good order and wash the milk carton. They dry the milk carton outside the window like some of the drama scenes in Japanese TV. That's why the idea of recycling was deep rooted in Japanese minds from young age. Later the primary 5 kids had a football game against the primary 6 kids. This was extremely interesting running with them and chasing after the ball. It was a pity we can just

spend half a day with them. When we left the school, we were all very reluctant to leave. The kids kept on waving goodbyes to us at the school gate.

### **Burberry farmland visit**

The burberry farmland is so big and we could just pick the burberry from the trees and eat immediately. The burberry was so sweet and yummy. We were also surprised to find the burberry there were so large in size when compared with those we eat in Hong Kong. Also, I always thought it was blue in colour inside the burberry but in fact it was white.

After the burberry farmland visit, we went to a supermarket and shopped a lot of Japanese snacks. Then, we went to try the famous Kagoshima pork. That was a delicious meal.

### **Kimono Wearing**

I have longed wish to wear on kimono like any Japanese girl do. Kimono is so graceful and beautiful. Especially the ribbon at the back that was extremely beautiful. The teachers introduced us various types of kimonos. We tried to sit in Japanese traditional style but soon my feet were so tired and could not stand the pain and give up.. I didn't expect that was so troublesome and confusing to wear one. There were so many layers. After I wore it, I could hardly twist my waist or move around casually. I could only walk small steps. I really admire that the teachers wearing such troublesome kimono could still dance gracefully. We took a lot of pictures even with props like the traditional Japanese sword and umbrella.

### **Community centre**

We originally scheduled to play golf. However, due to the poor weather, golf was cancelled, instead we played some games like bingo and chatted. We also learnt the dialect of Kagoshima. It was really interesting to learn the song in kagoshima bei and the dialect which was only a little different from the formal Japanese which perhaps many Japanese do not even know. We chatted a lot about Hong Kong. This is out of my expectation that they were so curious and interested about Hong Kong. They asked us many interesting questions about Hong Kong. They taught us to play a drinking and guessing game and we taught them back a game called 5, 10, 15, 20 and some simple Cantonese for example, the pronunciation of their names.

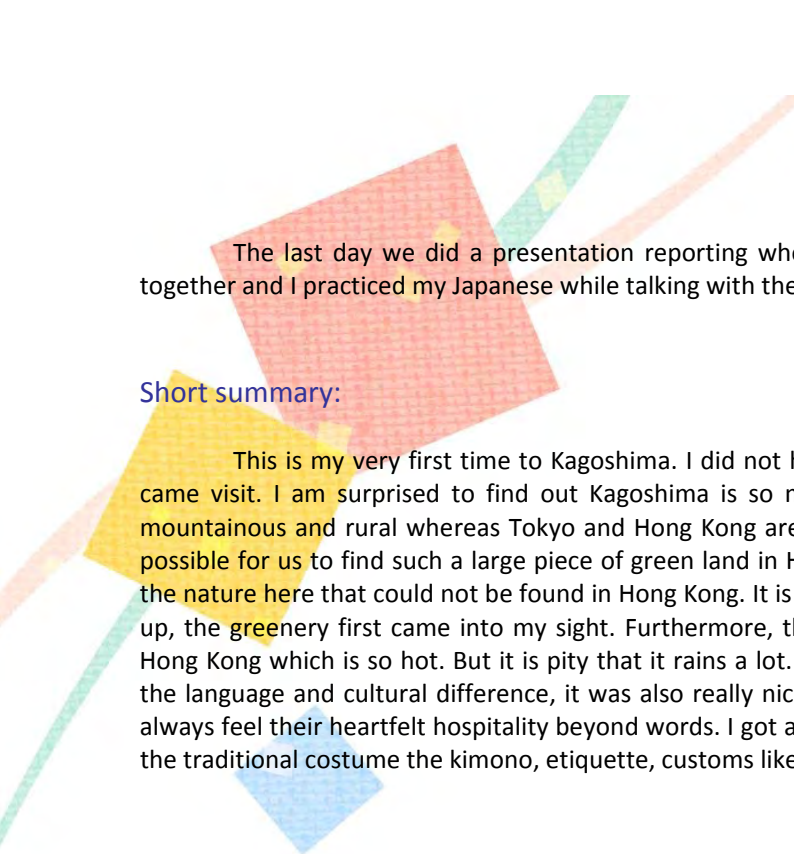
### **Exchange with Kagoshima University students**

After the presentation from Kagoshima University students, we learnt more about the local culture of Kagoshima like the food, drinks, traditional art and places. We were all very excited to meet the Kagoshima University students to find out more about Kagoshima and make firends with them. Chilam, Lynn and I were in a group with 4 other Kagoshima university students. Firstly, we planned about the schedule of the other day. Later, due to the poor weather, we could not have barbecue in outdoors that we could only stay indoors. We had barbecue pork as dinner. That was so delicious and we all got so full.

The next day, we took bus to Sakurajima and ferry to the Kagoshima Shi. We started a day at Kagoshima shi with the Kagoshima University students. We first went to the central station where we can go to the ferris wheel and enjoy the nice view of Kagoshima shi. The weather was not bad that we could see the buildings clearly but it was a pity that we could not see the Sakurajima clearly as it was covered by layers of mist. After that, we went to an udon shop to have lunch. I got a taste of daigon which was an appetizer. But sadly it was not very delicious; perhaps it was the Japanese flavour that we were not very used to. And we had the zoba and egg roll. Both dishes were extremely delicious. Then, we went to visit the workplace of the traditional artpiece of Kagoshima. Those artpieces were amazingly beauful. I would definitely buy home if they were not that expensive.

Lastly, we went to tenmonkan, a famous shopping area in Kagoshima. We gave a taste of Shirokuma, a very famous desert in Kagoshima. Condensed milk, fruits, and sweet bean paste are served over shaved ice. The desert is similar the ice but it was slightly more sweet.

The night we were back at the centre, the nearby Sakurajima had a shake and its ashes were like raining. The Japanese were like normal but this is completely new to us as this would never happen in Hong Kong. We went playing hanabi with the kagoshima university students. Hanabi It is not allowed in Hong Kong so this is my very first time. It was so fun and beautiful.



The last day we did a presentation reporting where we went the day before. We had spent a great time together and I practiced my Japanese while talking with them.

#### Short summary:

This is my very first time to Kagoshima. I did not have any idea to this place until I applied the program and came visit. I am surprised to find out Kagoshima is so much different from Tokyo and Hong Kong. Kagoshima is mountainous and rural whereas Tokyo and Hong Kong are surrounded by dense high-rise buildings instead. It is not possible for us to find such a large piece of green land in Hong Kong. I really enjoyed the time staying alongside with the nature here that could not be found in Hong Kong. It is so refreshing and relaxing that every morning when I woke up, the greenery first came into my sight. Furthermore, the weather of Kagoshima in late June is quite cool, unlike Hong Kong which is so hot. But it is pity that it rains a lot. The scenery will be much better when it is sunny. Despite the language and cultural difference, it was also really nice to meet the locals and talk with them in Japanese. I can always feel their heartfelt hospitality beyond words. I got a deeper understanding towards Kagoshima and Japan from the traditional costume the kimono, etiquette, customs like visiting shrines, traditional artwork, to food and drinks.



## 12. 林敏玲

### 初到鹿兒島

這次是我第一次到鹿兒島。到達鹿兒島的時候雖然已經很晚，但是當地清新的空氣還有在前往研修中心的車程中所看到周圍昏黑寧靜的環境，已經讓我感覺到鹿兒島這個地方和香港的截然不同。鹿兒島的天氣比香港要清爽得多，讓人感覺很舒服。香港周圍都是高樓大廈，十分擁擠，而鹿兒島到處充滿大自然的景色，不僅山林處處，而且還有很多廣闊的農田。鹿兒島的樓房都是小小的，很可愛。滿眼的綠色在鹿兒島是慣常的風景，但是在香港卻是很少見的景象，讓我感到很震撼也很感動。

研修中心的景色也十分漂亮和開揚。研修中心的面積很大，而且依山環水。研修中心還種著不少繡球花，它們正值盛放的季節，開得燦爛至極，十分漂亮！研修中心的設施也十分齊備，不僅有提供美味三餐的飯堂，還有洗衣房，電腦室等等。房間也都很整齊乾淨。研修中心附近還有一間民族館，裡面有很多有關東南亞民族特色的擺設，還有不同國家民族的衣服可供試穿。

第一天早上是簡單的開講式，職員大久保小姐還為我們介紹中心的設施。下午就是有關兩日一夜 homestay 的說明會。這是我第一次參加 homestay 的活動，真的既緊張又期待。

### 兩日一夜的 homestay 生活

我被分派到的家庭是紺屋家，有紺屋小姐和她七歲的兒子裕里。在對面式的時候，由於紺屋小姐要工作，所以不能到研修中心接我，最後由大久保小姐駕車載我到紺屋小姐工作的地方——一家音樂教室，紺屋小姐在那裡教小學生英語。在音樂教室和紺屋小姐初次見面，她燦爛的笑臉讓我緊張和不安的心情一下放鬆不少。而且紺屋小姐只是三十歲左右，就像一個大姐姐的感覺，十分親切。由於紺屋小姐接下來還有課要上，於是她邀請我和她一起上課。紺屋小姐主要是教低年級小學生一些簡單的英語，而且都是小班教學，每節課都只有一至三個左右的學生。紺屋小姐說日本人都是中學才開始正式學英文，所以現在家長都希望小孩子儘早接觸英文。在課堂裏，紺屋小姐都向學生介紹我是從香港來的，還給小學生看香港的影片，我感到很高興。紺屋小姐還邀請我跟小學生做簡單的對答練習和遊戲，他們都很乖巧很可愛。

課堂都結束之後，紺屋小姐載我到超市買晚餐的材料。之後，紺屋小姐說她朋友的女兒想要來她家玩，還想跟我見面，我真的有點受寵若驚。那個女孩叫 Rurika，是個中學生，我們到渡輪碼頭接她一起回紺屋小姐的家。不久，裕里也從他爺爺那邊回來了。裕里一回來就在玩玩具，是個很可愛的小男孩。在晚餐的時候，我第一次嘗試了日本的納豆。一直都聽說納豆不好吃，但一嘗之後竟然是想像之外的好吃，有種淡淡的酒味。紺屋小姐也對於我能吃納豆感到驚訝，她說很多外國人都受不了納豆的味道，但我覺得納豆也沒有想像之中難吃。我們一邊吃飯一邊聊天，我的日文不太好，有時說得很結巴，但是他們都很耐心地聽我講。晚飯之後，Rurika 說想要一起唱歌，原來她最近很喜歡 Let it go 這首歌。於是紺屋小姐就開了電腦讓我們一起看 Let it go 的影片，Rurika 和裕里都很開心地跟著一起唱。之後，我也給他們聽了 Let it go 的粵語版，雖然他們不懂粵語，但是他們都說粵語版也很好聽。

第二天是裕里的小學所參加的家長教師排球大賽的日子。早上我們送別了 Rurika 之後，就前往體育館。體育館很大，裏面已經聚集了很多家長老師還有小孩子。大家都穿著運動服，精神滿滿的樣子。裕里的小學叫垂水小學校，我們負責做啦啦隊為垂水小學校的隊伍打氣。在體育場中同時進行四場比賽，不同學校的家長老師各自組成自己學校的隊伍和別的學校對決，一直淘汰直到決定進入決賽的隊伍。在比賽中，我見識到了鹿兒島的家長們還有老師們高超的排球技巧。他們的動作走位簡直有專業的水準，彈跳有力，球球有勁，看得我目瞪口呆。紺屋小姐說大家平常都是普通的上班族，但是鹿兒島的人們都很喜歡運動，所以有空都會打球做運動。而且，小學除了排球大會，還會有棒球大會，游泳大會，大家都會很高興一起參加。在香港，大家都只忙於工作玩樂，又有多少人會做運動，就連我自己也很少做運動。這種家長和老師一起參加的運動大會，在香港更是難以找到。就算沒有出場比賽，其他家長學生都會自己學校加油打氣，這種老師和家長的交流方式真的很好。

排球大會完結之後，紺屋小姐帶我去吃醬油雪糕。剛聽名字真的無法想像會是怎樣的雪糕，不過它的樣子其實也是普通的雪糕，但吃起來會嘗到淡淡的鹹鹹的的醬油味，十分好吃。吃過雪糕，差不多是要回研修中心的時間了。我們先會紺屋小姐家拿東西，紺屋小姐和裕里還專門換上他們幾年前到香港旅遊時買的印有 “I love HK” 字樣的襯衫，我真的十分感動。在研修中心吃過晚飯後，就是離別的時間了。兩日一夜的時間實在太短，希望以後有機會再到鹿兒島看望紺屋小姐和裕里。

### 與鹿兒島居民交流

除了兩天一夜的 homestay 生活，我們還有其他機會跟鹿兒島居民交流。首先，我們到一間叫大黑小學校的小學參觀交流。我們在校長熱情的帶領下到教室參觀小學生們上課的情況。到了午飯時間，我們被分派不

同的級別跟小學生們一起吃午飯。日本的小學都是給食制度，小學生們輪流負責分派飯菜的工作，吃完飯之後自己收拾。讓我感到驚奇的是，他們還會把牛奶盒拆開洗乾淨，然後晾起來，做循環回收的工序。日本的小學生從小就懂得自理還有培養環保的意識，實在值得香港借鏡。午飯之後的休息時間，我所在的五年級學生想跟六年級學生一起踢足球，於是我也跟他們一起到操場踢足球。小學生們的足球技術也都很厲害，我們這些大學生都不是他們的對手。踢完足球，很快就到了分別的時間。小學生們都跑到校門送別我們，我們都感到很不捨。

此外，我們還跟一些年長的鹿兒島居民進行交流。由於天雨的關係，原定一起打高爾夫球的行程改為在室內進行活動。鹿兒島的公公婆婆都很親切。他們教我們鹿兒島方言，原來鹿兒島方言和日本標準語也有很多不同，真是十分有趣。我們還一起玩 Bingo 還有一種日本人喝酒的時候會玩的遊戲。我們都渡過了很開心的一天。

### 日本文化體驗

說到日本美食，很多人第一時間應該會想起壽司。這次，我們有機會嘗試自己握壽司和做卷物壽司。看師傅示範的時候好像很輕鬆的樣子，但是自己親手做卻是手忙腳亂。做卷物壽司的時候，如果紫菜裏放到的米飯和材料太多的話，卷的時候材料都會擠出來，做不到好看的卷物壽司。而握壽司的時候，我們又不知道怎樣可以把米飯握緊成一個好看的飯團，結果米飯都有點鬆散。雖然製成品都不如師傅握的好看，但是自己親手握的壽司，味道也都特別好。

除了嘗試做壽司，我們還有機會試穿和服。日本的和服都十分漂亮，但穿著的方法一點都不簡單。不僅要先穿幾層的內衣，穿和服的方法也很講究。我們在老師的指導和幫助下，也要花一個多小時才穿好和服。雖然有很多步驟，但這是我第一次穿和服，作為一個香港人，以後恐怕也沒有什麼機會再穿和服，所以是一個很難得寶貴的經驗。我們都互相拍了很多照片，留下美好的回憶。

### 與鹿兒島大學的學生交流

最後三天的行程是和鹿兒島大學的學生一起交流。我們被分派在不同的組別，和鹿兒島大學的學生一起在鹿兒島市區行動。所以我們第一天首先在研修中心討論第二天在鹿兒島市區的行程。雖然我們是初次見面，但鹿兒島大學的學生們都十分親切，我們很快就決定好當天的行程。

第二天我們從研修中心出發，坐車到位於櫻島的渡輪碼頭，再坐渡輪前往鹿兒島市區。鹿兒島的渡輪和香港的有點相似，但鹿兒島的渡輪還可以載車，實在十分新奇。到達鹿兒島市區後，我們首先到鹿兒島中央車站乘坐摩天輪。從摩天輪上可以鳥瞰鹿兒島市區的景色。鹿兒島市區和研修中心周圍的環境不同，鹿兒島市區裏大廈樓房比較多，交通也比較繁忙。之後，我們到薩摩切子工場參觀。薩摩切子是很有名的玻璃製品，全部都由人手製作。我們在工場看到工人在酷熱的環境中燒製玻璃，再認真打磨出美麗的花紋。薩摩切子的造工精美，同時也價值不菲，我們都只有看的份兒了。接著，我們乘車到天文館，品嚐鹿兒島一款名叫“白熊”的刨冰，這款刨冰在鹿兒島十分有名。它是煉奶口味，白色的刨冰上再放上不同的水果，用葡萄乾擺放出白熊的五官樣貌，真是十分可愛。它的味道也相當美味，在炎熱的季節吃到如此美味的刨冰，真是一大享受。在鹿兒島市區活動的這一天裏，又讓我對鹿兒島增加了認識。在一天的相處中，也讓我們和鹿兒島大學的學生變得熟悉起來，成為朋友。到了離別的時候，大家都很捨不得，希望以後能有機會再見。

### 總結

在來鹿兒島之前，我對於鹿兒島並不熟悉。經過這段在鹿兒島生活的日子，我喜歡上鹿兒島的自然風光和親切的人情。這次研修課程也讓我多了練習日文的機會，更加認識到自己日文的不足。我會繼續學習日文，也希望以後能再有機會重回鹿兒島。

### **Short summary:**

I am very happy that I could have a chance to join this summer exchange programme. This is my first time travelling Kagoshima. I had a great time during these days in Kagoshima and got an unforgettable experience. I love the nature of Kagoshima. It is very beautiful. The people of Kagoshima are very nice. I met many kind people and be friends with them. Compare with Hong Kong, Kagoshima is a very relaxing place. It is a very good place for living or travelling. I hope I can go back to Kagoshima in a very short time and visit my host family and friends.

### 13. 黃智琳

是次的鹿兒島縣日語研修課程為期十日，同行的中大學生一共二十人，沒有隨團導師。出發前，個別同學被安排擔任不同崗位，包括團長、副團長、攝影、準備手信，而我則負責設計大合照用的橫額，並於課程期間隨身攜帶，在拍攝大合照時多點利用。

我們提前一天在香港出發，由於當天早上汀九橋上發生車禍，不少同學都比約定時間遲了到達機場，我更是最後一個才到，加上我手持拍攝出發大合照要用到的橫額，使其他同學都得等我到達後才能入關。雖然旅程還未真正開始，但經此教訓後，我對自己更加警剔，因為一個人的失誤，便可能連累到整個團隊的進度。更甚者，我們沒有隨團的導師，必需靠大家的自律和合作。

奔波了大半天後，我們終於在晚上抵達鹿兒島機場。甫到達，我們就看見 KAPIC 的職員——大久保小姐。她個子不高，架住一副幼框眼鏡，十分和藹友善。稍作噓寒後，大久保小姐就接待我們乘搭開往 KAPIC（是次課程的研習中心）的旅遊巴士。由於當時已很晚，而日本的食肆大多很早就關店，於是司機在一所便利店附近停了一會兒車，讓我們到便利店買東西吃。這於日本的第一頓晚飯也挺特別，別有一番風味呢！我們到達 KAPIC 的時候已是大概晚上十時多，車窗外漆黑一片。大家換過室內的拖鞋後，就各自回房間休息。

來到 KAPIC 的第二天，我們吃過 KAPIC 中心的早餐後，就準備一會兒的開業式。我們要在大家面前以日語作簡單的自我介紹。日語水平稍遜的我對這突如其來的「挑戰」感到有點緊張，幸好我的順序較後，可參考其他同學的用字。開業式很簡短，結束後，我和朋友到 KAPIC 中心的戶外的地方四處參觀。那裏的空氣十分清新，放眼盡是綠油油的草坪和不同顏色的繡球花，很是賞心悅目。此外，還有小橋、流水、涼亭，和一些很有民族特色的矮建築等。來到這裏，確實有點遠離繁囂人煙的感覺呢！逛了一會，我們便回到很有日本風味的「和室」上課，學習於寄住家庭時會用到的應用日語。接着下來便是分派未來兩天寄住家庭的資料，我所分派到的家庭有三個女兒，都比我小，由於我很喜歡小孩，這使我十分期待呢！而其他同學都顯得十分雀躍，互相討論、分享家庭資料。

課程的第二、三天便是寄住家庭體驗。我們齊集後，便移步到研修室與寄住家庭會面。到來的家庭已安坐在研習室，我們一排地站在他們前方，逐一作自我介紹，然後所屬的家庭就會向該位同學招手，這種「認領」方式真的頗有趣呢！待所有同學都坐回自己寄住家庭的身旁後，大家便開始陸續出發。我的寄住家庭的母親（朋子）、兩個女兒都來迎接我了，在場還有另外兩個家庭分別是女孩們的婆婆，以及婆婆的朋友。接着下來兩天，我們三個家庭都會一同四處遊玩。我們首先到一所茶葉工房參觀，並學習自製茶葉。朋子說，連她們也是第一次自製茶葉呢！工房不算很大，是家庭式的，那裏的人很好客，準備了茶水，和菓子、天婦羅等招待我們。吃過午飯後，他們便教我們製作茶葉。我們首先把茶葉放進一個鍋內乾炒，然後盛起來，用手把它們搓軟、揉碎，再乾炒。重覆大概十多次後便完成。新鮮製作好的茶葉很香，主人即場用它們泡茶給我們喝，並把餘下的都送給我們。大家一起閒聊，不知不覺已聊了一個下午。臨別前大家一起合照，依依道別後，我們便離開了工房，泡溫泉去。不習慣泡熱湯的我感到有點頭暈，於是朋子教我可泡三分鐘熱水，然後泡三分鐘冷水，如此重覆還可促進血液循環呢！泡過溫泉後大家都感到身心鬆馳，便回家休息，準備晚餐。是日的晚餐豐富得很，有串燒、日式咖喱、沙拉、蜆肉湯等，晚餐後閒聊了一會，我和另一個 KAPIC 的同學便回婆婆的家睡覺，小女兒和另外兩個小表弟妹也跟來了，我們一起玩耍至晚上十一時多才睡覺。

第二天早上，我們到朋子家經營的小吃店參觀，那裏雖然不大，但五臟俱全，冰淇淋機，炸薯條機，還有製作章魚燒的用具呢。他們的油炸器經過加裝，怎樣放水也不會濺油的呢，直叫我們大開眼界。他們即場炸了一些薯條和燒了數盒章魚燒給我們吃，那些章魚燒與香港的不同，由於沙拉醬是放在球內的，因此球身較軟，還有點下陷，很可愛呢。然後，朋子就帶我們外出吃拉麵，這是重點環節之一，因為她在第一天問過我們最想吃到甚麼日本的食物，而我們三人都特別想試試日本的拉麵，於是今天她便特意帶我們到附近一所有名的拉麵店去吃午餐，一了我們的心願。日本的拉麵口感與香港的果然不同，不只是我，他們也吃得津津有味。接着，朋子帶我們不同的店鋪購物去，到了大概五時便回 KAPIC 中心一起吃晚飯。大合照後，我發現大家都陸續離開了，以為明子一家這麼倉促就走了，還未正式道別呢，急得我趕忙追出中心外，幸好大家都只是去了大堂。雖然兩天的時間實在很短，但朋子一家，婆婆和婆婆的朋友都對我們無微不至的照顧，把一切心思都花在我們身上，而明子的三個女兒也十分友善，即使年紀比我們小，但也十分體貼，事事以我們為先。這一切都令離別使人難受。時日雖短，但這兩天的體驗絕對是畢生難忘！

往後在 KAPIC 的幾天也有不少寶貴的體驗，以下是較深刻的活動。在中心內的包括製作日本料理、和服體驗。外遊活動包括參觀大黑小學校、與鹿兒島大學生到鹿兒島市一天遊等。

在香港有不少吃日本料理的地方，但自己親手製作卻是第一次。我們分成五人一組，先看壽司師父示範，師父手法純熟、乾淨利落。可是到了我們自己做的時候卻是步步艱難，尤其是把壽司捲起來和切壽司的步

驟，大家都亂了腳。其中一個壽司卷的飯太多，整個都散掉了，師父經過時看見，便用一塊大菜葉把整個飯捲起來，場景十分好笑！

和服體驗是我最期待的活動之一。活動在和室進行，當天還請來了兩位教導和服知識的老師來指導我們。穿和服之前，我們需跟老師敬禮，並體驗一下日本的正式禮儀。大家都很不習慣跪坐在地上，只消一會已雙腿酸軟，臉上表情痛苦，相反老師們表現得很從容，場面非常滑稽。接下來，老師表演日本舞蹈。我是第一次現場看日本舞蹈，而且是在這麼傳統的和室，感覺很新鮮。日本的舞蹈節奏很慢，幅度不大，好像每個動作都得小心翼翼，而且投放了很隱晦，卻又很深的感情在內，彷彿在看一場電影。看過表演後，終於到試穿和服的環節了。大家的和服都是隨機分派，大家都各自抽到不同的款式。穿著和服的過程十分繁複，光是腰間已不知繫了多少層帶子，目的是使身體的線條看起來很筆直。雖然老師一步一步的示範給我們看，但到穿的時候還是毫無頭緒，幸好兩位導師都很耐心地個別幫我們穿著。整個穿著過程歷時一小時，實在不容小覷！

課程的第六天，我們到了大黑小學校參觀。這所小學全校的人數只有數十人，但校舍卻比我的小學還要大！除了課室，還有一個大球場，養動物的地方、種植的地方等等。學校的校長和每個學生都十分親密，像父親和兒子一樣。校長帶我們到各級班房參觀，每班只有數個學生，是明符其實的「小班教學」呢！午飯的時候，我們和另外幾位同學被分派到和五年級的同學一齊吃。他們十分注重衛生，盛飯的時候要戴上口罩、圍裙，飯後也會立即刷牙。飯後，我們到球上踢足球去，五年級和六年級的同學比賽，我們則加入其中。想不到他們個子小小，腳法卻很靈巧，我們這些大哥哥大姐姐則在旁喊累，實在自愧不如呢！離開的時候，他們用手圍成了一條橋讓我們穿過，走到一、二年級的橋的時候，橋特別的矮，很難通過，但很可愛！所有小學生到堆在門前歡送我們，直到校巴開走了，還有一個小男孩追着校巴跑呢！

與鹿兒島大學生交流也是是次行程的一個重點活動。他們在第八天的下午來到 KAPIC，大家自我介紹後，便開始報告雙方事先準備好的簡報，分別介紹中文大學和香港，以及鹿兒島大學和鹿兒島。接着便分成幾組，分別計劃次日鹿兒島市一日遊的行程。我組的鹿兒島大學生都很文靜溫柔，也很幫助我們，不消一會便完成了行程安排，還為我們組起了一個組名——白熊。

次日，我們一同坐船到鹿兒島市，然後分組解散。我們先坐觀光摩天輪，午飯是蕎麥麵，過程中我們談了很多，如日本的前菜和香港前菜的分別。我們還發現了那所餐廳內很多長者，但在香港，甚少看見有老人家到日本餐廳去。這使我們很不習慣，而且感到很好笑呢！接着我們搭市內觀光巴士參觀薩摩工場，親眼觀看琉璃的製作過程。接着我們到天文館逛街，吃「白熊」甜品，然後便回到集合地方，完成今天的一日遊。

### Short summary:

It was my third time been to Japan, but this time was different from the first two trips. In Kagoshima, we were more exposed to the nature. The center we lived in was far away from the city. We could barely see cars and crowds, which was very different from Tokyo or other big cities in Japan. The pace was slow and relaxing. We had many chances getting connected to people in Kagoshima, like people I met during Homestay, the students and teachers in primary school and the Kagoshima University. Their personalities were more gentle and genuine. They were also friendly and passionate seeing foreigners. All these made me couldn't forget all the experiences in Kagoshima, and the warmth they gave me.

## 14. 黃家豪

是次日研系主辦的鹿兒島暑期日語研修課程的主要活動日期為期十天，活動的主要目的除了提升日語知識，研修日本文化外，亦有不少實際應用的環節。

第一天，KAPIC 中心的館長渡邊先生、負責我們主要行程的大久保小姐，以及其他 KAPIC 中心的職員跟我們一行二十人進行開幕致詞。說實話，當時我們當時的心情既興奮，又緊張。興奮是因為終於有學以致用的機會，是「用」一種語言，而不是單單在教科書上「學」一種語言，我們都對無限的未知有無比的期待；可是另一方面，我們又因為不能確定的將來感到緊張，因為我們都不知道這十天會怎樣渡過，「究竟我們能否用有限的知識應對得體？」這疑問伴隨的不安，是我們第一天最大的煩惱。我們一行人的日語程度不一，然而我們都要在第一次上一節日語課，以學習 home stay 活動時用得到的日語，這節課亦緩和我們 home stay 的緊張心情，有一句導師說的話的大意，學生到活動完結後的今天依然記得。

「你們不用擔心緊張，其實 homestay 的家庭亦同樣緊張，只要你們盡情跟他們交流打成一片就可以了。」

也許因為這一句，學生也不想太多，積極迎接接下來兩天的 home stay 活動。

第二天，早上是 home stay 活動的開幕儀式，中大學生的我們介紹過自己後，便坐到自己的 home stay 家庭旁。果然如第一天的老師所言，我跟 home stay 家庭一工藤先生還有他的妻子起初亦非常靦腆，那一份在異地家庭住上一晚的感覺，加上自己的日語能力有限，實在比較難主動交流。幸好工藤先生他們是非常熱情的人，即使我在找話題上頗為被動，他們仍然不斷主動跟我搭話。其實我不主動找話題的原因，除了因為自己日語不太好外，亦因為我不知道他們在話題上的避忌，所以我在主動開口說話前不斷猶疑，回過神來，對方已經比我先開口了，當然我亦積極跟他們對答，亦有追問。他們主動聊的話題，對他們來說應該就不會是尷尬的話題了吧？我是這樣想。

Home stay 的兩天都下著大雨，非常可惜，可是卻無損我們交流的熱情。Home stay 的第一天，工藤先生他們帶我體驗日本正式的溫泉，除了教會我日本公共澡堂的使用文化外，還教我分出真正溫泉的方法，這是香港不能體會的。晚上，因為家裡跟市區有相當一段距離，而且鹿兒島的商舖較香港的營業時間短得多，所以我們只好在家裡看電視。工藤先生他們除了跟我聊到日本的流行文化、傳統文化外，亦向我介紹鹿兒島的地理特徵、自己過去的生活等，他們的主動、熱情，是我勇敢跟他們繼續搭話的唯一原動力。

Home stay 的第二天，吃過早飯後，工藤夫婦帶我到附近比較有規模的神社參拜，亦做了第一次日本式的許願，日本的許願方式有別於中國，學生一般只能在電視上見到，實際做還是第一次。之後，我們到櫻島的海旁慢步，雖然還是有點雨，可是我們還是走出車散步。看著一望無際的大海，我跟工藤先生他們聊起香港、東京、鹿兒島的分別，果然，學生比較喜歡鹿兒島的寧靜。

回到 KAPIC 中心，我跟其他 home stay 的家庭也聊過不少，雖然他們的用字、語速都非常遷就我，但他們的耐心，令我能明白他們的話，合理化我要表達的意思，這是 home stay 交流留給我最深的印象。

第四天，KAPIC 中心安排了我們體驗自製壽司，看過壽司師傅的示範，有一種「很容易」的錯覺，看上去很易，其實要做得好是相當困難的，飯的份量、握飯的力度、放飯的位置等，所有工序都不能錯，不然造出來的壽司不只味道奇怪，賣相亦被影響。學生造的壽司正因為在工序上的細節記得不牢，正當學生想做修正的時候，發現造壽司是不可能修正的，壽司師傅見到我的「作品」亦出手相助，可是最後難逃失敗的現實，所以我造的壽司成為了全組唯一的「失敗作」。雖然我造的壽司失敗了，可是讓我認識了日本人對細節的重視，還有一絲不苛的態度，不能算是失敗的經驗吧。

第五天，首先是高隈保育園的交流，然後是到民族館參觀。

在日本，七夕是個全國慶祝的節日，民間亦有大大小小的慶祝活動，跟中國有很大分別。第五天上午的交流活動，就是認識及體驗日本人在七夕時掛「竹笹(竹葉)」到許願樹上的傳統。除了認識日本人的七夕外，我們亦在短短的一小時裡跟保育園的小朋友打成一片。

七夕交流後，我們到 KAPIC 中心附近的民族館參觀。中心的展品包括不同民族的樂器、外國的象棋，館長先生 Marty 就不同的樂器進行了約半小時的講解，館長先生亦為我們示範了不同樂器的演奏方法，然後我們用那些樂器合奏一首簡單的歌曲，雖然我們的音感還有技術不及館長先生好，不過我們都很享受合奏的氣氛，令我們樂在其中。

第六天的活動有大黑小學交流活動、參觀藍梅園，還有品嚐當地馳名的黑豚肉。

在大黑小學，首先我們為該校的學生簡單介紹香港的特色地方、文化，例如飲茶文化、著名的凌霄閣，然後當地的學生跟我們玩日本小孩的遊戲，那些遊戲所有都是聞所未聞的，當我問小學生們：有否玩過「拔河」遊戲，他們說沒玩過，只是見過，可是拔河是香港小學體育課時不時會玩的遊戲。學生有感，小孩子的遊戲都有明顯的文化差別呢。玩耍過後，是在校用膳的時間。跟香港有午飯公司完全負責的午膳方式不同，日本的小

學生要自己負責午飯的準備工作，由準備到收拾都要自己完成，這是港日小學的午飯最大的分別，當然，我們中大學生當天亦有參與，非常特別。飯後的午休時間，中大學生的我們跟當地的學生集體活動，有足球、閃避球等，香港的小學活動不如日本般多姿多彩，這是我們嚮往的童年生活。不過有同行的鹿兒島大學學生跟我們分享，日本的小學生活的確很輕鬆，不過從中學開始，便被繁重的學業擠滿時間表，情況比香港更嚴重。也許這是工作量的分佈問題吧，日本集中在中學開始後的教育，而香港把所有工作量均分在所有教育階段上。

午休時間結束後，我們離開了大黑小學，到藍梅園參觀。參觀的藍梅園非常大，廣闊的藍梅園只是由一對夫婦還有幾個員工打理，而且在不用化學農藥的情況下，打理的工夫會變得更沉重，我們都很佩服園長等人的心力，對香港人的我們而言，我們很難理解精細農業的精神。聽過園長的詳細講解，我們在園裡走了一圈，園長邀請我們品嚐藍梅樹上的果實，因為沒有化學農藥或肥料，所以我們可以安心食用，這些藍梅的味道，比起香港超市的更為新鮮、好吃。身處田園風光，品嚐新鮮的農作物，多麼寫意。

到過藍梅園，下一站是鹿兒島馳名的黑豚肉店。店長為我們講解黑豚的特色還有介紹黑豚肉的特別製法和食法後，店長便讓我們品嚐黑豚肉的美味。特別的醬汁，加上與蔬菜的進食搭配，更加突出了黑豚肉的美味。

第七天是日本的和服體驗。導師先為我們講解日本和服的特色，還有為我們解釋對我們而言幾乎一樣的細微差別有甚麼意思。導師為我們示範了傳統的日本女性如何穿著表演舞技，中大學生的我們聚精會神欣賞導師的表演，雖然對我們而言，要學懂欣賞有點困難，不過我們都盡力做到最好。之後是我們穿和服的體驗。穿和服的步驟非常複雜，非得導師的幫助不可，由和服的複雜性可知，日本人對衣著亦有相當高的要求。我們換上和服，視線被美輪美奐的和服吸引著，在這難得的機會下，伴隨那份新鮮感，我們瘋狂地不斷拍照，留下了美好的回憶。

第八至十天，是跟鹿兒島大學的學生的交流活動。

第八天，我們互相認識對方，計劃下一天到訪鹿兒島市中心的行程安排。起初的尷尬氣氛，有如 home stay 活動時第一次跟 Home stay 家庭會面一樣，不過跟 home stay 活動相同，因為對方的熱情，我們很快便有說有笑，學生亦抓緊機會，了解鹿兒島，以致日本在不同領域的文化，然後分享香港的不同，做出比較。有不少差異，例如車費的差距、食物文化，他們都非常感興趣，而且分別很明顯的。

第九天，我們到鹿兒島市中心遊覽，我們第八天定的行程其實只是作為建議行程，第九天我們大致上跟隨我們當時希望遊覽的地方而行，因為時間相當有限，為了能更了解我們感興趣的地方，我們選擇隨心。當日我們到過市郊地區的瞭望台、商店街、飾物店、特色食品店、露天足浴等具有當地特色的地方。當然在過程中，我們一直跟作為嚮導的大學生們交流港日的差異。可能中大學生的成員們經過 home stay 活動後，已更多面對陌生的日本人，組員和我也都很主動跟當地大學生交流，令我們獲益良多。

最後一天的第十天，我們先是就第九天的遊覽進行匯報，其後 KAPIC 中心的渡邊先生及大久保小姐致活動閉幕詞，活動正式結束。

這十天的活動裡，除了鹿兒島的中學生及高中生外，我們一行二十人幾乎跟所有年齡層的日本人溝通，交流內容除了令我們更了解日本外，亦「陌生化」香港這個我們土生土長的城市，我們從日本人的角度理解香港，令我們更珍惜本來視之為理所當然的事。學生認為，活動不只加深了我們對日本的認識，而且給予我們一個機會反思自己居住的城市，再進一步，學會欣賞別國的文化。

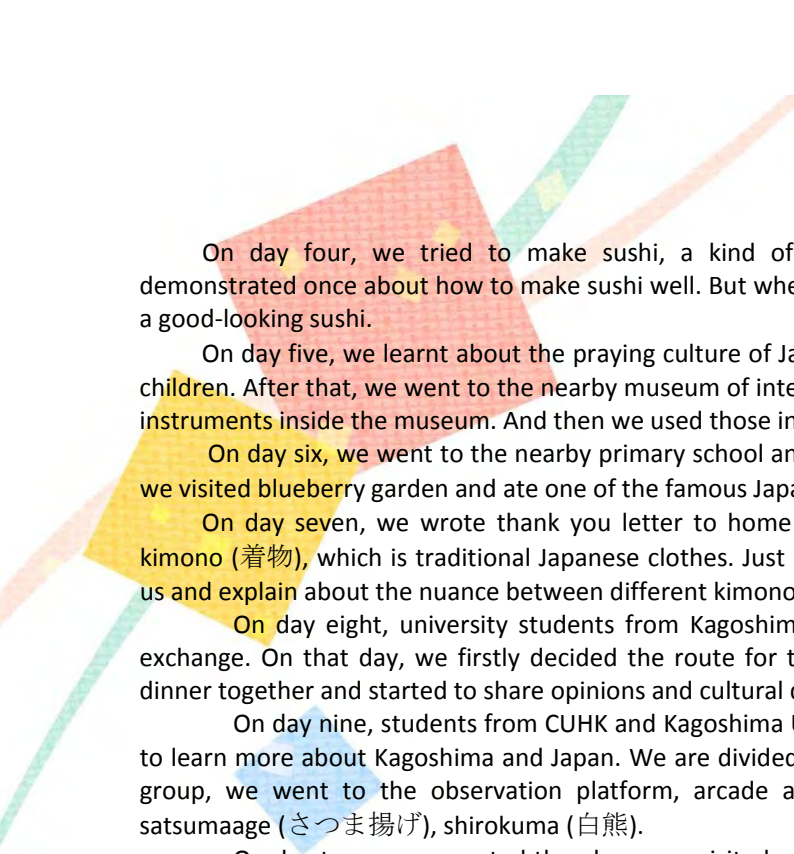
### Short summary:

This is a ten days trip in KAPIC centre, Kagoshima, Japan, aiming at deeper learning in Japanese culture.

On day one, after the opening ceremony, we learnt Japanese useful in home stay session, for example, the etiquette when having a meal, having a bath. It also helped us to be mentally prepared for the home stay session.

On day two, we met our home stay family in the morning. We briefly introduced ourselves, and then we set next to our respective homestay families' members. After a brief conversation, we left KAPIC centre and went to home stay families' home. My home stay family is kudou (工藤) san.

Due to the rainy weather, on day one, I just stayed at kudou san's home and talked with them with the help of surrounding materials like newspaper, map. And on day three, since the rain got smaller, kudou san drive me to nearby city and hanged around before getting back to KAPIC centre. Finally we had dinner together and shared our experience with other groups.



On day four, we tried to make sushi, a kind of Japanese cuisine, by ourselves. Cook of KAPIC centre demonstrated once about how to make sushi well. But when we tried to make ourselves, it was quite difficult to make a good-looking sushi.

On day five, we learnt about the praying culture of Japanese in double seven festival (七夕) with kindergarten's children. After that, we went to the nearby museum of international culture. Boss of the museum teach us how to use instruments inside the museum. And then we used those instruments to play a short performance.

On day six, we went to the nearby primary school and played with the students, had lunch together. After that, we visited blueberry garden and ate one of the famous Japanese cuisine, kurobuta (黒豚).

On day seven, we wrote thank you letter to home stay family on the morning. On the afternoon, we wore kimono (着物), which is traditional Japanese clothes. Just before that, teachers explain different types of kimono for us and explain about the nuance between different kimonos.

On day eight, university students from Kagoshima University came to KAPIC centre and start our cultural exchange. On that day, we firstly decided the route for the tour in Kagoshima city on next day. And then we had dinner together and started to share opinions and cultural difference between Hong Kong and Japan.

On day nine, students from CUHK and Kagoshima University go to Kagoshima city to have a culture tour so as to learn more about Kagoshima and Japan. We are divided into seven groups so as to facilitate our schedule. For our group, we went to the observation platform, arcade and tried different special cuisine in Kagoshima such as satsumaage (さつま揚げ), shirokuma (白熊).

On day ten, we presented the places we visited on the day before and what we learnt in the tour. After the presentation, boss of KAPIC centre and other teachers gave us a speech in closing ceremony. The whole KAPIC activity ended after the speech.

## 15. 王瑩

六月十九日的早上，我們到達香港國際機場，懷著興奮的心情登機。我們要先乘飛機到東京成田機場，再乘坐巴士到羽田機場乘搭飛往鹿兒島的飛機。晚上到鹿兒島機場後，研修中心的大久保小姐已一早到達，接我們到研修中心。因為坐了一整天的飛機，大家都很累，加上沒有晚飯吃，大家只能在前往研修中心的車途中，下車到附近的便利店買便當或飯團吃。這就是我們在日本的第一餐。

六月二十日的早上，大久保小姐便為我們作活動簡介，包括寄宿家庭的資料。下午，下松先生便教我們一些與寄宿家庭相處時要注意的地方和日常用語。一想到自己即將要到陌生的家庭寄宿兩日一夜，便感到既緊張又興奮。我所寄宿的家庭是坂口先生一家，夫婦二人育有兩個正在讀中學的女兒，是很典型的日本家庭。

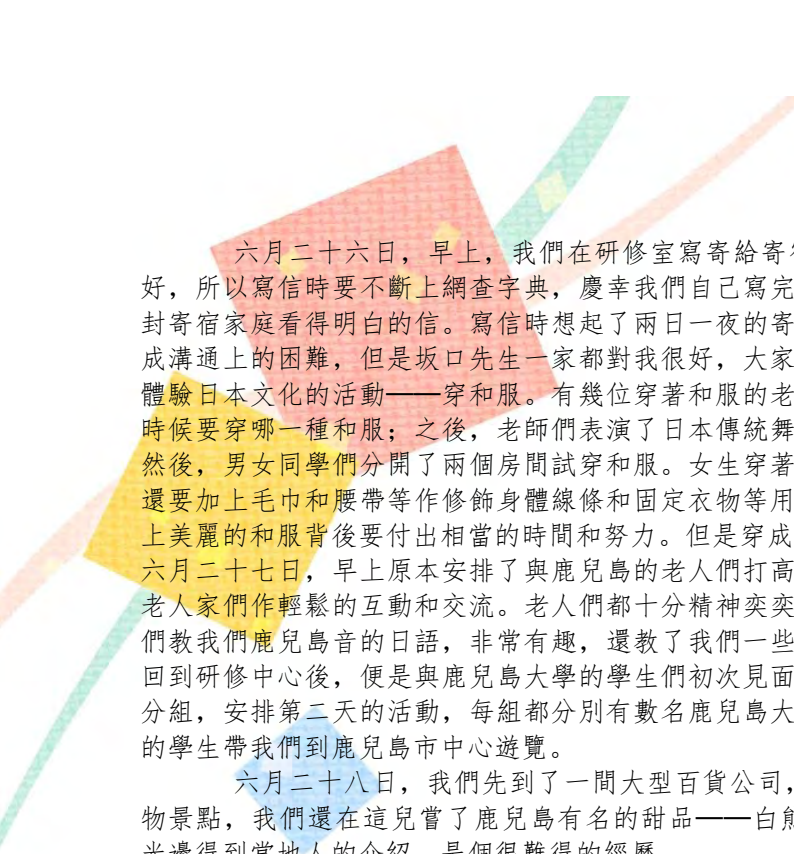
六月二十一日和二十二是寄宿的日子，在二十一日早上，便是和寄宿家庭的對面式。坂口先生一家十分熱情，他們預先製作了一個紙牌迎接我，令我驚喜不已。在寄宿家庭所吃的每一餐都是地道的家常小菜，如蕎麥冷麪和蛋包飯。作為一個外國人，能吃到當地居民的家常食物實在十分難得，而且還很美味。坂口太太和兩位女兒，萬亞子和奈溜子，還帶我到附近的超級市場逛逛。這一間超級市場有幾層樓高，裡面貨品種類多不勝數，就似一家百貨公司，不但有日常生活用品，還有服飾、皮具等等。令我最意想不到的是這裡竟然還有售賣布藝用品，日本果然是一個很喜歡創作手工藝的國家。此外，坂口太太還教我編織了一個小藤籃，讓我帶回家紀念。二十一日的晚上，坂口先生一家帶我到當地一家壽司店吃晚飯，壽司種類繁多，有些壽司我還沒在香港見過，例如肥牛壽司和肉丸壽司。日本的壽司和香港的壽司的主要分別，除了在味道上，就是日本的壽司是把芥末放在飯和魚生中間，起初我還不太習慣呢。第二天，坂口先生和太太帶我到雜貨店去。原來坂口太太的母親向來都有製作手工藝品，放到雜貨店去寄賣。雜貨店的兩位老闆十分熱情，知道我是香港來的之後，便送了一塊肥皂給我留念。之後，坂口先生和太太還帶我到一個大公園，那兒有一個以玫瑰為主題的庭園和專售賣玫瑰相關的商品的小店，以及以運動為主題的紀念碑，紀念了多位為國增光的運動員。晚上，坂口先生一家和我便回到研修中心，與其他的中大學生和寄宿家庭開聯歡會，共進晚飯。離開的時候，坂口太太還送了一些紀念品給我，以及一張大卡片和我喜歡的卡通人物的小食，令我感動不已。

六月二十三日，早上的時間我們都是為大黑小學校和鹿兒島大學的交流會作準備，我所屬的那一組是負責鹿兒島大學的交流會，要準備一個介紹中文大學和香港的簡報，我們都十分用心去準備，遇上最大的困難就是有一些本土特色的事物難以用日語去表達，為此我們都花了不少時間上網搜尋資料和翻譯，希望能讓鹿兒島大學學生留下一個好印象和認識香港及中大。下午，便是體驗日本文化的活動，這次是嘗試做日本料理。我們學習做壽司、卷物和薩摩魚肉球。料理師傅已一早把生魚片切好，所以我們要做的就是用手握好壽司飯，然後放上魚生。做卷物時我們都十分論盡，因為難以掌握分量和力度的關係，飯和材料都輕易溢出，造成賣相一般。薩摩魚肉球類似炸魚腐，要將打好的魚肉擠成球狀再放入油鍋炸，為了不被油濺到，我們都小心翼翼的。最後，當天的晚餐就是我們自己所作的料理，這實在是一個十分有趣的經驗。

六月二十四日，早上時，高隅保育園的小朋友來到研修中心與我們作七夕交流。小朋友都只有四五歲，十分活潑可愛。保育園的園長帶來了一棵滿是竹葉的幼竹，讓我們與小朋友在紙上寫下自己的七夕願望，再掛上去幼竹。這是我第一次的七夕體驗，因為香港人不甚重視七夕，而這次機會剛巧讓我體會到日本人重視七夕的文化。下午，我和其他中大學生到民族館進行見學活動。每人都可以挑選各國的民族服飾穿著，有韓國、中國、越南、沙地亞拉伯等等，我們還可以試玩不同民族樂器，館長還用各種樂器表演了多首歌曲，我們渡過了一個愉快的下午。

六月二十五日，早上，我們到大黑小學校與小學生們作交流。學校位處郊區，全校只有約四十名學生，這個數目大約是香港小學的一班學生人數而已。這裡的學生人數雖少，但是教學設備相當齊全，還有一個泳池與各種遊樂設施，還有雞和兔子等的小動物，是真正的小班教學。我們除了向學生們介紹香港外，還和小朋友們玩集體遊戲，雖然不太了解遊戲規則，但是大家都玩得相當投入。學校的師生關係十分良好，有一名一年級的學生想校長抱起他，校長也真的會抱，見到我們才尷尬地放下，十分可愛。這天的午餐便是由小學生們負責分發給我們。能夠和日本的小學生們一起進食午餐，體會他們平日的學校生活，真的十分難得。小學生們不但自動自覺分發食物和移動桌子，吃完之後也會主動幫忙收拾和刷牙，十分有規律和健康，他們的午餐不但健康，比起香港的還美味得打。吃過午飯後，我們做和小學生們一起玩樂，如打手球和踢足球等等，渡過了一個十分愉快的早上。下午，我們到了藍莓農園採摘藍莓，大家都十分興奮，因為能夠採摘和品嚐新鮮的藍莓，而且大久保小姐和一些同學們都十分雀躍地購買自己親手採摘的藍莓。之後，我們便有一個小時的時間在鹿屋市的超級市場購物，大家都瘋狂掃貨，買得最多的是零食作為自用及手信，而我也買了數千日圓的零食，滿載而歸。晚上，我們便到市內有名的食店——三清屋品嚐黑豚料理。平日我們的三餐都是在研修中心的食堂進食，這次是我們首次集體到外面的食店吃晚飯，大家都很興奮和期待。三清屋的黑豚料理非常有名，而且黑豚是鹿兒島的特產，能夠品嚐到，實在是不枉此行，而且在研修期間能夠品嚐到如此美味的特產，真是意想不到。





六月二十六日，早上，我們在研修室寫寄給寄宿家庭的感謝信，因為要以日文寫，而我的日文程度不好，所以寫信時要不斷上網查字典，慶幸我們自己寫完後下松先生伯幫我們校對，改去文法上的錯誤，寫成一封寄宿家庭看得明白的信。寫信時想起了兩日一夜的寄宿生活，雖然因為我的日語有限而很多時和寄宿家庭造成溝通上的困難，但是坂口先生一家都對我很好，大家都很樂意作溝通和交流，是一次很好的回憶。下午，是體驗日本文化的活動——穿和服。有幾位穿著和服的老師來了研修中心，先向我們介紹不同和服的種類和什麼時候要穿哪一種和服；之後，老師們表演了日本傳統舞蹈，以扇子等道具隨著音樂做出不同動作，非常優美。然後，男女同學們分開了兩個房間試穿和服。女生穿著的和服穿法十分繁複，單是內襯和外衣就有三層，中間還要加上毛巾和腰帶等作修飾身體線條和固定衣物等用途。單是穿上和服，就花了近一小時的時間，可見要穿上美麗的和服背後要付出相當的時間和努力。但是穿成後十分好看，同學們都拍了很多照片留念。

六月二十七日，早上原本安排了與鹿兒島的老人們打高爾夫球，可惜因為下雨的關係，活動改成到社區中心與老人家們作輕鬆的互動和交流。老人們都十分精神奕奕，不少人的身體都相當健壯，有些婆婆還會化妝。老人們教我們鹿兒島音的日語，非常有趣，還教了我們一些日本人喝酒時會玩的小遊戲，讓我們見識了不少。下午，回到研修中心後，便是與鹿兒島大學的學生們初次見面，雙方互相介紹了香港和鹿兒島的特色後，我們便各自分組，安排第二天的活動，每組都分別有數名鹿兒島大學和中文大學的學生，第二天的活動便是由鹿兒島大學的學生帶我們到鹿兒島市中心遊覽。

六月二十八日，我們先到了一間大型百貨公司，然後吃了拉面，之後到天文館，天文館是一個大型購物景點，我們還在這兒嘗了鹿兒島有名的甜品——白熊。這天我們就似進行了一次深度遊，邊飽覽鹿兒島風光邊得到當地人的介紹，是個很難得的經歷。

#### Short summary:

This is a very good experience and opportunity to exchange the Chinese and Japanese culture with locals and improve our Japanese skills. During the trip, there were several activities to stay with locals such as homestay, school visit and Kagoshima city visit. We talked to local people and know more about Japan and Japanese living. Moreover, there were some activities for us to try Japanese traditional culture such as making Japanese cuisine and wearing traditional costumes. It was different from normal travelling trip. Because we had many opportunity to experience what local people's living was and to polish our Japanese skill. It was a very great and only once experience.

## 16. 黃愷之

在鹿兒島的短短十二日，實在令我獲益良多。不單是日語溝通能力上升了，亦對日本文化加深了認識。

一到達鹿兒島，便有 kaptic centre 的職員接待我們，我們便隨即進入了一個完全用日語去溝通的世界。我的日語雖然不太好，但職員都十分有耐心，不斷重覆重要字句，令我理解他的說話內容。如果我還有不明白，他也會用身體語言配合日文單字來解釋。職員真的是非常有善及有耐性，令我們很快便融入日語的世界。

到達鹿兒島的第二天，日語及日本文化研修便正式開始。開幕禮上，大家都要用日語作簡短自我介紹。雖然，我的自我介紹是一早已經寫好，並且熟讀，理應是不會有大問題發生的。但初次用日語對着那麼多人自我介紹，都難免有一點點緊張。幸好，第一次的日語自我介紹還是順利完成，而且令我更放膽去說多一點日語，覺得自己是可以的，更勇於作多一點嘗試。下午的研修，就是有關到寄宿家庭的日常用語。其實自己一直很怕到寄宿家庭會失禮別人。不是因為怕我的日語不好，而是怕我不懂一些到訪日本人家的基本禮貌。所以這一節課對我來說，幫助很大，亦把我先前的憂慮一掃而空，令我有充足準備去寄宿家庭。

第二日，我懷着既緊張又興奮的心情，展開二日一夜的寄宿之旅。我獲派到石川家生活。石川先生有三個女兒，跟我的家一樣，有三個女兒在家，所以一跟石川家會面後，便已感到有份親切感。當然，石川太太也十分親切，令我都不再緊張，敢於開口說多一點日語。一坐上石川太太的車上，車裡的音樂播放器正播放着近期十分流行，冰雪奇緣的插曲。我十分喜歡這首歌，所以不奇然跟着音樂唱了起來。此時我才發現，原來石川女兒聽的，是日語版本，不是我常聽的英文版本。這首歌在世界各地流行，日本人喜歡這首歌，便把它翻譯為自己的語言。相反，香港也喜歡這首歌，卻只不斷聽原着的版。姑不論那個版本比較好聽，從這件事上卻可以看出一些生活上的差異。在日本，即使是西方傳入的東西，都會因要迎合日本人口味，而把原本的英文改做日文。但香港人卻比較喜歡原汁原味，反而粵語配音會被別人批評失去電影原本味道。這是我發現到頗有趣的地方。

回到石川的家，因天雨關係，我們一整日也沒有外出。預備午餐時，石川太太跟我聊了很多，互相說下自己的家庭生活是如何，從而發現很多香港和日本生活的不同。石川太太也對我第六次來到日本感到十分驚訝。對石川家庭來說，能在假期去東京遊玩，已經很難得。如果要去外地遊玩，就要女兒及丈夫的時間配合，亦要經濟上許可才行。他們不像香港人般，一放假就出外旅遊，他們都偏向留在日本渡假。這亦可能因日本地方比香港大得多，人口亦沒有那麼密集，所以留在日本渡假亦很舒適。

之後石川太太拿出了一本香港旅遊書，我使用日語向她介紹香港的名勝和特式小食，非常有趣。當晚的晚飯，是由石川太太和我一起做的，我從中學懂了不少弄日本菜的技巧。在吃飯途中，石川太太拿出了攝影機，拍下我和三個女兒吃飯的樣子，好讓她留念。當晚我睡在和室裡，真的不太習慣。不只是地板比較硬，關燈後真是暗得伸手不見五指，跟到處都是光的香港大大不同。

第二天，石川的大女，千嘉，要到鹿兒島市參加競技日。那天，可以說是我見識得最多東西的一日。石川太太首先載我們到垂水碼頭成渡輪，沿途看到櫻島火山。火山上還有一團灰灰的雲，原來是火山在不久前噴了灰。

我到了競技場地，看到場內全都是小學生。原來是全國小學生陸上競技選拔賽，每項比賽的第一名可以代表鹿兒島到東京參加全國比賽，怪不得場內場外的小學生也認真無比。當日參加選拔賽的小學生多達幾百人，他們全以跑會作比賽單位，在場跑會也多達幾十間。香港給小朋友參加的跑會少之有少，全港小學生田徑比賽更是聞所未聞。香港小朋友大多沒有運動的習慣，只有上課，補習，做功課。學校的運動會也只是運動比較能幹的小朋友才能參加，因為場地及時間所限，想參與比賽但運動遜色的小朋友，就只好在觀眾作啦啦隊。香港，就是不太着重小朋友的運動發展。但石川說，在日本，小朋友的運動和讀書同樣重要。興趣活動和運動不是用來加學分，上中學，而是用來平衡小朋友的身心發展，同時教他們何謂體育精神。小學生的造型全是跑步裝束，貼身跑衣，加上釘鞋，像是一群迷你的職業跑手。在香港，小學生只會穿着較輕便的衣服及運動鞋，便去比賽。可見日本人對一件事會有多執着和着緊，追求更好更完美的東西。

比賽的小學生在進場前會先跟場地鞠躬，以視尊重比賽。接着便會自己調較適合自己的助起跑器，這不禁令我吃驚一下。年紀小小的他們已經知道如果調較這東西，知道怎樣的闊度才是最適合自己。我真像一個從鄉下出城的農村人，只是小小的東西已令我大開眼界。千嘉比賽過後，我們便一起回到 kaptic 吃晚飯。吃完晚飯便道別的時候，雖然相處了只是短短兩天，但要離別總有點不捨。希望他們能抽空到香港遊玩，屆時由我接待他們。

接下來多姿多采的日子，大多在 kaptic 裡渡過。我嘗了做壽司，原來壽司看似簡單，但做起上來都頗有技巧。在做壽司的途中，有一位記者來訪問我們這幾天的活動及感受。幸好得到朋友的翻譯，我才能明白記

者問我的問題，最後順利完成訪問。報導登報後，我們都獲派那報章一份。看到自己的名字上了日語報紙，又真是頗高興和有新鮮感的。

有一天我們去了民族館，內裡有很多不同太平洋附近國家的樂器。導師用不同的樂器吹奏多啦 A 夢的主題曲，大家都跟着合唱起來，真的樂透了。音樂，真是一個無分國界的溝通橋樑。之後，我們亦試過穿和服。其實我一直對和服的設計很着迷，它就是一門藝術。所以那節課，我真的很喜歡。老師先講解和服的種類和其特徵，接着就一一把不同的和服展現在我們眼前。和服在電視或許常見，但真正的看到實物，我還是第一次。接着就是穿和服。真是不試不知，原來美麗的和服底下，是藏了那麼多東西。和服不只是穿法繁複，配件多，要穿得好看，也是一門學問。花了一小時，我們終於把和服穿好了。這日本傳統服裝，我有幸穿過一次。

除了日本文化體驗，我們還有跟日本學生交流的機會。首先，是幼稚園學生來 kagic 跟我們做七夕活動。日本小朋友實在是太可愛了，他們又有禮貌，又活潑，跟他們相處很舒服。或許我聽不懂他們在說甚麼，不能跟他們談天，但他們仍會跟你玩耍，對着你笑。這群天真的小朋友，把人與人之間的距離縮短了。接着有一天我們到了大黑小學交流。我們首先參觀他們上課，全校只有四十人的學校，每班只有五六個學生。課室很大，他們有很多活動的空間，亦因為學生少，他們每人也有機會發言，大家都可以參與課堂討論。而且每一班也有養飼一種小生物，例如一年級生會養小青蛙，從而教導他們愛環境，尊重生物，照顧別人等等觀念。這都跟香港學生截然不同。香港着重成績，教育方式多是單向，學生只有不停接收資訊。愛環境愛生物等價值觀，香港學生也會知道，因為學校有教。但知道一樣東西，不代表你能活用。價值觀除了是灌輸給小朋友外，更好就是由小朋友自己建立。在午飯時間，值日的同學會去拿飯，然後有同學分飯，大家都有自己負責的東西。在沒有老師的情況下也能自動自覺，實在是令人不得不佩服學校的教育模式。

在研修的最後三日，是跟鹿兒島大學生交流。鹿大的學生都很好人，跟我們談話會特意慢一點。我們在相識的第一天一起設計到鹿兒島市遊玩的行程，他們都十分有善的向我們介紹可行路線，又盡量滿足我們的要求，去我們想去的景點。到鹿兒島市遊玩當天真的很開心，除了到一些名勝觀光外，我們還吃了很多當地有名食物，亦買了鹿兒島手信，真的樂透了。研修的最後一日就是匯報。要跟日本大學生從零開始計劃一個匯報，其實都有一定難度。幸好，鹿大的學生真的很好人，在計建上幫了我們很多。我們語法不對的講稿，他們會為我們改，又更正我們的讀音，所以匯報最後都能順利完成。

十日研修就此結束，我學到不只是日語，還有日本文化。令我得着更多的，就是從日本人的生活，體驗到他們的生活文化，體驗到他們的人民素質。從教育或生活細節，看出日本人和香港人的不同，從而怎樣造就了兩個不同的社會。

### Short summary:

It was a precious and great opportunities to have a programme in Kagoshima. It was not only a visit but also an opportunity to live with Japanese and experienced their culture. Especially for the days that I lived with my homestay family, I experienced the most real daily life a Japanese family. There were a lot of differences compared with Hong Kong daily life. I had learnt a lot and had a very great time there.

The first experiences of sushi making and kimono fitting were both interesting and memorable. Also, we had met students from kindergarten, primary school and university. They were all very nice and willing to share their feelings with us. Although we may had some problems in our conversation by using Japanese, they were still patient and willing to help us. Which made us feel warm and welcomed.

## 17. 楊寶雅

### 引言：

六月中旬，香港正值炎炎夏日，也是我們暑假之始。大學的同學們各自有暑期課程、實習工作充實自己。而我們一行二十人就選擇告別香港，前往日本鹿兒島太平洋研修中心（Kapic Centre），以交流、體驗文化的方式，認識一個與我們既近且遠的國度，擴展視野；同時也鍛煉日語，裝備好自己，為將來更進一步的日語學習打好基礎。此行的收穫豐碩，每個人不單單只是日語進步，更重要的是和日本的朋友建立了友誼，回到香港後仍然保持聯絡，把這一份夏日的回憶延續下去。

### 寄宿生活

Kapic 的研修課程第一項‘重頭戲’是到日本人的家裡住 2 日 1 夜。在 homestay 前一天，kapic Centre 的下松老師預先教導我們一些簡單的日語，又派發與我們配對的日方家庭的資料。當我們收到資料時，知道了接待我們的家庭有什麼成員，都不免感到既期待又緊張。

翌日早晨，我們列好一隊進入和室，和接待自己的 host family 相認。招待我的家庭是古川綾香小姐一家。當天她和兩歲的兒子陽輝和妹妹まなみ小姐來接我。因為我家本來就有小孩子，所以當我一見到陽輝的時候我十分興奮。在回家的途中，綾香小姐帶我去了超級市場買菜，這是我第一次看到鹿屋市的市貌。感覺和平常看日劇裏面的小鎮挺不同，沒有繁華的商店街，也沒有人來人往的電車站。倒與外國的市鎮相似，不管是超級市場、遊戲中心還是小小的和果子店，門前都有一大片停車場。基本上是一家店是一座建築物。這些店都分散在市的不同角落，不會堆在同一個購物中心裏，所以他們要去購物就必須以車子代步，感覺就像澳洲的小鎮一樣。不同的是在路上不時能看到充滿日本風情、古色古香的屋子，在現代化和存古方面能如此和諧融合的市鎮讓我感到驚奇。

到達綾香小姐的家之後，我們便著手做午飯。綾香小姐家裡有一台章魚燒模，我們就在家自己做章魚燒，這是我第一次手作日本的小吃。雖說是小吃，但因為預備的分量太多了，做了整整三大盤，我們怎樣吃也吃不完了。我最意想不到的燒汁、蛋黃醬、木魚碎和紫菜碎等配料都是綾香小姐家裡本來有的，這些都是我家裡從不出現的食材。就正如同中國人有開門七件事，日本人也有自己的廚房必備的食材，只一次可謂是大開眼界。由於天雨的關係，第一天我們沒有外出遊玩，我整天都在家裡陪著陽輝遊戲和看著綾香小姐做飯。綾香小姐的廚藝十分精湛，在車上她曾問我喜歡什麼料理，聽到我說最喜歡吃雞蛋時，雖然她顯得有點困惑，但在家裡的每一頓飯她都能做出不同的蛋料理，非常美味。她的料理是我回到香港後仍然念念不忘的。當天晚上，男主人一樹先生回家之後，我和他們夫婦倆談天說地。由於他們兩位都是高中的老師，而一樹先生有曾經來香港，我們談關於日港的教育、文化差異等直到凌晨。雖然受言語的限制，我經常詞不達意，但他們都非常耐心地等待我組織言語，這一夜能暢所欲言，實在難忘。

第二天，綾香小姐夫婦和まなみ小姐夫婦帶我和陽輝去了附近的保齡球中心。原來他們一直都有做運動的習慣，在高中的課後活動都會參加運動社團，每個人都有自己的拿手項目，讓我這個從不做運動的人非常慚愧。這次也是我初次接觸保齡球，幸得まなみ小姐循循善誘，最後才不至於慘敗收場。打過保齡球之後，我們就來到大隅湖，一樹先生領我去看他領導的划艇隊的基地，鹿屋市的高中的划艇隊就是在大隅湖練習的了。六月梅雨時節，大隅湖的湖景山色在霧色縈繞中若隱若現，湖畔的紫陽花正是滿開，走在花徑中仿佛有種漫步仙境的錯覺。就算是下著濛濛細雨，湖畔還是有不少釣客，一樹先生也冒雨釣了一會魚，可惜沒有收穫。晚上的歡送會上，看到分別了一晚的大家都和寄宿家庭相處的非常好，一整晚都在歡笑聲中度過。歡送會的尾聲，一位先生帶領我們以傳統日式的方法歡呼結束聚會，就是高舉雙手，高呼三次：‘萬歲’我還是第一次見到這麼多人一起高呼萬歲，實在是非常有趣。到了真正要離別的時候，陽輝非常堅強地說自己能好好說再見，我倒是差點被他弄哭了。即使只是短短的兩天，但這一段回憶足夠我回味一輩子。

### 探訪老人中心

這次活動本來是和老人家一起打 ground golf 的，可惜天公不作美，戶外活動無奈取消，改為到老人中心跟公公婆婆學鹿兒島的方言和玩遊戲。公公婆婆都十分精神、有活力。跟他們學方言的時候，旁邊的婆婆知道我對方言很感興趣，她便耐心地為我對每一項做了更詳細的解釋。最後他們唱方言歌也十分可愛。後來公公婆婆教我們玩一個他們喝酒時會玩的玩意，我們也反過來，教他們‘十五二十’，交流了日港的助興玩意。

### 文化體驗

#### a. 日本料理

研修中心邀請了一位老師教我們做壽司和薩摩魚餅。由於老師都預先把魚肉切成片了，所以我們的要做的只是捏好飯糰，把魚生放上去，捏實就可以。可不能小看這程序，因為飯糰和魚生很容易分離的。更困難的是製卷物，飯量的控制、卷的力度也是有講究的，可惜我還是參不透。不過成品還是賣相不錯的，味道更是無可挑剔。薩摩魚餅也是只要炸熟了就可以，也是非常美味。

#### b. 和服試穿

研修中心邀請了三位老師來教導我們有關和服的知識和穿法。和服的種類繁多，我到現在也只能記住其中一兩種。老師還為我們表演了日本傳統的舞蹈，要不是這一個交流課程，我們也不知能在哪裡可以看到真人的表演。到了試穿和服的時候，就發現和服的穿法和它的種類一樣繁複！我們差不多花了一小時來穿上。由於和服需要用腰帶把人扎了幾層，我們的動作都被限制了，舉手投足都要小心翼翼，女孩子們立刻端莊了不少。

#### 與當地學生交流

Kapic Centre 為我們安排了和幼稚園生一起裝飾七夕的竹子和到大黑小學和小學生一起吃午飯。幼稚園的學生都十分有活力，逐個介紹自己的時候，一點都不害羞，聲音響亮。我們唱了七夕的歌，聽了園長說七夕的故事。七夕的故事在中國也有流傳，但日本的故事加多了善惡的批判和對竹葉許願等情節和傳統。重新認識這一個故事也是非常有趣的。園長說這些願望是要經過自己的努力才會實現的，天上的神明會看著，不能像牛郎織女般偷懶不工作。之後，我們和幼稚園生一起寫了短箋，把自己的願望寫下，裝飾了一下短箋，就掛到竹子上。我也誠心希望我許的願能夠實現。

幾天後，我們去大黑小學參觀和與小學生吃午飯。一直以來，我都覺得日本在小孩子的教育方面是值得我們學習的。尤其是在環保和自律這兩方面，這次參觀小學更是讓我親身體驗到日本孩子在這兩方面的確比香港小孩進步。剛到學校的時候，學生仍然在上課，校長先帶領我們到校園四處參觀。看到他們在課室裡飼養昆蟲、青蛙，觀察生物的生長過程。課室以外的動物角中也飼養了雞和兔子，由學生負責照顧和打理。在高年級的課室裡連顯微鏡也有，不禁讓我覺得神奇。在我的小學生活中，從不曾在學校接觸生物，更別說使用顯微鏡這些器材了，關於地球其他生物的詳細知識大抵也要到中學才知道。日本人敬愛自然，愛惜環境，從他們的小學教育中就能看到。然後我們經過一輪破冰遊戲之後，回到課室和小學生一起用膳。我被分派到六年級的班級，只見他們即使沒有老師指揮，也會自動自覺地搬好桌椅，邀請我們上座。他們有些同學就穿起了圍裙去拿午餐，然後把午餐分給每一個人，吃完以後自己收拾碗碟。有一個女同學更帶我去把自己的牛奶紙盒清洗、拆開、晾乾，以便日後回收。他們的這一種自立是香港孩子缺乏訓練的。

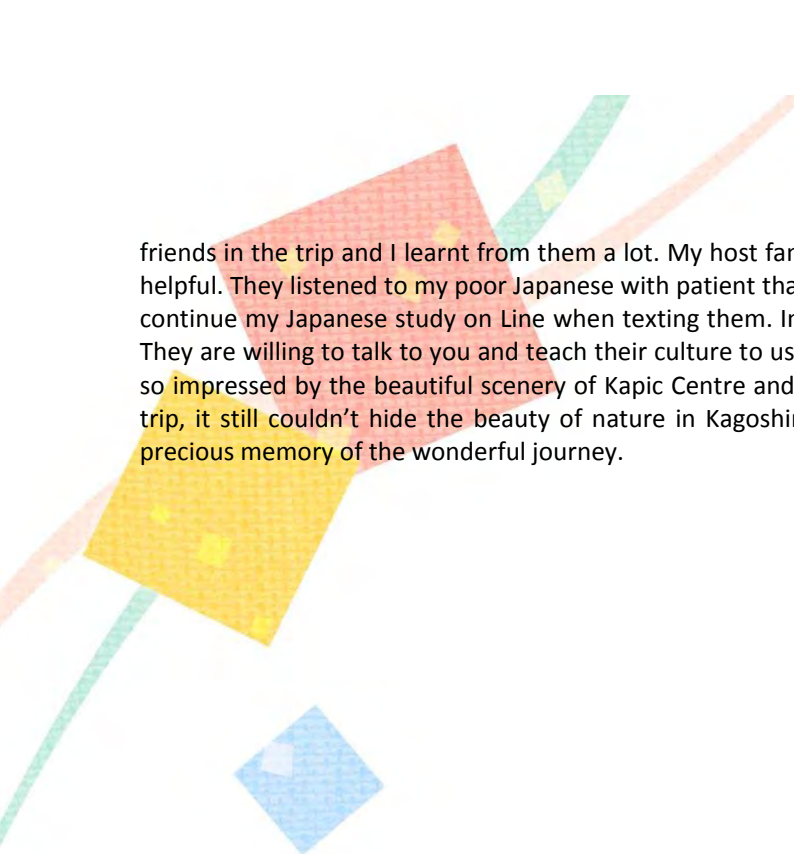
旅程的尾聲，就是和鹿兒島大學學生交流。我們和她們的相處的時間是最長的，由於年紀相若，共同的話題也有不少，和她們談的很開心。第一天和他們介紹了香港和中文大學之後，我們便制定了之後一天的行程，雖然組內沒有人和我一樣是動漫迷，但他們仍是為我安排了去售賣動漫商品的地方，十分貼心。晚上由於下雨，屋外的燒烤就取消了，但我們仍是能在飯堂烤肉。第二天出發到鹿兒島市內，我們先步行到照國神社，途中遇到裝扮成西鄉隆盛的人，也借此認識了鹿兒島的歷史。參拜過照國神社後，我們來到天文館商店街，在這裡我第一次嘗試自己做大阪燒和品嚐鹿兒島的名物‘白熊’，那美味真能使人念念不忘。之後我們還去了仙巖園，那是一個日式的庭院，也是大河劇《篤姬》取景的場地。若是天晴的話，就能從園中眺望到櫻島，碰巧那天多雲，不能一睹櫻島的真面目。不過仙巖園本身也是一個非常有特色的庭院，鳥語花香，叫人心曠神怡。園中有一家售賣竹製品的店，店主送了我們一人一雙竹筷子，實在是意外的收穫。那一天我們是乘巴士過去的，日本的巴士竟然能夠兌零錢，也是讓我大開眼界。最後一天，我們合作製作觀光的報告，重新回顧了一下前一天的照片，就覺得這次的經歷實在是十分珍貴。在彙報之後，我們去了民族館參觀，試穿民族服裝。到真正離別的時刻，才驚覺這次的交流之旅也來到了尾聲，實在是不捨。

#### 總結

這一次的旅程對我來說是非常珍貴的學日語的經驗。十一日間不斷地說日語，從有些怕說道最後不怕錯，只要能和人溝通得到就好的心態轉變，也是我這一趟旅程的重要收穫。回到香港，我也會繼續和 Host family 保持聯絡，希望能把這一份情誼延續下去。

#### Short summary:

The 11 days-exchange program is a very precious chance for us to explore Japanese culture and practice Japanese. As we had so many culture exchange programs with Japanese people, I had to listen and express myself in Japanese. This enriched my Japanese vocabulary and I got more confident in speaking Japanese. Also, I made good



friends in the trip and I learnt from them a lot. My host family and Kagoshima University's students were friendly and helpful. They listened to my poor Japanese with patient that made me feel comfortable to speak more and more. I will continue my Japanese study on Line when texting them. In this place, everyone is so energetic, including the elderly. They are willing to talk to you and teach their culture to us. It was a pleasure time to stay with them. Moreover, I was so impressed by the beautiful scenery of Kaptic Centre and Kagoshima. Although it rained for almost every day in the trip, it still couldn't hide the beauty of nature in Kagoshima. The lake, the stream, the blue sky will be part of my precious memory of the wonderful journey.

## 18. 葉可兒

### 6月19日 (曇)

今日はまず午前10時半ごろの飛行機で成田空港へ行って、バスで成田空港から羽田空港へ行きました。そして、午後7時ごろの飛行機で鹿児島へ行きました。最後は、今回の研修の担当者である大久保さんに空港で迎えていただいて、一緒にバスに乗って、カピックセンターへ行きました。一日中ずっと移動していて、ちょっと大変でした。

### 6月20日 (曇)

今日の午前は今回の研修の開講式が行われました。以前も今回みたいな場合に出席したんですけど、自己紹介の時はとっても緊張してて、スピーチがうまくできなかったです。昼ごはんを食べた後、時間がまだあるので、友達と一緒にセンターの辺りを散歩しました。川の両側にミドリがたくさんあるし、空気も良いし、非常に素晴らしい環境だなと思っています。去年ホームステイに宮崎へ行ったことがありますので、午後に行われたホームステイの日本語についての授業はあまり難しくなかったです。その後の自由時間は友達と三人で自転車に乗って、たくさん面白い写真を撮りました。とっても楽しかったです。ちなみに、今日の晩ごはんはあたしが大好きな焼きそばと枝豆が入っているので、お腹いっぱいになりました。

### 6月21日 (雨)

今日からは1泊2日のホームステイ体験です。あたしのホームステイファミリーは後藤さんです。後藤さんのところは5歳と7ヶ月の超かわいい男の子がいます。対面式の後、すぐかごしま水族館へ連れて行ってもらいました。かごしま水族館は港の向こうである鹿児島市にありますので、車と一緒にフェリーに乗って行きました。こんな大きい船に乗るのは初めてです。フェリーから降りて、初めて日本のマクドナルドのバーガーを食べました。香港のとは全然違います。日本のほうが美味しかったです。かごしま水族館に到着して、久しぶりにイルカのショーを見ました。イルカさんは本当に頭が良いですね。後藤さんのお宅に戻って、皆さんとテレビを見ながら、晩ご飯を食べました。とっても美味しいなお握りでした。

### 6月22日 (雨)

後藤さんのお宅でぐっすり寝て、朝9時ごろ起きました。朝ご飯を食べて、5歳のユライくんと楽しく遊びました。7ヶ月のソウマくんはまだ喋られないですけど、ソウちゃんって呼んだら、ニコニコしてあげます。とってもかわいい子です。午前後藤パパが働いているお寺へ行きました。こんな感じのお寺へ行くのは初めてです。その後は十八番ラーメンへ昼ご飯を食べに行きました。その醤油ラーメンがとっても美味しかったです。スープも麺も香港のとは全然違います。後藤さんはあたしが中古本を買いたいのを聞いたら、BOOK MARKET という中古本屋さんへ連れて行ってもらいました。今回は6冊を買いました。今日も雨が激しかったので、買い物した後は後藤さんのお宅に戻って、ゆっくりテレビを見たり、子供と遊んだりしました。夕方の6時はセンターに戻って、他のホームステイファミリーと合流して、パーティーしました。

### 6月23日 (曇)

1泊2日のホームステイの後、今朝はこの後に行われる交流会の準備でした。日本へ行く前にはもうPPTを準備しておいたので、残る部分はスピーチだけでした。私のグループは小学校の交流会の「香港の紹介」を担当しています。香港の飲食文化を紹介するのが私の仕事です。香港の「茶餐廳」を説明したいと思っています。スピーチを完成して、文法のチェックをいただきました。準備会の後は料理実習でした。友達と一緒に寿司を作りました。母にうちでこんな感じの寿司を作ってもらったことがあるので、作る時は問題がなかったです。料理実習の途中、鹿児島の新聞の取材を受けました。今回の研修の感想とかホームステイの時行った場所とか日本に対するイメージとか、たくさん問題を答えました。直接取材を受けるのが初めてなので、ちょっと緊張しましたね。

### 6月24日 (晴)

今朝は保育園との七夕交流会でした。ホームステイのユライくんも三歳の時今回参加している保育園に一年間通っていました。でも、今は違う保育園ですから、ちょっと残念でした。実際、保育園の子供たちもとってもかわいかったです。短冊に願いことを書き葉竹に飾るのが初めてです。子供たちと作ってくれたかわいい短冊に毎日楽しく過ごしたいと書きました。これが一番大事なことだと思っています。昼ご飯を

食べて、民族館へ見学に行きました。スタッフさんにいろんな楽器を紹介していただきました。みんな民族服を着て、一緒に歌いました。最後は、ショップで母のお土産であるネックレスを買いました。とっても特別でかっこいいものです。残った自由時間は、また友達と自転車を乗りました。

### 6月25日 (晴)

今日は大黒小学校との交流会がありました。日本の小学校へ行くのは初めてです。この小学校に 42人しかないのがびっくりしました。まず、交流会で緊張に香港の紹介をしました。無事に終わったのがよかったです。後は、小学校の子供たちと一緒にゲームをしたり、給食を食べたりしました。本当に楽しかったです。その後は、ブルーベリー園へ行きました。香港とは全然違うブルーベリーを食べました。晩ごはんは黒豚を販売している三清屋で食べました。あたしは肉があまり好きではないのですが、三清屋さんの黒豚は美味しかったです。センターに戻って、友達と花火をしました。一年ぶりの花火です。花火が大好きなので、本当に超楽しかったです。大満足な一日でした。

### 6月26日 (雨)

今日はホームステイファミリーに届けるお礼状を書きました。感謝の気持ちを込めてたくさん書きました。でも、いつも封筒に違う住所を書いて、三回目はやっと無事に書きました。よかったですよね。昼ご飯を食べて、着物を着てみました。去年ホームステイの時は浴衣を着てみたんですけども、正式に最初から自分で着るのは初めてです。途中はちょっと難しかったんですが、先生に手伝いしていただきました。とっても貴重な体験だと思っています。一時間以上をかかって、やっと完璧に着物を着ました。着物は本当にとってもきれいなものだと思っています。体験の最後、また友達と一緒にたくさん面白い写真を撮りました。本当に楽しかったです。今日の晩ごはんもめっちゃ美味しかったです。ご馳走様でした。

### 6月27日 (雨)

今朝はもともとグランドゴルフを体験する予定があったんですけども、激しい雨のせいで中止しました。その代わりに室内で香港の紹介をしたり、ゲームをしたり、鹿児島弁を勉強したりしました。ちょっと残念ですけども、とっても殿しい時間を過ごしました。お昼の弁当もとっても美味しかったです。三時ごろセンターに戻って、鹿児島大学の学生たちと合流しました。大学生と交流会をするのが二回目です。前は中文大学で佐賀大学の学生たちと行われました。鹿児島の紹介をしていただきました。とっても面白かったです。学生たちはみんな優しくてかわいいです。晩ごはんは皆さんと一緒に焼肉をしました。もともとは室外でBBQするんですけども、また雨のせいで、変更しました。でも、とっても楽しかったです。

### 6月28日 (晴)

今朝は早く起きて、鹿児島大学の皆さんと一緒に鹿児島市へ遊びに行きました。最初は照国神社へお守りを買に行きました。日本のお守りは本当にとってもきれいなものだと思っています。照国神社へ行く途中、日本の歴史人物である西郷さんを真似している人と写真を撮りました。めっちゃ面白かったです。その後は天文館という商店街へ行きました。商店街に本当に何の店もたくさんありますね。昼ご飯は大好きなお好み焼きと鹿児島の特産であるしろくまを食べました。どっちでもとっても美味しかったです。プリを撮りにゲームセンターへも行きました。超楽しかったです。最後は、仙巖園へ行きました。入場料はちょっと高かったですけども、庭園と景色はとってもきれいだった。そこから有名な桜島も見えます。とってもいい場所へ行ったと思っています。また、大満足な一日でした。でも、時間はちょっと足りなかったね。

### 6月29日 (晴)

今日は研修の最後の日です。朝は鹿児島大学の学生たちと一緒に昨日の活動のまとめをしました。報告用のPPTも作りました。たくさんよくて面白い写真を入れました。昼ごはんを食べてから、発表をしました。私は照国神社を紹介しました。無事に発表を完成して、とっても楽しかったです。鹿児島市に戻る前、前日はもう行きましたけど、鹿児島大学の学生たちと一緒にもう一回民族館へ遊びに行きました。皆さんは楽しく民族服を着て、またたくさん面白い写真を撮りました。本当にとっても楽しかったです。短い間ですけども、皆さんとたくさんいい思い出を作りました。また一緒に遊びたいですね。鹿児島大学の学生たちは鹿児島市に戻った後、今回の研修の閉講式が行われました。所長から修了証書とお土産をいただきました。



今晚はまだカピックセンターに泊まっていますけれども、この十日間、いろんな体験をさせていただき、本当にどうもありがとうございました。お世話になりました。

### まとめ

日本へ行くのはもう四回目ですけれども、鹿児島に泊まるのが初めてです。カピックセンターはちょっと遠いところにありますから、鹿児島市内へ行く機会があまりありませんでした。でも、センターで皆と一緒にご飯を食べたり、ゲームをしたり、自転車に乗ったりして、本当にとっても楽しかったです。いろんな体験の中で、一番好きなのは着物を着る体験です。着物の着方を専門の先生に教えていただいて、自分で着物を着るのがとっても貴重な体験だと思っています。また、鹿児島大学の学生たちと鹿児島市で遊ぶのもとっても楽しかったです。六時間しかないですけれども、いろんなところへ行って、たくさん面白い写真を撮って、本当に超楽しかったです。皆と仲良しになりました。また鹿児島へ行って、皆と遊びたいです。



### Short summary:

Although this is my fourth time going to Japan, staying in Kagoshima is the first time. I think this is a great short-term summer exchange for the people who love Japanese culture. During the exchange, we tried a lot of things, such as wearing Kimono, visiting primary school, playing with the elderly, going out with students from Kagoshima University, etc. The most memorable activity for me is going out with students from Kagoshima University. We went to many places and enjoyed our lunch with the special product of Kagoshima, Shirokuma. Shirokuma is a delicious dessert made by ice and different topping. I really had a great time during the exchange.

## 19. 葉韜

### 前言

從小在電視上便接觸到不少日本文化，例如和服、一軒家和參拜神社等，可是一直都未有機會親身體驗，而這次的日本學習交流活動正正提供了這個難得的機會，讓我可以一次過嘗試到各種不同有趣的日本文化，出發前一直抱著極興奮的心情，希望這次的交流活動能夠留下一個美好難忘的回憶。

### 19-6-2014 第一天

我們首先從香港國際機場乘搭國際機到東京成田機場，轉搭穿梭巴士到東京羽田機場，乘搭內陸機到鹿兒島機場後，再與 KAPIC 職員大久保會合，由她帶我們乘搭專車到 KAPIC Centre，整個過程歷時約十二小時，可謂舟車勞頓。途中我們的專車停在一間便利店前，方便我們買晚餐和一些所需品。而我吃了人生中第一個在日本購買的便當，感覺是非常意外，因為實在非常美味！

到達 KAPIC Centre 時已經是夜晚十一時了，整個環境漆黑一片，什麼風景也看不到。之後就獲分發房間。起初以為整個交流活動的價錢如此低廉，所以本身對住宿環境沒有什麼期望。當我看見房間內的設備齊全，有毛巾、漱口盅、吹風機，甚至連書桌、桌燈都有，而且環境都挺優美時，實在喜出望外。



### 20-6-2014 第二天

第二天起床時看見窗外的環境時，更是令我非常驚訝！清澈的流水、綠茵的草地、巍峨的高山，構成了一幅秀麗的山水畫，眼前的良辰美景映入眼簾，令我大飽眼福。打開陽台的窗門，探出頭來，吸了一口新鮮的空氣，更令我登時精神抖擻！這片如此漂亮的風景，實在令我不敢相信世上竟然有如此美麗的世外桃源！我不假思索地拿出手機，希望用照相留住這個畫面，待回家時再好好回味一番。



之後我嘗試了 KAPIC 精心炮製的早餐。劈頭姐姐們友善的笑容和親切的打招呼，已經叫人覺得日本人待人非常有禮。另外，五花八門的餸菜，加上口感軟熟的米飯和美味可口的忌廉湯，為一天的學習帶來幹勁。令我最感興趣的是送飯的蛋粉，味道一流。而 KAPIC 的自助洗濯機也叫人嘖嘖稱奇。射水式的洗濯機徐徐洗滌碟上的污物，教人覺得非常有趣。



接著便開始研修班的第一課。首先是介紹 KAPIC Centre 的注意事項和各種設施，之後就學習在 homestay 經常會用到的日語和派發 homestay family 的資料。我獲分派的出口家是一對五十多歲夫婦的家庭。

完成所有研修課後，我們三五知己立刻租 KAPIC 的單車，打算繞著 KAPIC Centre 一圈，欣賞沿路美麗的風景。當中沿途的繡球花開得異常燦爛，而且我們到訪了附近的水壩，氣勢非常磅礴。洶湧的瀑布從水壩中傾瀉而出，壯觀非常！之後都騎單車騎了好幾次，可惜的是之後都沒有機會嘗試到釣魚的樂趣。



到了晚上，KAPIC 的晚餐水準依然。之後我們繼續進行精彩的活動，和朋友們談天說地，又一起玩撲克牌，晚晚如是，非常寫意！

### 21-6-2014, 22-6-2014 第三天, 第四天

終於到了正式與 homestay family 見面的日子了，心情確實非常複雜和緊張，因為自知日語不好，擔心與出口先生和太太在溝通上出現困難。當與出口家見面時，看到他們親切的笑容，之前的緊張也減輕得多。



雖然很多時候我都未能與他們用日語好好溝通，但他們都總是很有耐性地解釋他們的意思，而且更會拿出本子來，寫著漢字，好讓我更加明白他們所表達的事。他們實在太有耐性和太好了！

在這兩天裏，我們到訪了不少的地方，嘗試了不少的事物。首先我們先回到出口先生和太太的家，見識到一軒家及其榻榻米。之後我們計劃一下這兩天的行程和路線。跟著便到了一家食店吃了一頓美味的午餐。之後到了附近的一間神社。由於這間神社只會在每年的一月十一日才開放給公眾參觀，我們都只能遠眺其外觀，但沿途湍急的河水和並列兩旁的高樹已經足夠令我大飽眼福。接著我們到附近的商場逛逛。出口先生知道我對棋藝很有

興趣，便立刻買了日本象棋，待回家時一起玩。之後又到附近的超級市場購買今晚的飯菜。

回到出口家後，出口先生耐心地教導我日本象棋的玩法。比起中國和國際象棋，日本象棋的玩法還要複雜得多！每盤棋局我都總是輸給出口先生，但是過程中玩得很開心，而且勾起了我對日本象棋的興趣，回到香港後我一定向朋友好好介紹這個遊戲！

之後吃過出口太太精心製作的晚餐，看過一會兒日本的電視節目，與出口家暢談一番後，便於十時半左右睡覺去。原來他們平時於十時便會睡覺，真早！



第二天早上七時便起床了，之後跟出口先生和太太一起互相製作一把扇子給對方作為紀念。我們每人都寫了一些中國書法送給對方。出口太太字跡秀麗的「一期一會」，以及為我們製作的名印，都叫我難以忘懷。之後我們下午到了一間迴轉壽司店吃迴轉壽司，再跟鄰居白濱家打了一場羽毛球友誼賽。接著我們到附近的一間溫泉館浸溫泉。第一次浸溫泉的感覺是泉水實在太熱了，結果我連腳都沒有浸便離開了，現在想回來實在有點兒可惜。最後我們到附近的一個洞穴提取山泉水後便完成了兩日一夜的 homestay 體驗了。

非常感謝出口先生和太太這兩天熱情好客的招待，離別時雖然依依不捨，但我承諾下次到日本時一定會再探望他們，並送上更多香港有名的特產。



### 23-6-2014 第五天

這天主要是準備大黑小學校和鹿兒島大學的匯報，以及自製日本料理。在製作日本壽司和薩摩燒時，我們團員都笨手笨腳，飯團不是過大就是過小，紫菜卷又經常斷開幾截，但過程中有講有笑，非常快樂。

### 24-6-2014 第六天

這天早上我們與高隈保育園的小朋友見面，進行了七夕交流。過程中校長和老師介紹了七夕的典故和慶祝活動，之後我們紛紛與小朋友一起製作許願紙，然後掛在七夕樹上。從小朋友臉上看到的可愛笑容，也不禁令我開心的笑起來。

下午我們到民族館進行參觀。民族館裏有各式各樣的服裝、棋類和音樂，我們每位團員都試穿自己喜歡的服裝，拍了不少照片留為紀念。之後，館長為我們介紹不同音樂的玩法，更即時作出演奏，最後更拿著結他自彈自唱我們熟悉的歌曲，令場內氣氛變得十分高漲。





### 25-6-2014 第七天

早上我們到大黑小學校進行了交流會，參觀了他們的課室，與小學生一起玩遊戲和吃午膳。午飯前，他們每一個學生都會很自律地分工合作，把餐具食物分發到每一個位子上。而在吃午飯的過程中，他們會不停地聊天，可以看得出他們的感情良好，而且亦會主動和我們聊，氣氛相當不錯。午飯後，他們主動邀請我們一起踢一場足球友誼賽，過程中大家都踢得大汗淋漓，但是感覺非常熱血，非常充實！另外，不得不佩服的是小學生們雖然個子小，但技術卻是非常精湛，就連我們團員也不是他們的對手。

之後，我們參觀了和田先生的藍莓園，試吃了他栽種的藍莓，味道相當甘甜！不少團員都一袋二袋的把藍莓買回 KAPIC

Centre 慢慢品嚐。

最後，我們到三清屋吃了美味的黑豚飯。

### 26-6-2014 第八天

早上我們都為自己的 homestay family 寫感謝信，下午則試穿和服。穿和服的過程非常繁複，一件一件的衣服都要依次序的包上去，而且肚子前放著三條毛巾，並用繩把其勒緊，其實感覺也挺辛苦。不過穿完和服後，大家都欣賞著大家的和服，男的帥呆，女的漂亮，大家更擺了不少「甫士」拍照，非常高興！

### 27-6-2014, 28-6-2014, 29-6-2014 第九天, 第十天, 第十一天

最後三天的活動主要是跟鹿兒島大學生進行交流。起初因為大家都對彼此並不熟悉而不時有寂靜的情況出現，但吃過晚飯後，大家都開始嘗試打開話匣子，開始了解對方，更相約好在晚上一起打撲克牌，過程中雙方都介紹了一些玩撲克牌的新玩法，其他組員更湊熱鬧參與其中之後，一起高談闊論，十分熱鬧！

第二天早上，我們乘坐專車到櫻島碼頭，再乘搭渡輪到鹿兒島市逛街。首先，我們到碼頭附近的足湯浸腳，溫熱的泉水使人行氣活血，有一種很舒服的感覺。之後，我們到天文館逛了一會兒，吃了色味俱佳的芝士薩摩燒，看到碩大無朋的背包。接著我們乘搭巴士上山參觀城山展望台，欣賞一望無際的鹿兒島市的景色。跟著我們到照國神社參拜，感受當地人參拜神社的習俗和氣氛。最後我們試了鹿兒島市著名的甜品白熊，享受冰涼消暑的快感。

最後一天我們一起製作活動匯報，分享自己的交流心得，便完成了



三日兩夜的大學生交流。





### Short summary:

I had an unforgettable experience in this exchange period. Not only did I have my Japanese improved due to the constant exposure to Japanese environment, but I also made a lot of friends. Every day I had a great time for the exposure to different Japanese cultures and people. Every night I had a great time with my local friends chatting all different topics and playing card games with full of laughter. I can never forget every moment I had with my friends and the lovely Japanese. The only regrettable thing is my fair command of Japanese hindering me to have fluent communication with Japanese people. I, however, will not be discouraged but conversely take this as a challenge to overcome. I strongly believe through my hard work, language is no longer an obstacle to my eager contact with Japanese cultures and people. If it is possible, I will definitely join similar Japanese exchange programmes next year in pursuit of a fruitful summer holiday.

相片









2013-14 年度  
日本鹿兒島暑期日語研修課程

Until next year...

